



# ジュニアユースの力 を解き放つ

ルビ・インスティテュート



Book 5



ジュニアユースの力を解き放つ

Releasing the Powers of Junior Youth

Version 2.1.1.PE

2023 年 9 月 21 日 翻訳

Book5



ルビ・インスティテュート

## Books in the Series:

Below are the current titles in the series designed by the Ruhi Institute. The books are intended to be used as the main sequence of courses in a systematic effort to enhance the capacity of youth and adults to serve their communities. The Ruhi Institute is also developing a set of courses that branch out from the third book in the series for training teachers of Bahá'í children's classes, as well as another set from Book 5 for raising up animators of junior youth groups. These, too, are indicated in the list below. It should be noted that the list may undergo change as experience in the field advances, and additional titles will be added as a number of curricular elements under development reach the stage where they can be made widely available.

|         |                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Book 1  | <i>Reflections on the Life of the Spirit</i>                                                                                                                                                                                             |
| Book 2  | <i>Arising to Serve</i>                                                                                                                                                                                                                  |
| Book 3  | <i>Teaching Children's Classes, Grade 1</i><br><i>Teaching Children's Classes, Grade 2 (branch course)</i><br><i>Teaching Children's Classes, Grade 3 (branch course)</i><br><i>Teaching Children's Classes, Grade 4 (branch course)</i> |
| Book 4  | <i>The Twin Manifestations</i>                                                                                                                                                                                                           |
| Book 5  | <i>Releasing the Powers of Junior Youth</i><br><i>Initial Impulse: The first branch course of Book 5</i><br><i>Widening Circle: The second branch course of Book 5</i>                                                                   |
| Book 6  | <i>Teaching the Cause</i>                                                                                                                                                                                                                |
| Book 7  | <i>Walking Together on a Path of Service</i>                                                                                                                                                                                             |
| Book 8  | <i>The Covenant of Bahá'u'lláh</i>                                                                                                                                                                                                       |
| Book 9  | <i>Gaining an Historical Perspective</i>                                                                                                                                                                                                 |
| Book 10 | <i>Building Vibrant Communities</i>                                                                                                                                                                                                      |
| Book 11 | <i>Material Means</i>                                                                                                                                                                                                                    |
| Book 12 | <i>Family and the Community</i>                                                                                                                                                                                                          |
| Book 13 | <i>Engaging in Social Action</i>                                                                                                                                                                                                         |
| Book 14 | <i>Participating in Public Discourse</i>                                                                                                                                                                                                 |

Copyright © 2009, 2020, 2023 by the Ruhi Foundation, Colombia

All rights reserved. Edition 2.1.1.PE published in September 2023

Printed in Japan

Originally published in Spanish as *Liberando los poderes de los prejóvenes*

Copyright © 2006, 2014, 2022 by the Ruhi Foundation, Colombia

ISBN 978-628-95102-2-5

Permission for a limited printing of this book in Japanese has been granted to BID by the Ruhi Institute.

Ruhi Institute

Cali, Colombia

Email: [instituto@ruhi.org](mailto:instituto@ruhi.org)

Website: [www.ruhi.org](http://www.ruhi.org)

# 目次

|                        |     |
|------------------------|-----|
| チューターのためのいくつかの考察 ..... | v   |
| 人生の春季.....             | 1   |
| 大いなる可能性に満ちた年頃 .....    | 57  |
| アニメーターとして奉仕する.....     | 105 |



## チューターのためのいくつかの考察

ルビ・インスティテュートは、1970 年代初頭の設立以来、社会において特別な存在である 12 歳から 15 歳の若者たち（ジュニアユースと呼ばれる人たち）に対する教育活動に取り組んできました。この年代の若者たちの理想主義やエネルギーを<sup>ま</sup>目の当たりにするにつれ、インスティテュートは、彼らが人生の複雑さに対処し、いたるところで強まる道徳的腐敗の力に対抗し、社会を変える積極的な担<sup>にな</sup>い手となるために、さまざまなテーマや概念を探求する機会を提供することが重要であると確信するに至りました。その後の数十年間は、発展の分野、特に識字率向上の分野での取り組みなど、さまざまな背景を持つジュニアユースとの世界中での経験を生かした行動と考察の期間となりました。2000 年頃には、ジュニアユースの精神性を高めるという概念が生まれ、それに伴い、人類のために知的・精神的な力を解き放つことを目指す 3 年間のプログラムのさまざまな側面が明らかになりました。

ルビ・インスティテュートの他の試みと同様に、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムは、草の根の遠隔教育システムを通じて提供されます。このプログラムでは、「ジュニアユース・グループ」「アニメーター」、そして、特定の一連のテキストという三つの主要な要素が含まれています。<sup>みき</sup>幹コースの 5 番目である本書、『ジュニアユースの力を解き放つ』は、村や近所の若者たちにこのプログラムに参加してほしいと考えている人たちを支援することを意図しています。本書は、幹コースから分岐した一連のコースの最初のもので、アニメーター（この名称そのものが、関連する奉仕の行動の性質を示しています）として奉仕するために必要な能力を個人が伸ばすのを援助するものです。このブックを学んだ人が全員、この分野の取り組みに進むとは限りませんが、本書で言及されているテーマからインスピレーションを得て、ジュニアユースの崇高な願望<sup>しか</sup>に然るべき注目を向けることの重要性を認識することが期待されます。これは、現在の社会で蔓延しているものとは異なる、若者に対する態度を促進する文化を創造するために不可欠な要素です。そのような環境において、このプログラムに直接携<sup>たずさ</sup>わっていない人でさえも、その始まったばかりの活動を援助する準備ができるようになるのです。

ブック 5 のチューターを務める人が認識すべきことは、参加者の中には、アニメーターとして奉仕したいという希望を表明し、そのために必要な潜在能力をすべて持って、一連の幹コースに参加した 10 代後半から 20 代前半の若者が多数いるであろうということです。その中には、若い世代の教育に自分たちが果たすことができる役割を強調する、仲間との話し合いを通じて、信教に出会うことになった人もいます。また、ジュニアユースとして、精神性を高めるプログラムを経験し、その後すぐにブック 1 の勉強を始めた人もいます。どのような経緯でインスティテュートのプロセスに参加することになったにせよ、彼らは今、村や近所の人々の中で、その改善のために尽力する個人の成長しつつある核の一部を形成し、その中で、信教の中心

となるテーマを家族とともに探求するために家庭を訪問する——ブック 2 で取り上げた奉仕活動——の経験を積んでいるはずですが。この核の一部として、彼らの多くは、地元の、少なくとも一つのジュニアユース・グループと密接な関係を持ち、様々な活動の実施においてアニメーターを支援し、プログラムに関する概念やアプローチについて話し合うために、定期的にアニメーターが親御さんを訪問するのに同行することになります。この時点では、彼らの全員がバハイの教えに関するかなりの知識を持ち、それはブック 3 とブック 4 の学習を通して深まり、友人や隣人と有意義な会話を始め、維持するのに必要なスキル、能力、態度、精神的資質を示していることでしょう。彼らにとって、ルビ・インスティテュートの幹コースに内在する、能力を育むプロセス、つまり「奉仕の道を歩む」という言葉で表されるプロセスの意義が明らかになるのは特にこの時点、ブック 5 に到達したときです。ジュニアユースのグループと共に、その精神性を高めるための 3 年間のプログラムに従事することは、大変な奉仕の活動であり、活動を始めたばかりのアニメーターがそれを行おうとする努力において、これまでの道のりで着実に築き上げた能力が少なからず必要となります。

本書の第一章「人生の春季<sup>しゅんき</sup>」は、信教の書物が示す、青年期を際立たせる属性に焦点を当てています。その分析から、神の大業と人類への奉仕において、各世代の若者によって為された貢献についてのビジョンが徐々に浮かび上がってきます。チューターは、参加者がこの章で展開されるビジョンに活力を得て第一章の学びを終えることを確実にしたいでしょう。なぜなら、このビジョンこそが、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムに活気を与え、ジュニアユースにその活動を提供する彼らの努力に方向性を与えるものだからです。

実際、第一章は、15 歳——バハイの教えでは成熟期の入り口とされる——で 3 年間のプログラムを修了し、青春期の「真っ盛り」を迎えるまでに、若い人たちにどんな特徴を身につけてほしいかを参加者に考えるよう促すことから始まります。この質問の目的は、プログラムの詳細を掘り下げたり、ジュニアユースの可能性について考えたりすることではないことを、チューターは理解しておく必要があります。この探究は、それぞれ本書の第三章と第二章で取り上げられる予定です。むしろ、ここでは、神の大業を擁護し、文明の進歩に献身する次世代の人々の中で役目を引き受ける若者の姿に、目下の焦点<sup>もっか</sup>を合わせることを意図しています。参加者にとって、この質問は、アニメーターとしてこれからすぐに取り組むことになる活動の本質への理解を高め、その後の話し合いに深い意味を持たせることになるでしょう。

このような背景から、この章では、ユースの時期に関連する概念をはっきり説明する、書物からの数々の文節を紹介します。この章の初めに紹介される概念には、奉仕、教育、将来への準備の相互関係という概念があり、この問題は時に、若者の心を悩ませます。ここで明らかにされることは、人生を全体として見たとき、そのさまざまな側面は、互いに対立するどころか、互いに補強し合うものであるということです。セクション 10 の質問は、このことが現実的にどのような意味を持つのか、参加者が考えるのを助けます。ただし、この質問が機械的に進められ、どの

ように、ある種の人生の選択と考え方が、想像上の二項対立とそれらが創り出す緊張を生み出すかを理解し損なうことのないよう、注意が必要です。

この章で扱われるもう一つの、かつ、この章の目的において主要な概念は、二重の道義的目的です。もちろん、参加者のみなさんは、これまでのブックでこの概念についてはよくご存じでしょう。本書では、この概念をより深く扱っており、特に、二重の変革——バハイの書物の中で描写される、個人のレベルと社会構造のレベルにおける変革——の説明から始まる、この概念の探究に特化したセクションに特に注意を払う必要があります。この章では、若者が自らの知的・精神的成長を担うとともに、社会の進歩に永続的な貢献をするための強い目的意識を育むべきことが示唆されています。さらに、道義的目的のこの二つの側面は補完的であり、基本的に切り離せないものであると主張します。なぜなら、個人の基準や振る舞いは彼らの環境を形成しますが、同様に、それは社会の構造やプロセスによって形成されるからです。参加者の中には、この主張の意味を理解するのが難しいと感じる人もいるかもしれませんが、それはセクション 16 の質問で検証されます。一方では個性や個人の自由をあまりに重視し、他方では社会的勢力や政治的プロセスの重要性をあまりに強調する傾向がある、支配的な世界観は、現実を歪め、信念や思考パターンを、時には気づかないうちに、形成することがあります。この質問をグループで行う場合、チューターは、上述の世界観がもたらし得る課題を認識し、必要であれば、セクションで引用された守護者の声明と一貫性のない主張を認識できるよう、メンバーを支援する必要があります。二重の目的という概念の探究は、そのような目的を実現できるのは奉仕の分野だけであるという提言で締めくくられます。この章では、奉仕とは、個人の潜在能力を発揮させることと、社会の進歩を結びつけるものであるということが示されます。

第二章の題は「大いなる可能性に満ちた年頃」で、ジュニアユースと、彼らが持つ計り知れない可能性について取り上げています。この章は、ジュニアユースとは、独自の特徴——彼らを子ども扱いすることがいかに間違ったやり方であっても、ますます多くの場所で根付いていることが観察されるやり方、すなわち、その本質において表面的に、成人期を模倣するよう奨励することが同様に見当違いであるということに疑う余地を残さない特徴——を持つ明確な年齢層の一員であるという理解を、学ぶ人たちの心に定着させようとしています。この章では、バハイ共同体がこの年齢層に対して採用しているアプローチが、信教の書物によって形作られ、若きルホラのような模範によってインスピレーションを受けたものであり、ジュニアユースを反抗的で危機的状況に陥りやすい存在として描いている多くの、一般に普及している仮定や理論に基づいたアプローチとは根本的に異なるものであることを明らかにしたいと考えています。

上記の目的を念頭に置いて、この章では思春期初期の性質を簡潔に見てから、この年代の若者の意識の高まりを適切に導くという課題について参加者に熟考してもらいます。ここで、警告が提示されます。つまり、このような努力は、人生の形成期にある若者の高まる自己認識を

無私の奉仕に向けるのではなく、「自己」に向けさせ、悲しいことに、最終的には彼らを「執拗<sup>しつよう</sup>な自我」の虜<sup>とりこ</sup>にしてしまうような、いくつかのプログラムの落とし穴を避けなければならないという警告です。セクション5から9では、バハイの書物から関連する一連の引用文を紹介することで、この落とし穴の微妙な危険性について、参加者に注意を促そうとしています。この章では、若い人たちの生活に及ぼす社会環境の影響について考察し、相互支援の環境としての「ジュニアユース・グループ」の概念を紹介し、そのようなグループのアニメーターとして奉仕しようと立ち上がるすべての人が取るべき姿勢を定義します。

第三章「アニメーターとして奉仕する」は、ある意味で第二章が終わったところから始まり、この奉仕の行いの本質を参加者にさらによく知ってもらおうとするものです。ジュニアユース・グループの特徴のいくつかを確認した後、このプログラムの中核をなすテキストの検討に入ります。この章のかなりの部分がこの検討に割かれますが、それは参加者にテキストを単に説明するのではなく、精神性を高めるプロセスがどのようなもので、テキストがどのようにその原動力を育<sup>はぐく</sup>もうとしているかについての洞察を参加者に提供するのが目的だということをチューターはよく理解している必要があります。テキストからの抜粋が随所に含まれていますが、二冊のテキスト(『確証のそよ風』と『信仰の精神』)はその全文が分析されるので、参加者はコピーを手元に用意しておく必要があります。

精神性を高めるという問題は、一般的に、多くのことを考え、考察することがチューターに求められます。実際、インスティテュートのコースによって開始される教育プロセスは、最終的な分析においては、あらゆる階層、あらゆる背景をもつ人々がそれを通して立ち上がり、より良い世界の建設に参加することを可能にする、道徳的・精神的エンパワーメントの手段と見なすことができます。ここで用いられている力の概念は、他者を支配する意図や、他者を自分の望みや要求に従わせる意図と結びつける、一般に広まっている定義とは大きく異なります。その代わりに目指すのは、人間の精神が持つ力、すなわち和合の力、愛の力、謙虚な奉仕の力、純粋な行いの力を流す経路となることです。このようなプロセスを前進させる、いや、加速させるために必要な力学にどのように貢献するかが、チューターとして奉仕する行為の中心的なものであり、コースの学習に次々とグループに参加させ、チューターとしての経験を積むことで、どのチューターも、真の理解を育むこと以上に強力なものはない、相互作用する多くの要因<sup>かいかい</sup>を垣間<sup>ま</sup>見ることができるようになるでしょう。

本書において、当然、チューターが抱く関心はさらに次の世代へと広がり、若い人たちが新たに芽生えた力を実りある形で発揮できるようにするための教育プロセスのあり方へと向けられています。このプロセスの中心にあるのは、相互に強め合う二つの力、思考力と表現力です。思春期初期に飛躍的に高まる抽象的思考に取り組む知性の力は、ジュニアユースの中で、関連する科学的、道徳的、精神的概念を、自分を取り巻く世界の分析や、社会に対して行動しよ

うとする最初の試みに適用することを学ぶにつれて強化されます。しかし、それらがどれほど重要であっても、合理的な分析の力には精神的認知力が必要です。知力を行使するだけでは得られない理解の道が、精神的認知力によって開かれるからです。ジュニアユースが健全な道徳的選択をするためには、彼らが遭遇する状況において、精神的な力を認識し、精神的な原則を識別できるように手助けしなければなりません。人の思考と行動を支配する道徳構造が、その人が思考を表現する言語構造と密接に結びついていることは、構想されている教育プロセスの基礎となる前提です。ブック 5 の最初の二つの章がこのプロセスについてどのような洞察を与えたにせよ、第三章のセクション 5 から 19 までは、必要に応じて、プログラムで使用されているテキストから例を引きながら、そのさまざまな側面を明確にすることに努めています。すべてのチューターは、グループを導く準備として、これらのセクションを注意深く見直すといひでしょう。参加者がこの学習から、多様な文化を超えてジュニアユースを力づけることができるテキストの可能性を理解することが期待されます。

この議論を踏まえて、参加者は二冊のテキストを分析する機会を与えられます。一冊は「バハイの考えに基づく」というカテゴリーに入るもので、もう一冊はこのプログラムのはっきりとしたバハイの要素を表すものです。この二つのカテゴリーは、この章の早い段階で参加者に紹介されます。『確認のそよ風』と『信仰の精神』を読み考察することは、扱われているテーマや概念、使われている言葉において、二冊のテキストが上記のプログラムの目的にどのように貢献しているかを理解する助けとなることを意図しています。たとえば、前者で扱われている確証の概念、すなわち、価値ある目標に向かって努力すれば、神の確証を引きつけるという概念は、世界中の若者の心に響くものです。このテキストを学ぶことで得られる理解は、新しいことや困難なことに挑戦する際に、「自分」を強調しすぎる、あまりに攻撃的な行動を起こすことなく、不安やそれに伴う自信のなさ克服するのに役立っているようです。このように、このテキストの中で展開されるシンプルでありながら奥深い物語は、通常、ジュニアユースが最初に学ぶものの一冊であり、社会の構造を引き裂く崩壊の力、すなわち、高貴な存在としての真のアイデンティティを奪おうとする力から、少なくとも部分的には、彼らを守る道へと多くのジュニアユースを導くものです。

同様に、『信仰の精神』で提供される概念の明確化は、それぞれの背景を持つジュニアユースが、人生のこの時期に心を占め始める哲学的論点を深く考察し、精神的な論点と物質的な論点の間に存在する複雑なつながりを見出す助けとなります。取り上げられる概念の中には、例えば、肉体の進化や人間の精神の出現などがあります。チューターが理解すべきことは、ブック 5 を学び、アニメーターを目指す若者の多くにとって、彼ら自身がジュニアユースの時期に精神性を高めるプログラムを修了していない限り、『信仰の精神』を読み考察することは、提示された概念を系統的に探求する最初の機会となり、その意味を考え抜くのに必要な時間が与えられるべきであるということです。

『信仰の精神』を読み考察することの結びとして、参加者は科学と宗教の調和という原則について——テキストで明示的に扱われた一概念としてではなく、テキスト全体の話し合いを下支えする概念として——考えるよう促されます。ここで示唆されるのは、科学と宗教は、文明を進歩させるための知識と実践の補完的な二つのシステムとみなすことが可能だということです。これについて熟考することの重要性は、参加者、特にこの奉仕の分野へ進むことを準備している人たちに見逃されるべきではありません。結局のところ、現実をより完全に理解することが精神性を高めるプロセスに不可欠であるならば、ジュニアユース向けのテキストは、必然的にこれら両方の知識源を活用しなければならないのです。

テキストの学習は、プログラムに参加するどのジュニアユース・グループにとっても第一の焦点となりますが、メンバーはその他の活動も一緒に行います。これには、奉仕プロジェクト、スポーツ、美術や工芸、時折の特別行事が含まれます。セクション 25 と 26 では、これらの活動に関連する原則やアイデアをいくつか紹介していますが、その具体的な内容は、地域の状況に応じて考え出される必要があるため、あまり詳細に踏み込むことは控えています。とはいえ、プログラムの中で、奉仕プロジェクトの企画と実施に重点を置くことが望まれます。奉仕は、先に述べた二重の道義的目的が現れる場を提供するからです。この点で、参加者は、そのようなプロジェクトが、仲間のアニメーターとのミーティングにおいて頻繁に協議の対象となることを理解することが大切です。

ジュニアユース・グループの結成をどのように助けるか、最初の数回のミーティングをどのように行うか、プログラムの性質や、親御さんとその息子や娘の進歩についてどのように話し合うか、といった洞察を分かち合いながら、アニメーターの仕事に関するいくつかの事柄を論じて、この章は終わります。参加者は最初から、アニメーターとして効果的に奉仕するために必要な能力は、継続的な経験と、ブック 5 から枝分かれしたコースの学習を通して、時間の経過とともに発達していくことを認識すべきです。そのためには、10 代後半から 20 代前半の、人生の春季を迎えている多くの若者が、ジュニアユースの教育に対して、その能力を発揮できるようなレベルのコミットメントが必要です。彼らの仲間の中から、この奉仕の専門的な道を歩み、グループを次々と精神性を高めるプログラムに従事させ、このようにして次世代の約束が果たされることを確実にする人たちが、ますます増えていくことでしょう。



# 人生の春季

## 目的

ジュニアユースの精神性を高めるプログラムを彼らに  
提供する上での必要条件として、ユースを際立たせる  
いくつかの特質について理解を深めること。



## セクション 1

12 歳から 15 歳は、人生の中で特別な時期であり、幼少期を後にし、大きく変化する時期です。まだユースになりきっていない、この年代は、「ジュニアユース」と呼ばれることもあります。ジュニアユースの精神的、知的能力を高め、彼らが属する共同体の諸々の事柄に効果的に参加できるよう準備するための活動を彼らに提供することは、最も重要な奉仕の行いです。本書の三つの章では、ルビ・インスティテュートが推進する、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムを実践しようとする人たちに必要だということが経験によって示されている、概念、技術、資質、態度のいくつかに焦点を当てています。

プログラムを構成する活動は、通常、地域レベルの小グループで実施されます。そのようなグループの取り組みを励ます人として、あなたは、比較的短い時間のうちに、成熟の入り口である 15 歳に達し、新しい責任を担うことになる、数人のジュニアユースの精神的・知的発達に関心を持つことになるでしょう。この最初の章では、ジュニアユースの属性というよりも、信教の書物が示唆する、彼らが成長したときにどのような若者になるべきかということについて考えていきます。これから学ぶ文節から明らかになるのは、あらゆる世代の若者を際立たせるいくつかの特徴と、彼らの人生を形作るべき特定の勢力があるということです。もちろん、あなた自身が 10 代後半から 20 代前半の若者である可能性もあるでしょう。その場合、この章で紹介される資料は、あなた自身の目標と優先順位を検討する機会を与えてくれることでしょう。

## セクション 2

まず、あなたがこれから一緒に学ぶことになるジュニアユースのグループを考えてみましょう。これから 3 年間、彼らと頻繁に会い、真の友人として、一緒に勉強したりアイデアを探究したり、簡単な奉仕プロジェクトを計画し実行したり、その経験から、グループとして学んだことを振り返ったりするのを支援することになります。ここで少し時間を取って、彼らがプログラムを修了する 3 年後のことを考えることは価値があるでしょう。若い友人たちを際立たせるであろうあなたが願う特徴を、心の中で明確にするために、このコースを学ぶ参加者と一緒に、以下の質問に答えてください。

1. あなたが思い描く若者は、高い目的意識を持っているでしょうか？彼らはその目的をどのように考えるでしょうか？ \_\_\_\_\_

---

---

2. 彼らに、そのエネルギーの大半を何に注いでほしいですか？ \_\_\_\_\_

---

---

3. 彼らが自らの理想に向けて努力する動機となるのは何でしょうか？ \_\_\_\_\_

---

---

---

4. 彼らは、今日、人類が直面している課題をどの程度認識しているのでしょうか？ 世界をより良い場所にするために、自分たちが実際に貢献できると確信しているのでしょうか？

---

---

---

---

5. あなたは、若い友人たちと一緒に過ごす中で、学びに対するある種の姿勢を彼らに身につけてほしいと自然に思うことでしょうか。この姿勢は、以下の声明に反映されています。あと2、3個、追加できますか？

- 彼らは勉強熱心で、学んだことを実行に移そうとする。
- 自分の行動の結果を振り返る習慣がある。
- オープンマインドで、謙虚に学ぼうとする。
- 人類に奉仕する能力を養いたいと熱心な願いをもっている。
- 何をするにも、優秀さを達成することを切望している。
- 科学や芸術を学ぶことに熱心である。
- 人類の進歩のために働くことを学ぶことに、個人としての知的・精神的成長から得られるのと同じほどの大きな喜びを感じる。

---

---

---

6. 次の記述のうち、あなたが想定している若者の振る舞い方を表すものはどれですか？

\_\_\_\_\_ 彼らの基準は、世界的な傾向や流行によって若者に設定されたものと、多かれ少なかれ一致することになる。

\_\_\_\_\_ 彼らは、自分たちの生活を治める基準を大衆的なメディアに求めるようになる。

\_\_\_\_\_ 彼らは、困難な課題にもかかわらず、高い道徳的基準に従って生きようと努力する人たちの足跡をたどるだろう。

\_\_\_\_\_ もし自分の行動が自分の信念と矛盾している状況が生じたとき、彼らはそれを見抜くことができるだろう。

\_\_\_\_\_ 彼らは、人類の一体性、男女の平等、正義などの理想を信じますが、彼らの行動は、そのような理想のレトリックに熟達しながらも、実際にはそれを支持することができない社会において受け入れられた規範をより忠実に反映することになる。

\_\_\_\_\_ 彼らは、高い基準を支持しない社会環境の中で快適に暮らすために、高い基準を捨てるだろう。

7. 以下の文章は、純粋で純潔な生活が意味することを表しています。あなたが想像しているユースにとって、このような意味について考えることができることは、どれほど重要だと思いますか？このリストに、他にいくつか加えることができますか？

- 軽はずみな行動をとらないこと。
- 些<sup>ささい</sup>細な喜びや、的外れな喜びから離れること。
- 世俗的な喜びによって、自分の高い目的から目をそらすことを許さない。
- 流行が純潔の基準に反する場合、流行に従わないこと。
- 純粋さとは、婚外の性的関係を避けることだけを意味すると思わないこと。
- 服装に節度を持つ。
- 話し方に節度を持つ。
- 娯楽の選択に節度を持つ。
- 慎み深く、謙虚であることにおいて際立つこと。
- 嫉妬や妬みから解放されていること。
- 純潔、品位、清らかな心によって際立つこと。
- 低俗な熱情を油断することなく抑えること。

\_\_\_\_\_

—  
—  
8. 若い友人たちと過ごす数年間で、以下に示すことができるよう、彼らの知的・精神的な力がどれほど強くなることを望んでいますか？

- 困難を克服する。
- 目的を達成するための努力を諦めずにやり通す。
- 高い道德基準に反して行動するよう求める圧力に抵抗する。

### セクション 3

では、ここで、信教の聖典からいくつかの文節を読み、ユースをどのように表現しているか検証してみましょう。アブドル・バハはこう述べておられます。

おお、アブドル・バハに愛される者らよ！人の一生には春の季節があり、その時期にはすばらしい栄光が賦与<sup>ふよ</sup>されている。青年期は力と活力によって特徴づけられ、生涯で最も抜きん出た時期として際立っている。それ故、あなた方は天来の力を授かり、輝かしい動機<sup>こぶ</sup>に鼓舞され、神の天なる力と聖なる恩寵<sup>おんちよう</sup>と確証<sup>ひい</sup>に助けられて世の飾りとなり、真の知識と神の愛を伝授された者らの中で秀でた存在となるよう、日夜努力しなければならない。あなた方は、高潔と超脱、目的の高遠性、おおらかさ、決断力、心意気の気高さ、粘り強さ、志<sup>こころざし</sup>や精神的資質の高さにおいて際立っていなければならない。神の大業の称揚と栄光のための手段となり、彼の聖なる賜物<sup>たまもの</sup>が曙光を放つ地となるように。『祝福された美』——わが人生が彼の愛し給う者らに捧げられんことを——の助言や勧告に従って振る舞い、バハイの資質と属性を映し出すことによって他の人から際立って卓越するように。アブドル・バハはあなた方一人一人が、人間の完全性の牧草地を走る恐れを知らないライオンのように、また、美德<sup>ただよ じゃこう</sup>の草地を漂う麝香を帯びたそよ風のようになることを切望している。<sup>1</sup>

1. 上記の引用文を参照して、以下の文章を完成させましょう。

- a. 人の一生の春の季節には\_\_\_\_\_が<sup>ふよ</sup>賦与されている。
- b. 青年期は\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_によって特徴づけられる。
- c. 青年期は、生涯で\_\_\_\_\_として際立っている。
- d. 青年期に、私たちは\_\_\_\_\_を授かり、\_\_\_\_\_に鼓舞され、神の\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_に助けられて世の\_\_\_\_\_となるよう、日夜努力しなければならない。
- e. 青年期に、私たちは\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_を伝授された者らの中で<sup>ひい</sup>秀でた存在となるよう、日夜努力しなければならない。
- f. 青年期に、私たちは、\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_において際立っていなければならない。
- g. 青年期に、私たちは、目的の\_\_\_\_\_において際立っていなければならない。
- h. おおらかさ、決断力、心意気の\_\_\_\_\_、粘り強さ、\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_資質の高さにおいて際立っていなければならない。
- i. 青年期に、私たちは、\_\_\_\_\_の称揚と栄光のための\_\_\_\_\_となり、彼の\_\_\_\_\_が\_\_\_\_\_となりなければならない。
- j. 青年期に、私たちは、『祝福された美』の\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_に\_\_\_\_\_振る舞うよう努力すべきだ。
- k. アブドル・バハは、ユース一人一人が、\_\_\_\_\_の牧草地を走る\_\_\_\_\_のように、また、\_\_\_\_\_の草地を<sup>ただよ</sup>漂う\_\_\_\_\_のようになることを切望しておられます。

2. おそらく、みなさんは、世間に広まっている、次の考え方を何らかの表現で耳にしたことがあるでしょう。それは、「ユースは、すぐに人生の深刻な事柄に直面することになるのだから、楽しむことに集中すべきだ」というものです。このような観念は、アブドル・バハの上記の声明と明らかに一致しません。この一般的な考え方の根底にある前提には、どのようなものがあるでしょうか？ この質問について、今日、一緒に勉強している友人たちのグループで話し合い、その結論をここに書いてください。

---

---

---

---

---

#### セクション 4

次の祈りの中で、アブドル・バハはユースに対して抱いている希望のいくつかを表現されています。

おお親切なる主よ。巣立ちを迎えたこれらの小鳥たちに天来の翼を恵み給え。そして、彼らがこの無限の空間を飛翔し、アブハの王国の頂点にまで舞い上がることができますよう、彼らに精神的な力を授け給え。

おお主よ。これらのか弱い若木のそれぞれが、青々と生い茂り、実をもたらす木となるよう強くなし給え。あなたの天上の軍勢の力によってこれらの魂に勝利をもたらし給え。それにより、彼らが、過ちと無知の勢力を粉碎し、人々の間で親睦と導きの旗を翻すことができますように。また、生命をよみがえらせる春の息吹のように人間の魂の木を生き返らせ、活気づけ、春のわか雨のように、その地域の牧場を青々とさせ、肥沃にさせますように。

あなたは強大なる御方におわし、力強き御方にまします。あなたは授け給う御方、すべてを愛し給う御方におわします。<sup>2</sup>

1. 上記の引用文をもとに次の文を完成させましょう。

- a. アブドル・バハは、青年期の初期にいる人たちを、一対の \_\_\_\_\_ を必要とする、巣立ちを迎えた小鳥にたとえ、彼らが無限の空間を \_\_\_\_\_、アブハの王国の \_\_\_\_\_ できますよう、 \_\_\_\_\_ を彼らに授け給うよう、神に求めています。
- b. アブドル・バハは、青年期の初期にいる人たちを、か弱い \_\_\_\_\_ にたとえ、彼らが \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ となるよう強くなし給えと神に懇願しています。
- c. アブドル・バハは、彼らが、 \_\_\_\_\_ と \_\_\_\_\_ の \_\_\_\_\_ を粉碎し、 \_\_\_\_\_ と \_\_\_\_\_ の \_\_\_\_\_ を翻すことができるよう、彼らに勝利をもたらし給えと懇願しています。
- d. アブドル・バハは、彼らが生命を蘇らせる \_\_\_\_\_ の \_\_\_\_\_ のように、 \_\_\_\_\_ の木を \_\_\_\_\_、活気づけ、 \_\_\_\_\_ のように、その地域の牧場を \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ にさせますようにと祈っています。

2. 祈りの中で、アブドル・バハはユースに精神的な力を授けるよう神に求めています。精神的な力と聞いて、あなたは次のどれを連想しますか？

- \_\_\_\_\_ 目的の崇高さ  
\_\_\_\_\_ 神に頼ること  
\_\_\_\_\_ 純潔  
\_\_\_\_\_ 悪賢さ  
\_\_\_\_\_ 競争心  
\_\_\_\_\_ 連帯  
\_\_\_\_\_ 心のまっすぐな性格  
\_\_\_\_\_ 世俗的な野心

- \_\_\_\_\_ 社会的地位への渴望
- \_\_\_\_\_ 神への愛
- \_\_\_\_\_ 贅沢への愛
- \_\_\_\_\_ 度量の大きいこと
- \_\_\_\_\_ 魅力的な容姿
- \_\_\_\_\_ 課題を達成する強い意志
- \_\_\_\_\_ 気高い心
- \_\_\_\_\_ 寛大さ
- \_\_\_\_\_ 他の人を支配したいという望み
- \_\_\_\_\_ 確固不動と不屈さ
- \_\_\_\_\_ 謙遜
- \_\_\_\_\_ 自らの業績・成果へのプライド
- \_\_\_\_\_ 傲慢<sup>ごうまん</sup>さ
- \_\_\_\_\_ 意図の純粹さ

3. この祈りの中で、アブドル・バハはユースが過ちと無知の勢力を粉碎することができるよう、神に求めています。そのような勢力との闘いにおいて、ユースを助けるものは次のうち、どれでしょうか。

- \_\_\_\_\_ 善悪を見分ける能力
- \_\_\_\_\_ 他の人を操る能力
- \_\_\_\_\_ 深い考えを明確に表現する能力
- \_\_\_\_\_ 偏見を認識し、克服する能力
- \_\_\_\_\_ 物質的な手段を適切に使う能力
- \_\_\_\_\_ 自分の個人的な目標を達成するために、他の人をコントロールする能力
- \_\_\_\_\_ 自分の低次の熱情をコントロールする能力
- \_\_\_\_\_ 思考の一致に貢献する能力
- \_\_\_\_\_ 自分の判断において公平である能力
- \_\_\_\_\_ 正義を推進する能力

4. 祈りの中で、アブドル・バハはユースが親睦と導きの旗を翻すことができるよう神に求めています。そのような努力において、ユースを助けるものは次のうち、どれでしょうか。

- \_\_\_\_\_ 友情の絆を築く能力
- \_\_\_\_\_ 他の人の話を注意深く聞く能力
- \_\_\_\_\_ 落ち着いて困難に向き合う能力
- \_\_\_\_\_ 他の人の欠点や短所を特定する能力
- \_\_\_\_\_ 他の人の欠点や短所を大目に見る能力
- \_\_\_\_\_ 無私の心で社会に奉仕する能力
- \_\_\_\_\_ 他の人の成功を喜ぶ能力
- \_\_\_\_\_ 他の人に希望をもたらす能力
- \_\_\_\_\_ 他の人と協力する能力
- \_\_\_\_\_ 他の人の福利を顧みず、自分の利益を優先する能力
- \_\_\_\_\_ 自らのコミュニティ(共同体)の福利を推進する能力

## セクション 5

先の二つのセクションで学んだ引用文は、ユースが持つようになるべき特性のいくつかについて洞察を与えてくれました。若者が 15 歳になる頃には、彼らに多くのことが期待されるようになるのは明らかです。実際、聖典において 15 歳は成熟期の始まりとされていることはご存知の通りです。この年齢で、祈りや断食に関連するバハイの法が個人に課されるようになります。成熟期への移行について、アブドル・バハは次のように述べています。

乳飲み子<sup>ちのこ</sup>は、体が完全に成熟するまで、各段階で成長、発達しながら様々な身体的段階を経過する。成熟期に達すると、精神的、知的完全性を表す能力を備えている。理解力、知性、知識の光がその中に感知されるようになり、その魂の力が明らかにになる。<sup>3</sup>

そして、個人が十分な発達段階に達するときのことを、アブドル・バハは次のようにおっしゃっています。

(成年に達すると)物事の実体と内なる真理を人は理解する。実に、その理解力、感情、推論、発見において、成熟に達した後の人生の一日一日は、それ以前の一年に匹敵する。<sup>4</sup>

1. アブドル・バハの上記の声明に照らして、ユースについて検討できる多くの考えがあります。次のうち、どれが 15 歳の人に当てはまると思いますか？彼または彼女は、

- \_\_\_\_\_ 生と死の意味を考える精神的 능력がある。
- \_\_\_\_\_ それが楽しさの外観に覆われている時にだけ、深遠なテーマについて考えることができる。
- \_\_\_\_\_ 自分の人生に影響を与えている勢力を特定し、分析する知的能力を持っている。
- \_\_\_\_\_ 勤勉に課題を遂行する能力を持っている。
- \_\_\_\_\_ 困難なチャレンジを克服する精神的な能力を持っている。
- \_\_\_\_\_ 子どもの精神的な教育のためのクラスを開く能力がある。
- \_\_\_\_\_ 雄弁さと説得力をもって、信教の教えと原則を説明する能力がある。
- \_\_\_\_\_ 親の支援と愛情を必要としない。
- \_\_\_\_\_ バハイの法を守る責任を負うことができる。
- \_\_\_\_\_ 社会的プロセスを理解する知的能力を持っている。
- \_\_\_\_\_ 社会に対して有意義な奉仕に取り組むことができる。

## 2. 次の祈りを暗記してみましょう。

おお主よ、この若者を輝く者となし、この哀れな者にあなたの<sup>たまもの</sup>賜物を授け給え。この若者に知識を与え、毎日夜明けに力をいや増させ、保護の<sup>てんがい</sup>天蓋の中に守り給え。さればその若者は、<sup>あやま</sup>過ちから解き放たれ、大業への奉仕に身をささげ、道から<sup>そ</sup>逸れた者を指導し、不幸な者を導き、とらわれの身にある者を解放し、無思慮な者を目覚めさせるでありますう。それにより、すべての人々があなたを思い、ほめたたえることで祝福されましよう。あなたは強大にして力に満ち給う御方におわします。<sup>5</sup>

## セクション 6

若者が15歳で成熟期の入り口を越えるとき、ある種の身体的、知的、精神的な力が明確になります。子ども時代の態度、思考、習慣を捨て去ることが求められ、新たな能力が<sup>つちか</sup>培われるのです。これらの力を神の大業と人類への奉仕に向けることは、青年期の盛りに始められなければならない。バハオラは次のように述べておられます。

人生で最も<sup>けっき</sup>血氣盛んな時期、青春期の真っ盛りに、初めと終わりの主の大業に仕えるために立ち上がり、心を彼の愛で<sup>さいわ</sup>飾る者は幸いである。

このような恩寵の現れは、天と地の創造にも優<sup>まさ</sup>るものである。確固たる者は祝福され、断固とした者は幸いである。<sup>6</sup>

各世代のユースが大業に捧げる奉仕は、進歩のために不可欠です。ショーギ・エフェンディの代理によって書かれた手紙では、彼らが為す貢献の重要性が強調され、神の大業の目的を推進するために働く人々の間で「無私の奉仕の精神を継続させる責任のすべてを(守護者は)この若者たちの肩にかけておられ」と述べています。「その精神なしには、いかなる仕事も成功させることはできません」と手紙の記述は続いています。

奉仕の分野においてユースを特にふさわしい存在とする特性について、万国正義院はすべての全国精神行政会へのメッセージの中でこう書かれています。

困難な状況下での若者たちの忍耐力、その活力や精力、その土地の状況へ適応する能力、新しい挑戦へ十分に対応する能力、訪問する人々と自分の温情や熱意を分かち合う能力と、それらに結び合わされた、パハ<sup>ようご</sup>イの若者が擁護する振る舞いの水準によって、若者たちは、想定されているプロジェクト実施のための強力な手段となります。まことに、これらの際立った特質によって、若者は、地域的なものであれ全国的なものであれ、参加するどの事業の先兵<sup>せんべい</sup>ともなり得ますし、どの取り組みの原動力ともなることができるのです。<sup>7</sup>

そして、世界中のユースに向けて、正義院はさらに次のように説明しています。

皆さんの置かれている実情は、様々に異なるでしょうが、建設的な変化をもたらしたいという望みと、有意義な奉仕のための能力は、共に、ユースという世代を特徴づけるもので、人種や国籍によって限定されるものではなく、また、物質的な豊かさに左右されるものでもありません。皆さんが共有する、この輝かしいユースという時期は、万人が経験<sup>ぼんにん</sup>するものです。…<sup>8</sup>

1. 上記の引用文をもとに、次の文を完成させましょう。

- a. 青春期の真っ盛りに、神の大業に仕えるために立ち上がり、心を彼の愛で飾る者は  
\_\_\_\_\_である。

- b. 若者の肩には、神の大業を推進するために働く人々の間で\_\_\_\_\_の\_\_\_\_\_を継続させる責任がかかっている。
- c. 若者の肩にその維持がかかっている、無私の奉仕の精神なしには、いかなる仕事も\_\_\_\_\_させることはできない。
- d. 困難な状況下での若者たちの\_\_\_\_\_, その\_\_\_\_\_や\_\_\_\_\_は、彼らを計画とプロジェクト実施のための強力な手段とします。
- e. 計画とプロジェクト実施のための強力な手段として、若者は、その土地の状況へ\_\_\_\_\_する能力、新しい挑戦へ\_\_\_\_\_能力、訪問する人々と自分の温情や熱意を\_\_\_\_\_能力を発揮します。
- f. これらの際立った特質によって、若者は、参加するどの事業の\_\_\_\_\_ともなり得ますし、どの取り組みの\_\_\_\_\_ともなることができます。
- g. 世界中の若者の置かれている実情がなんであれ、\_\_\_\_\_を\_\_\_\_\_たいという望みと、\_\_\_\_\_のための能力は、ユースという世代を特徴づけるものです。

## セクション 7

一般的に、ユースが行う奉仕活動には、自発性、興奮、想像力をかき立てる可能性を追求する自由など、多くの概念が関連付けられています。これらの概念を奉仕に結びつけることには一定の妥当性がありますが、それを強調しすぎないように注意すべきです。そうすることで、ユースの活動を一連の刺激的なイベントに引き下げ、プロセスの本質を理解することの価値や、系統的に行動するための規律を学ぶ必要性を軽視する習慣に容易に陥るからです。村や近隣の精神的基盤を強化するために、信教の教えや原則が適用されている系統的なプロセスを考えてみてください。例えば、子どもたちの精神的教育、共同体生活の強化、人材育成などです。では、このコースを学んでいる友人たちとともに、ユースによって為されるもので、このようなプロセスに貢献する奉仕活動をいくつか思い浮かべてください。それらの活動は喜びをもたらさないでしょうか。また、適度な自発性が認められていないでしょうか。規律正しいやり方で自発性を発揮することを通して、創造性を奨励しないでしょうか。



そのため、準備の問題が、学業——学問、職業教育、専門職に就くための教育であれ——と信教への奉仕の関係に関する他の問題を引き起こすことも少なくありません。具体的には、若者がそれぞれにどれくらいのエネルギーを注ぐべきかが明確でないことがあります。一方の極端な例としては、ユースには学業に専念し、人生経験を積んでから、一つ、またはそれ以上の分野の奉仕活動に真剣に取り組むよう勧めるといものがあります。「いかなる場合も、可能な範囲内の教育を受け、生計を立てるために必要な仕事や職業を身につけることの重要性を認識しなければなりません」というのは事実です。しかし、万国正義院が明らかにしているように、「実りある青年期を」専ら職業に就く準備の段階「としてのみ定義する」ことは、次のようなことを意味するでしょう。

若者が利用できる満ち溢れる創造的力を見過ごすことになります。結局のところ、信教初期の英雄たちの多くは、最愛なる御方のために最も偉大な行いをなそうと立ち上がった若き男性や女性たちだったのです。<sup>10</sup>

もう一方の極端な例は、ユースが学問的教育や職業訓練を完全に放棄し、特にこの好機の時期に、そのエネルギーを完全に奉仕の分野に費やすことを奨励することです。奉仕がすべてのユースの人生の中心であるべきであることは、前のセクションで学んだような多くの文節から明らかです。勉学を中断するか否かにかかわらず、奉仕の集中的な期間が「(将来への)準備として価値ある一つの要素」になり得ることもまた明らかです。同時に、万国正義院はこうも述べておられます。

奉仕の道において大きな貢献ができる彼らの活躍に期待するのはもっともなことです。が、成熟への発展が何を意味するのかについて、友人たちは狭い視野をもたないよう気をつけなければなりません。移動の自由があり時間が存分に使えることにより、多くのユースは共同体のニーズに直接関連する方法で奉仕することができますが、二十代に進むにつれて、彼らの視野は広がっていきます。…多くのユースは、目の前の可能性に応じて、大学への進学や職業教育などさらなる教育をまず優先することになり、社会との新しい交流の場が開かれます。…大人になってからの人生の方向性について下す重要な決断は、神の大業への奉仕が、若い頃の短く思い出に残る期間にすぎないのか、それとも、地上での生存における確固たる中心となり、全ての行動がその焦点を通ることになるレンズとなるかを決定します。<sup>11</sup>

[illegible]

前のセクションであなたが書いた文章は、ユースが学問的教育を受けたり、職業や専門的な訓練を受けたりすることによって、彼らが受け継ぐことになる世界のために自分自身を十分に準備することがいかに重要であるかを強調しているのは間違いないでしょう。しかし、あなたはまた、勉強している間に大業への奉仕を「保留」にすることはできないということも指摘したはずです。そのような態度は、年齢を重ねるにつれて、将来にわたって続く傾向があり、本格的に奉仕を始めるための適切な状況を生涯待ち続けることになりかねません。このような学問と奉仕の関係の見方は、教育が書物による学習という点のみで定義されている場合に生じ得ま

す。その代わりに、奉仕を、知識が応用され、知性が発展する場として捉えれば、このような考え方は容易に回避され、奉仕は将来への準備の健全なプロセスの一部であるだけでなく、中心的なものであるとみなされます。実際、大業への奉仕を青春の盛りに始めれば、それは生涯を通じての指針となり、その人が適切な進路を描き、自分の方向性を明確に保つことを可能にします。

この認識は、ユースが奉仕の能力を高めるために必要な準備とはどのようなものかという疑問に自然につながります。仲間と共に過ごしたいという自然な欲求を満たすことも含めて、バハイ共同体の様々な集まりに参加することで、若者は自分の能力を発展させ、奉仕の人生のために十分な準備をすることができると思うのは容易でしょう。しかし、このような非公式な教育プロセスは、必要ではあっても十分ではないことを、書物は示唆しています。

ショーギ・エフェンディの通信を注意深く見てみると、若者が教えについて「しっかり教育され、訓練される」こと、信教についての知識を「完全に」、「正しく」習得するよう望んでおられることが分かります。さらに、彼らが属する共同体の活動に「積極的に、心を込めて、継続的に参加する」ことを通して学ぶよう若者を激励しておられます。これに関して、彼は、共同体生活は、若者たちが信教の学習で収拾した「原理を実際の、建設的な活動に移す」ことができる「必要不可欠な実験場」を提供すると説明されています。守護者は、彼らは「その生きた有機体の真の一部になる」ことで、「バハイの教えを通して流れる真の精神を捉える」ことができると指摘しています。このように、若者が奉仕のために自らを準備するためには、共同体生活の現実に取り込まれた正式な教育プロセスが必要なのです。活動のための活動、勉強のための勉強は、その要件を満たしません。

万国正義院の多くのメッセージが、同じような言葉で表現されています。あるメッセージは、「学習と奉仕が一つになり、平行して実行されるとき」、理解が大きく深まると明言しています。メッセージは続けて次のように述べています。「この奉仕の場において、知識は試され、実践を通じて新たな質問が持ち上がり、新しいレベルの理解に達するのです」。世界中の国々で、正式な学習コースを通じて、大業の人材を育成するという明確な目的のために、トレーニング・インスティテュートが設立されています。どこの国でも、ますます多くの人々が、奉仕のための能力を高めるための系統的な教育プロセスに従事しており、ユースは一貫してこのプロセスの最前線に立ち続けています。トレーニング・インスティテュートについて、正義院の代理によって書かれたある手紙はこう説明しています。

それは、奉仕のなかで道徳的行動や自制を発達させる教育プロセスに個人に従事させることを目指し、学業、礼拝、ティーチング、共同体づくり、そして一般的に、社会を変革しようとするその他のプロセスに関わることを織り交ぜた一貫性のある喜びに満ちた生活パターンを養うも

のである。この教育プロセスの中心は、神の御言葉に触れることで、その御言葉の力は、心を清め、「離脱の足」で奉仕の道を歩む各個人の努力を持続させるものである。<sup>12</sup>

正義院の代理によって書かれた別の手紙では、次のように述べられています。

…インスティテュートのコースは、個人が奉仕を通して資質や姿勢、技術、手腕<sup>しゅわん</sup>を徐々に習得することが意図されています。奉仕によって、執拗<sup>しつよう</sup>な自我を抑制し、個人がその限界から抜け出すのを助け、共同体づくりの活気あるプロセスの中に自らを位置付けることが意図されているのです。<sup>13</sup>

そして、世界中にいる若者たちの代表団に言及して、正義院は次のように書いています。

その仔細<sup>しさい</sup>がどうであれ、彼らは、時間とエネルギー、才能と能力を捧げて、共同体に奉仕したいという熱意を共有している。彼らの多くは、機会が与えられたなら、喜んで、人生の数年を次の世代の精神的教育に費やすであろう。つまり、世界中の若者の中には、社会を変革させる能力が溢れている。その能力を解き放つことこそが、すべてのインスティテュートの聖なる使命なのである。<sup>14</sup>

## セクション 10

先の二つのセクションで見たように、私たちはどのような状況を考えるときにも、不必要な矛盾をもたらすような、自分の人生の側面を区分けし始める方法で、状況をばらばらに分解しないよう注意しなければなりません。一般的に、人間の心は、出会った世界を断片化する傾向があります。物理的、社会的、精神的な現実、その全体を理解するにはあまりに広大です。ならば、それを部分的に理解するために分割することは不合理なことではありません。しかし、現実の全体性を考慮に入れずにそれを行うとき、困難が生じます。異なる人種、肌の色、国籍、宗教を持つ人々の間の対立は、存在についての断片的な概念から生じるいくつかの問題の例です。人類の一体性こそが真実であり、人種的、民族的、国境線による分裂は、人間の心の産物であり、歴史的状況の結果であるからです。

もし私たちが注意<sup>おこた</sup>を怠り、自分の人生に対してこのような断片的なアプローチを採用することになれば、大部分が想像上のものである、あらゆる種類の二項対立を創り得ます。仕事、余

暇、家庭生活、精神的生活、身体的健康、知的探求、個人の発展、集団の進歩などが、私たちの存在を構成する断片となります。このような区分を真実として受け入れると、私たちは人生のさまざまな側面からの要求に<sup>こた</sup>えようとして、たくさんの方向に引っ張られるように感じるでしょう。私たちは、明らかに相反する目標に当惑させられます。大業に奉仕するために家庭生活を犠牲にすべきでしょうか？信教に奉仕することが、子育てをする努力の妨げにはならないでしょうか？これらは、生じ得る無数の疑問の内の二つの例です。

自分たちが創り出した二項対立を解決するために、私たちは時に、自分に課せられたさまざまな要求に均等に時間を割こうとします。また、別の場合には、責任に優先順位をつけ、その特定の時に最も重要だと思われることにエネルギーを集中させようとしています。時間とエネルギーを慎重に配分することはもちろん必要です。しかし、それは人生の多くの側面が相互に関連していることを意識しているときにのみ、実りあるものとなります。もし全体を見ることができなければ、すべての部分の間に生じる緊張から、不安や混乱が起こり得ます。

以下の文は、互いに補強しあうべきものでありながら、時に対立すると考えられている、人生のさまざまな側面を<sup>つい</sup>対にしたものです。それぞれの対に続く各文について、それが統合された生き方につながる考え方を表しているのか、それとも断片化に向かう傾向を示しているのかを判断してください。それに応じて、「統(I)」または「断(F)」の印をつけてください。

## 1. 家庭と、仕事

- \_\_\_\_\_ 私が仕事で一所懸命働けば、家庭生活は苦しくなるでしょう。
- \_\_\_\_\_ 私は仕事での成果や直面している課題について、よく家族と話し合います。
- \_\_\_\_\_ もちろん、女性はその職業で成功を収められるでしょうが、その代償は常に子どもが払うことになります。
- \_\_\_\_\_ 子どもを立派に育てたいなら、私は自分の職業を<sup>ないがし</sup>蔑ろにしなければなりません。
- \_\_\_\_\_ 私は自分の職業で卓越するよう努力できるし、かつ、家庭の責任を誠実に果たすことができます。

## 2. 教育と、大業への奉仕

- \_\_\_\_\_ 学問での達成は、奉仕の分野に入るための必要条件です。
- \_\_\_\_\_ 私たちが学業を通して得た知識は、奉仕の場における強みとなり、奉仕の場で得た経験は、私たちの知識をさらに深めます。
- \_\_\_\_\_ 私たちが大業に本当に専心したいなら、学業を捨てなければなりません。
- \_\_\_\_\_ 私たちの最大の望みの一つは、信教の教えを学び、世の改善を推進する努力にそれらを適用することを学ぶことです。

\_\_\_\_\_ 共同体の福利を促進するために奉仕の道を歩む中で培った能力は、適切な学業の分野を選ぶ際の助けとなるでしょう。

### 3. 知的発展と、精神的資質の発展

\_\_\_\_\_ 真理の独立探究には、知性を磨くとともに、精神的資質を獲得する必要があります。

\_\_\_\_\_ 知性の発達には、正義、正直、そして、偏見が無いことが必要です。

\_\_\_\_\_ 精神的に成長するためには、知性を手放さなければなりません。

\_\_\_\_\_ 私たちの知性と心は互いに分離しているではありません。魂という一つの实在の相補的で相互作用的な側面を表しているのです。

\_\_\_\_\_ 精神的資質は、意識的な知識と、善い<sup>よ</sup>行いを実践することによって育まれます。

### 4. 物質的生活と、精神的生活

\_\_\_\_\_ 精神的に成長するために、私たちは物質的な喜びを否定しなければいけません。

\_\_\_\_\_ 精神的な事柄は年を取るまで脇に置いておくべきです。若いうちは、物質的に進歩するあらゆる機会を利用すべきです。

\_\_\_\_\_ 人々が精神的な事柄に目を向ける準備ができる前に、彼らの物質的なニーズを満たさなければなりません。

\_\_\_\_\_ この物質的次元での人生の目的は、精神的な資質と力を発達させることです。

\_\_\_\_\_ この物質的次元での人生の目的は、常に進歩する文明を発展させることです。

\_\_\_\_\_ 私たちは、この世が提供するすべての恵み<sup>きょうじゅ</sup>を享受すべきですが、地上の欲望に心を奪われ、神にますます近づくことを妨げられてはなりません。

## セクション 11

この章では、ジュニアユースを定義する属性というよりも、書物によって示唆される、彼らが成長したときに身につけるべき、若い男性や女性の特質を考察します。私たちはまず、この特質についての洞察を与えてくれる二つの引用文を見ることから、探究を始めました。そして、15歳という年齢が個人の人生において特別な段階を示すことを確認しました。その年齢が成熟期の入り口であり、新しい力と能力に焦点が当たる時だからです。私たちは、若者たちが大業の生命において果たし得る重要な役割と、彼らのとてつもない能力が人類への奉仕に向けられることがいかに重要であるかを知っています。私たちはまた、ユースが将来の生活のために意識的に自分自身を準備する必要性を認め、そのような準備には、学業——生計を立てるための知識や技術を習得するために必要な勉強と、彼らが属する共同体に奉仕する能力を高めるための勉強の両方において——と同じく、奉仕そのものが不可欠であることを見してきました。

ここで一旦立ち止まり、ここまで勉強してきたことを振り返ってみるとよいでしょう。以下にいくつかの声明を示します。それぞれを読んで、それが真実かどうかを判断してください。答えが明らかな場合もありますが、この設問全体に十分な注意を払ってください。この設問は、この資料でこれまで取り上げた内容に関するあなたの考えを整理するのに役立つよう、一連の考え方に目を通す機会を提供することを意図しています。

- \_\_\_\_\_ 個人にとって、15歳になることは成熟の年齢に達することを意味するが、これはむしろ象徴的な印であり、その人の人生に意味のある影響を与えるものではない。
- \_\_\_\_\_ ほとんどの若者は未熟で、大きな責任を担うことができない。彼らは注意散漫になりやすく、頼りにならない。
- \_\_\_\_\_ ユースは信教の活動に対する責任を引き受けることを熱望しているが、経験が浅く未熟であるため、大きなことを成し遂げることができない。
- \_\_\_\_\_ ユースは、志操堅固と無私の心をもって、大業と人類のために立ち上がり、奉仕するために必要な潜在能力を持っている。
- \_\_\_\_\_ ユースは、自分たちが属する共同体に奉仕する系統的な行動に従事するために必要な意志の力と献身を示すことができる。
- \_\_\_\_\_ 青年期の盛りに大業に奉仕するために立ち上がる人たちは、大いに祝福される。
- \_\_\_\_\_ ユースは学業に最大の注意を払うべきであり、余った時間は奉仕に捧げることができる。
- \_\_\_\_\_ ユースは最高レベルの学問的訓練を受けなければ、効果的に社会に奉仕することはできない。
- \_\_\_\_\_ 人間の努力のあらゆる分野がユースに開かれている。ユースは、自分の才能と状況に適した分野を選び、奉仕の精神をもってその分野に入り、卓越するために努力すべきである。
- \_\_\_\_\_ ユースは、出会う人々と信教について有意義な会話をするための十分な経験と知識を持っていない。彼らは他の方法で奉仕するのが最善である。
- \_\_\_\_\_ ユースは、出会う人々と信教について有意義な会話をするために必要な経験や知識を持っていないので、代わりに、ただ、模範的な行動を示すよう奨励されるべきである。
- \_\_\_\_\_ ユースは信教の教えを理解し、それを仲間と分かち合う大きな可能性を持っている。

- \_\_\_\_\_ ユースは、信教の教えを理解し、若い人にも年配の人にも、あらゆる立場の人々とそれを分かち合う大きな可能性を持っている。
- \_\_\_\_\_ ユースは、信教の教えを他の人々と分かち合うために必要な知識と能力を身につけることを熱望している。
- \_\_\_\_\_ ユースは神の大業の最大の資源の一つであり、適切な学習課程と絶え間ない励ましを通して、自分たちが属する共同体と人類に奉仕できるようになるよう援助されるべきである。
- \_\_\_\_\_ ユースには、楽しむことができる特別な活動が必要である。彼らにとって、長期間にわたって真剣であることは難しい。
- \_\_\_\_\_ 系統的であることを学ぶのは、自発性がなくなった人生の後半になってからだ。
- \_\_\_\_\_ 困難な状況に耐え、新しい状況に適応するユースの能力は、彼らに多くの奉仕の道を開く。
- \_\_\_\_\_ ユースは探究心があり、勉強や共同体生活への全面的な参加を通じて、疑問に対する答えを見つけることができる。
- \_\_\_\_\_ ユースが無私の奉仕の精神を発揮することによって、私たちの共同体に潜在する偉大な可能性が明らかになる。
- \_\_\_\_\_ 純粋さと離脱の精神をもって奉仕の道を歩むことができるよう、神の御言葉の力がユースを強める。
- \_\_\_\_\_ ユースがインスティテュート・コースを学び、それに対応する奉仕の行いに従事することによって身につける態度や精神的資質、技術や能力は、ユースが共同体づくりの動的なプロセスに決定的に貢献することを可能にする。
- \_\_\_\_\_ 世界のユースの内に眠る社会を変革する能力の貯蔵庫は、勉学と奉仕を結びつける系統的な教育プロセスに彼らが参加することによって利用することができる。

## セクション 12

前のセクションの設問で、青年期についての考えがまとまり、この時期の人生のイメージとして、活発な奉仕活動と勉強の両方が、将来への厳密な準備として組み合わせられたものであることが明白になったと思います。このテーマをさらに考えてみましょう。

これまで述べてきた奉仕、教育、準備の間の相互作用は、特定の文脈の中で展開される必要があります。具体的には、信教の聖典に描かれている二つの変革のプロセス、すなわち、個

人の明白な知的・精神的な成長と社会の変革に貢献するものであるべきです。私たちは、バハオラの啓示の「最高、かつ特徴的機能」は「新しい人類を創りだすことに他ならない」ことを知っており、私たち一人ひとりが、自分たちの思考と行動を、聖典に描かれている個人の思考と行動に一致させようと日々努力しています。聖典は、社会の構造における同じく深遠な変革を強調しています。バハオラは仰っています。「現在の秩序は間もなく巻き上げられ、その代わりに新しい秩序が繰り広げられるであろう」。バハオラは宣言されました。「人間はみな、常に進歩する文明を前進させるために創造された」。

この二重の変革は、意識的な努力によってのみ起こるものであり、若者が自分の人生に対するその意味を理解し、自分自身の成長を担うとともに社会の変革に貢献するという強い目的意識を持つようになることが不可欠です。そのような二重の道義的目的は、奉仕の生活の中で自然に表現されるでしょう。

以下の引用文は、この道義的目的意識の一面、つまり私たち自身の知的・精神的成長に関連する一面を明らかにするものです。

唯一真実なる神が自らを現わす目的は何か。それは全人類を正直と誠実さ、敬虔<sup>けいけん</sup>と信頼<sup>みこころ</sup>、神の御心に対する従順と服従、寛容と親切、公正と英知のもとに呼び寄せることにある。聖人のような性質をもって万人を覆<sup>おお</sup>うマントとし、清らかで正しい行動を万人の装飾とすることこそが神の目的である。<sup>15</sup>

神の道を生きる人生の礎石<sup>そせき</sup>は、より高い道德水準を求めることと、神の眼に満足な美点を備えた性格を身につけることである。<sup>16</sup>

人間は、知識を習得し、崇高な精神的完全性に達し、隠された真実を発見し、さらに神の属性さえも現すよう定められている。<sup>17</sup>

神が人間を創造した目的は、人間に創造主を知らしめ、神の御前に到達させることである。<sup>18</sup>

1. 上記の引用文をもとに、次の文を完成させましょう。

- a. 唯一真実なる神が自らを現わす目的は何か。それは全人類を\_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_

\_\_\_\_、\_\_\_\_、\_\_\_\_  
\_\_\_\_。

b. 神の目的は\_\_\_\_万人を覆う\_\_\_\_  
\_\_\_\_とし、\_\_\_\_を  
万人の装飾とすることである。

c. 神の道を生きる人生の礎石は、\_\_\_\_  
\_\_\_\_と、\_\_\_\_  
\_\_\_\_。

d. 人間は、\_\_\_\_を習得し、\_\_\_\_  
に達し、\_\_\_\_を発見し、さらに\_\_\_\_  
\_\_\_\_現すよう定められている。

e. 神が人間を創造した目的は、\_\_\_\_  
\_\_\_\_

2. 人間の魂に内在する可能性についてのビジョンを持つことは、個人の目的意識を形成し、  
方向づけます。これがどのように起こるか説明してください。\_\_\_\_  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_

3. 個人の目的意識は、この地上での生活が神の御前に向かう永遠の旅のほんの一部に過ぎないという知識によって強化されます。その理由を説明してください。\_\_\_\_  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_

次の一連の引用文は、この道義的目的意識のもう一つの側面、つまり社会の変革に貢献することに光を当てています。

この<sup>しいた</sup>虐げられし者は証言する。死ぬ運命にある人間が、まったくの無から存在の世界へ足を踏み入れたのは、世界の向上のために力を尽くし、和合と調和のうちに暮らすためであるということ。19

個人の栄誉と卓越性は、その個人が世界の大衆の中で社会的な善の<sup>みなもと</sup>源となることからなっている。ある個人が自らの内部に目を向け、自分が神の恵みにより同胞らの平和と<sup>あんねい</sup>安寧、幸福と利点のもとになっていると知ること、これよりすばらしい恩恵が有り得ようか。いや、唯一の真なる神にかけて、それよりすばらしい幸せや、完全なる喜びはないのである。20

人が、自らの責任を果たすために立ち上がるなら、なんと栄誉あることであろう。――しかし、社会の<sup>むだ</sup>安寧に目を閉じ、自分の利己的な利益や個人的利点のために貴重な人生を無駄にするなら、人は何とみじめで、また卑しむべきであろう。21

<sup>わたくしごと</sup>私事におぼれるな。心を常に人類の繁栄の回復と、人々の心と魂を聖別させるものに向けよ。22

神の人々は、この世界に新たな生命を与え、地上での生活を高貴なものとし、人類をよみがえらせること以外に目的をもたない。23

1. 上記の引用文をもとに、次の文を完成させましょう。

- a. 私たちが、まったくの無から存在の世界へ足を踏み入れたのは、  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_。
- b. 個人の栄誉と卓越性は、  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_からなっている。

c. ある個人が自らの内部に目を向け、自分が\_\_\_\_\_により

\_\_\_\_\_と知ること、これよりすばらしい恩恵が有り得ない。

d. 人が、\_\_\_\_\_ために立ち上がるなら、なんと栄誉  
あることであろう。しかし、\_\_\_\_\_に目を閉じ、

\_\_\_\_\_なら、人は何とみじめで、また  
卑しむべきであろう。

e. 私たちは\_\_\_\_\_におぼれるべきではない。心を常に

\_\_\_\_\_に向けるべきである。

f. 神の人々は、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_以外に  
目的をもたない。

2. 人類が一つの共通の家族に統合されることが現実的な可能性であるこの発展段階において、人類に開かれた大きな機会についてのビジョンを持つことは、個人の目的意識を形成し、方向づけます。これがどのように起こるか説明できますか？ \_\_\_\_\_

3. 個人の目的意識は、人類が聖なる文明に至る長い進化の道を歩んでいるという知識によって強化されます。その理由を説明できますか？ \_\_\_\_\_

---

---

## セクション 13

前のセクションの設問で示唆されたように、聖典で述べられている個人と社会の変化の本質を理解することは、若者が持つべき目的意識にとって必須です。「人間の最も奥に存在する真の自己の鉱山に潜む」宝石のような資質を身につけ、物質的にも精神的にも繁栄した世界文明の創造に貢献するためには、バハオラによって求められた変革の大きさを理解しなければなりません。もちろん、今日、どこの国でも人々は変革の必要性を語っています。私たちが理解すべきことは、バハオラの啓示の直接的な影響の下で、個人と社会に起こるよう運命づけられた変革は、多くの人々が可能だと想像することさえしないほど、はるかに大きいということです。

いくつかの引用文を振り返ることで、個人のレベルで起こる変化の大きさを垣間見ることにしましょう。バハオラは私たちに述べておられます。

離脱の足をもって天と地にいるすべてのものの上を歩み、水と粘土で創造されたすべてのものの上に神聖さのたもとを広げる、人格において比類のない人類が育成される。<sup>24</sup>

ある文節で、バハオラは宣言しておられます。

言挙げよ。世俗の欲望にしたがい、または、地上の事物に心うばわれたものはバハの人々の内には数えられない。わが真の信徒とは、黄金の谷をも雲のごとく超然として通過し、振り向くことも、立ち止まることもないものである。まさに、このようなものこそがわれに属するのである。天上の軍勢は、かようなものの衣より高潔さの芳香を嗅ぐことができよう。<sup>25</sup>

別の文節で、バハオラは述べておられます。

神のお供らは、今日、世界の人々を変革させるべき媒介である。彼らは、その模範によって、すべての人々を利するほどの信頼性、誠実さ、堅忍不拔の精神、行動と人格を示すべきである。<sup>26</sup>

さらに次のように説明しておられます。

純粹で、聖別<sup>せいべつ</sup>された魂の息吹にこそ、広大な可能性が秘められているのである。それらの可能性はすべての創造物に影響を与えるほど偉大である。<sup>27</sup>

アブドル・バハは私たちに次のように述べられました。

おお、神の友らよ！世界中のすべての人々や民族、また敵でさえもが、あなたに信頼、確信、希望を置くよう偉大な努力をなささい。もし、ある魂が十万の過ちを犯したとしても、あなたに許されることを希望し、失望したり、悲しくなったりすることのないように。これが、バハの人々の行いと振る舞いである。これが、崇高な道の基盤である。あなたの行いや礼儀をアブドル・バハの助言と一致させなさい。<sup>28</sup>

聖典に描写されている、この新しい人間を特徴づける属性の輝きは眩<sup>まばゆ</sup>いばかりで、私たちはこの「新しい人類」の力と能力を垣間<sup>かひま</sup>見ることだけで圧倒されます。このような文章を読んで、私たちはさまざまな反応を示すでしょう。聖典によって定められた基準は自分の手の届かないほど遠くにあり、その基準に従って生きようとたくさんの努力をするのは虚<sup>むな</sup>しいと考え、その結果、凡庸<sup>ぼんよう</sup>さに陥ってしまうかもしれません。そのような状態では、ただ見苦しい行いを避けさえすれば十分であるかのような錯覚に陥ってしまいます。しかし、人が強い目的意識を持つことができれば、上記のような文節は常に励ましの源となり、人を高みへと駆り立てます。

しかし、私たちはまた、そのお父上の教えの完全な模範であるアブドル・バハその人という、もう一つのインスピレーションの源にも恵まれています。アブドル・バハはご自身の領域で動いておられ、いかなる人間も彼の高貴な地位に到達することを望むことはできないことを意識しながらも、私たちは彼の中にあらゆるバハイの理想の体現を見出し、彼が模範として示された行動基準に向かって努力するのです。このコースを勉強しているあなたやあなたの友人にとって、上記の引用文から言葉を選び、それぞれの引用文に述べられている資質を反映しているアブドル・バハの人生のエピソードを考えることが役に立つでしょう。例えば、「離脱の足」で歩むことを思い描こうとすると、あらゆる創造されたものから離脱して、この世を歩むことの意味を教えてくれる、アブドル・バハの人生のエピソードが心に浮かびます。「高潔<sup>こうけつ</sup>さの芳香」を思い浮かべるとき、「天上<sup>てんじょう</sup>の軍勢<sup>ぐんせい</sup>」がその甘美な香りを吸い込むことができるのは、師の「衣<sup>ころも</sup>」からであることを私たちは知っているので、師の完全な聖性を示す物語を思い出します。

## セクション 14

ここで、社会のレベルで起こらなければならない深遠な変革のプロセスについて考えてみましょう。バハオラはこう述べておられます。

我自身にかけて言う！ 我がこの世とそこに存在するすべてのものを巻き上げ、代わりに、新しい秩序を繰り広げる日が近づきつつある。<sup>29</sup>

バハオラはさらに述べておられます。

世の中の平衡状態は、この最も偉大な、この新しい世界秩序の震えんばかりの影響によってくつがえされたのである。人類の整然とした生活は、人間の目がこれまでに決して見たことのない、この二つとないすばらしい制度の力によって大改革されたのである。<sup>30</sup>

アブドル・バハは断言しておられます。

正義と公正さが地球を包み込み、憎しみや敵意は消え去ります。民族、人種、国家間の分裂の原因となるものはなんであれ消滅し、和合、調和、協調を確実にするものが促進されます。無思慮な者は眠りから覚め、目の見えぬ人は視力を、耳の聞こえぬ人は聴力を得、口のきけぬ人は話し、病人は癒され、死人は生き返り、戦争は平和にとって代わられます。敵意は愛に変えられ、戦いや争いの根源は取り除かれ、人類は真の幸福を手に入れ、この世は天の王国の鏡となり、そして、地上は天上の領域の玉座となります。<sup>31</sup>

別の機会に、師は説明しておられます。

人類の歴史の初期に人のニーズに適していたものは、新しさと成就のこの日と時期の要求に応えることも、それを満たすこともできない。人類は、以前の制限された段階や初期の訓練から脱出した。人は今や新しい美德や力、新しい徳性、新しい能力を吹き込まなければならない。新しい恩寵や、恩恵、完全性が待ち受けており、既に人に降り注がれている。<sup>32</sup>

そして、師は私たちに勧告しておられます。

この偶然性の世界の暗闇<sup>くらやみ</sup>が追い払われ、すべての地平線に王国の灯り<sup>あか</sup>が輝き、人類世界が照らされ、神の面影<sup>おもかげ</sup>が人という鏡の中にはっきり見えるようになり、神の法がしっかりと確立され、神の公正なご加護のもとで、世界中の全地域が平和、慰め<sup>なぐさ</sup>、平穏<sup>きょうじゆ</sup>を享受するよう、私たちは心魂<sup>しんこん</sup>込めて努力しなければなりません。<sup>33</sup>

個人の場合と同様、これから誕生するよう運命付けられている文明の全貌を想像することは私たちにとって難しいことです。実際、その特徴を説明することはほとんど不可能でしょう。しかし、必要とされる変革の大きさに圧倒されて、私たちの努力なしにそれが魔法のように起こると考えてはいけません。私たちの目はバハオラの世界秩序に向けられ続けなければなりませんし、最も小さな行為でさえも、その建設に貢献できることを認識するべきです。社会に起こる変化の度合いについてさらに考えるために、以下の各文章の空欄を、次の語句のいずれかを使って(必要に応じて語尾を変化させて)埋めましょう。

消え去る、消滅する、とって代わる、繰り広げる、照らす、  
確立する、変えられる、取り除く、巻き上げる、追い払う、  
手に入れる、包み込む、促進する、享受する、鏡となる、輝く

- a. この世とそこに存在するすべてのものが\_\_\_\_\_られる日が近づきつつある。
- b. 代わりに、新しい秩序が\_\_\_\_\_られる日が近づきつつある。
- c. \_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_が地球を包み込む。
- d. 憎しみや敵意は\_\_\_\_\_。
- e. 民族、人種、国家間の分裂の原因となるものはなんであれ\_\_\_\_\_。
- f. 和合、調和、協調を確実にするものが\_\_\_\_\_。
- g. 戦争は平和に\_\_\_\_\_。
- h. 敵意は愛に\_\_\_\_\_。
- i. 戦いや争いの根源は\_\_\_\_\_。

- j. 人類は真の幸福を\_\_\_\_\_。
- k. この世は天の王国の\_\_\_\_\_。
- l. この偶然性の世界の暗闇<sup>くらやみ</sup>が\_\_\_\_\_。
- m. すべての地平線に王国の灯り<sup>あか</sup>が\_\_\_\_\_。
- n. 人類世界が\_\_\_\_\_。
- o. 神の法がしっかりと\_\_\_\_\_。
- p. 神の公正なご加護のもとで、世界中の全地域が平和、慰<sup>なぐさ</sup>め、平穩を\_\_\_\_\_。

## セクション 15

先の二つのセクションの引用文と設問は、バハオラによる啓示の結果として個人と社会に起こる深遠な変革についての洞察を与えてくれました。バハオラが思い描かれた変革の大きさをさらに考えるために、以下の文を読んでください。それぞれの文が、正義、公正、慈愛など、個人や社会の称賛に値する属性を表現しています。しかし、これまでのセクションを読むと、バハオラが人類に個人的・集団的な行動において、より高い基準を求めていることに疑いの余地はありません。では、以下の文を、啓示によって定められた基準をより詳しく示すように書き換えてみてください。参考となるよう、最初に例を示します。

- a. 人は嫉妬の感情をコントロールし、それに呑み込まれないようにしなければなりません。
- b. 私たちは、わずかな嫉妬の痕跡すらも心から消し去り、他の人がなした達成に心からの喜びを感じるべきです。

- a. 友人であろうと見知らぬ人であろうと、会う人すべてに礼儀正しくすれば十分です。

- b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 私たちは、神が与えてくださった物質的な豊かさに感謝し、求められれば常に慈善事業(チャリティー)に貢献すべきです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 人は他人と対立しないように努力すべきです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 道徳的な生き方をするということは、誰に対しても危害を加えてはならないということです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 平和に生きるためには、多様な文化、背景、宗教を持つ人々を許容することを学ぶべきです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 人々は自分の権利のために立ち上がることを学ぶべきです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 政府にとって、将来のリーダーを育成する学校に、可能な限り最高のプログラムを提供するために必要な資源を投入することは不可欠です。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

a. 犯罪者を更生させるために刑務所は現代化されるべきです。

b. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

さて、上で書いた文を、以下の引用文に照らして考えてみましょう。最初の文章は、私たちの心が地上的な欲望からどれほど清められなければならないかを考える助けとなります。

おお地の子よ！まことにこれを知れ。少しでも妬<sup>ねた</sup>みが残っている心は決してわが永遠の領土に達することを得<sup>え</sup>ず。またわが聖なる王国から香<sup>かお</sup>り出<sup>い</sup>づる神聖の甘き香<sup>かおり</sup>をかぐこともできないであろう。<sup>34</sup>

互いをどのように遇<sup>ぐう</sup>するべきかについては、次の引用文が洞察を与えてくれます。

不案内者は友を見出し、敵は真の兄弟を見出し、そしてその間に差異が全く存在しないまでに愛と親切の精神が強くなってはならない。<sup>35</sup>

この引用文は、与えることに対する適切な態度に光を当てています。

おお塵<sup>じんあい</sup>撲の子らよ！

と富める者らに、貧しき者の真夜中の嘆息<sup>ためいき</sup>を語れ。無思慮が彼らを破滅の道に導かざるため、また富の木より彼らを奪<sup>とみ</sup>わざるために。施<sup>せ</sup>与<sup>よ</sup>と寛大とはわが属性である。わが美德をもって自己を飾るものは幸いである。<sup>36</sup>

他者との交流の性質については、こう書かれています。

愛へと呼び起こす者、全人類に親切な者であれ。人の子らを愛し、彼らの悲しみを共有せよ。平和を促進する者らの一人であれ。友情の手を差し伸べ、信頼を置くにふさわしい者であれ。あらゆる傷を和らげる香油となり、すべての病を癒す妙薬となれ。人々の魂を一つに結びつけよ。導きの句を唱えよ。主を崇拝することに従事し、人々を正しく導くために立ち上がれ。舌をゆるめ、教えを伝え、汝の顔を神の愛の火で輝かせよ。一瞬たりとも休まず、安楽に一息つこうと求めてはならない。そうすれば、汝は神の愛のしるしと象徴となり、彼の恩寵の旗印となるであろう。<sup>37</sup>

そして、道徳的な振る舞いの問題については、次のように助言されています。

空虚な礼拝で事足りた時代は終わった。非の打ち所のない純粋な行為に裏打ちされた最も高潔な志のみが、最も高遠なる御方の玉座に届き、その承認を得ることができる日が到来したのである。<sup>38</sup>

異なる背景を持つ人々にどのように接するかについては、この一節が洞察を与えてくれます。

世界の全存在がバハの恩寵の聖なる歓喜で満され、無知、敵意、憎悪、怨恨が地上より消え去り、国民及び民族間の疎隔の闇が統合の光にその位置を譲るように最高の真実、正直、誠実、親切、好意及び友情を持って、世界のあらゆる民族及び宗教の人々と交わらなければならない。もし他の国の人々及び国家が汝等に対して不誠実であっても誠実さを示し、不正であっても正義を示し、冷淡であっても愛嬌良くし、敵意を表しても友情で応え、生命を脅かされても、彼等の魂を甘美にし、傷つけられても彼等の痛みを和らげる薬剤とならねばならない。これが誠実者の特性であり、正直者の属性である。<sup>39</sup>

以下の引用文は、人類が一体であるという意識が社会的関係にどのような影響を及ぼすかを理解するのに役立ちます。

私は、皆さんの一人一人が正しい人になり、絶えず人類の和合に思いを寄せ、断じて隣人を傷つけず、悪口を言わず、すべての人の権利を尊重し、自分自身の利害よりも他の人々の利害を心にかけるよう希望します。<sup>40</sup>

教育へのアクセスに関しては、次の一節がこの問題を取り上げています。

無知と教育の欠如が人類を隔てる障壁である以上、皆が訓練と指導を受けなければならないとバハオラは宣言しておられます。その提供により相互理解の不足が改善され、人類の和合が促進され、向上するのです。普遍的な教育は、普遍的な法です。<sup>41</sup>

処罰の執行については、次のように書かれています。

しかし、聖なる文明では、ごく少数の例外を除いては誰も犯罪を犯かそうとしないほど、社会の構成員一人一人を訓練するのである。このように、暴力や報復的手段による犯罪防止と、人々を訓練し、啓発し、そして精神的に高めることによって、刑罰や復讐への恐れもなくすべての犯罪行為を避けるようになるということには、大きな違いがある。人々はまさに罪を犯すことそのものを大変な不名誉とみなし、それ自体を最も厳しい刑罰とみなすであろう。<sup>42</sup>

上記の文節を振り返って、自分が書いた文を見直し、それをどのように発展させることができるかを考えてみるとよいでしょう。

## セクション 16

私たちは、個人が自らの精神的・知的成長を促し、社会の福祉に貢献するという、二重の道義的目的について述べてきました。そして、現代の若者にとって必要なこの目的意識は、聖典の中で描かれている個人と社会の変革の本質とその大きさを理解することによって強化されることを見てきました。さらに私たちが理解する必要があるのは、この二つの変化のプロセスは密接に結びついているということです。自分の潜在能力を発達させることと、社会の福祉のために働くことは切り離すことはできません。なぜなら、人の道徳的基準と行動は、その人の環境を形成し、ひいてはその環境から大きな影響を受けるからです。守護者の代理によって書かれた手紙にはこう書かれています。

人間の心を外的環境から切り離して、これらの一つが改革されたら全てが改善されるということはできません。人間は世界と有機的に結びついています。人間の内面的な生活は環境を形成し、またそれは環境に大

いに影響されます。一方は他方に作用します。そして、人の一生に残る変転は全てこれらの相互反応の結果です。<sup>43</sup>

上記の引用文をもとに、以下の声明が正しいかどうかを判断してください。

- \_\_\_\_\_ 社会が完全に改革されて初めて、個人が変革される。
- \_\_\_\_\_ 社会を構成する個人が精神的になったとき、社会の悪は完全に消え去るだろう。
- \_\_\_\_\_ 公正な法律が制定されれば、個人がどう振る舞うかにかかわらず、社会は抑圧から解放されるだろう。
- \_\_\_\_\_ あらゆる個人が公正であろうと努力するとき、社会は抑圧から解放されるだろう。
- \_\_\_\_\_ ある社会の構成員は皆、その社会で運用されている法制度が不公正であっても、公正であり得る。
- \_\_\_\_\_ 一人の個人の行動は社会環境に影響を与える。
- \_\_\_\_\_ 公正な社会は、公正な構造を創る努力と、公正な心を持ち真実を探究するように個人を教育する努力の結果である。
- \_\_\_\_\_ 誰も、その人を取り巻く社会環境の影響から逃れることはできない。
- \_\_\_\_\_ 人間は精神的な力に助けられて、社会環境の悪影響に抵抗することができる。
- \_\_\_\_\_ 偏見は、すべての人が人間性の一体性を認めれば消えるだろう。
- \_\_\_\_\_ 偏見は、社会が法律や制度における差別の痕跡をすべて根絶したときにのみ、消えるだろう。
- \_\_\_\_\_ あらゆる形の偏見は、公正な法律を制定することと、現実を調査し、すべての人と愛と仲間意識を持って付き合うよう魂を訓練することによって、なくすことができる。
- \_\_\_\_\_ 人類は一つであると誰もが信じるとき、私たちは和合を得るだろう。
- \_\_\_\_\_ 世界に和合を確立するには、個人と社会構造を変革することが求められる。

## セクション 17

前のセクションで提示されたアイデアは、私たちを奉仕の問題へと立ち返らせます。なぜなら、奉仕の分野においてこそ、私たちは潜在能力を発達させ、社会に変化をもたらすことができるからです。社会変革のプロセスに参加することが奉仕に捧げる人生を意味することは、あまり詳しく説明する必要はないでしょう。しかし、もっと考える必要があるのは、奉仕活動と個人の知的・精神的成長との関係です。以下に活動のリストを示します。それぞれの活動を行い、そ

の効果を確実にするためには、多くの精神的資質を結集する必要があります。この具体的な設問のために、各活動に特に関連すると思われる資質や態度を一つか二つ選び、それがその活動を行う個人の能力にどのように寄与しているかを述べてみてください。

- a. 近隣や村で、定期的な祈りの会を主催する。

---

---

- b. 信教の教えから引き出された精神的なテーマについて話し合い、親睦<sup>しんぼく</sup>の絆を深めるために、友人や隣人の家を訪問する持続的なプログラムに参加する。

---

---

- c. 村や近隣で、子どもの精神的教育の定期的なクラスを行う。

---

---

- d. ジュニアユース・グループの努力を、その活動を進めるアニメーターとともに長期にわたって支援する。

---

---

- e. インスティテュートが推進する教育プログラムに参加している若者を持つ親御さんを定期的に訪問し、その息子や娘の成長にとっての中心的なテーマについて話をする。

---

---

---

上記の設問は、精神的な資質や態度が、個人が奉仕活動を行う能力にどのように寄与しているかを考えるのに役立ったことでしょう。しかし、奉仕を行うことによって、そのような資質を発展させ、強化することができるということも、同様に真実です。以下に、私たち全員が身につけようと努力している精神的資質をいくつか挙げます。各グループで、上記の活動の中から一つを選び、その活動が、それを行う人の資質の育成にどのような形で貢献できると思うか述べてください。

a. 誠実、信頼性、正義

---

---

---

---

---

b. 寛容、親切

---

---

---

---

---

c. 神聖さ、実直、輝くこと

---

---

---

---

---

d. 勇気、神への信頼、謙虚

---

---

---

---

---

e. 神のご意志に対する忍従<sup>にんじゆう</sup>と服従

---

---

---

---

---

## セクション 18

奉仕は私たちのあり方と密接に結びついています。私たちが無私の奉仕の精神に活気づけられているとき、あらゆる交流、あらゆる行動——職業生活、そして他者との付き合いにおいて、地域社会の一員として——は、その影響を受けます。しかし、私たちがどのような奉仕をしようとも、世界の人々にバハオラのメッセージを広めるための体系的な計画があるという事実を常に意識しています。このメッセージは、人類の一体性を宣言し、その統一を呼びかけ、過去に見られたものとは根本的に異なる未来社会のパターンを確立することができる唯一の法と原則、精神的・社会的な教えを提供するものです。アブドル・バハご自身によって描かれたこの計画は、世界の精神的再生を求めるものに他ならず、それが明確な段階を経て着実に展開され、より多くの人々がその実行に参加するにつれ、「現在の社会にありふれた不和に取って代わるものが姿を現してきています」。私たちはこの聖なる計画に身を捧げるべきなのです。守護者はそれを「最大名の創造的力を通して生み出された最も偉大な計画」と呼び、それは「前進している」と述べておられます。

(計画は)・・・地球全体の精神的征服に向かって行進しながら、日々、勢いを増し、あらゆる地域において、そして多様な民族や人種の間で、障害をつき崩し、その有益な働きの範囲を抵抗し得ないほどに広げ、その内在する威力の益々否定しがたい証拠を現しているのです。<sup>44</sup>

聖なる計画を通じて、バハオラの啓示の精神は世界のあらゆる場所に浸透し、個人と集団の生活を変革します。ショージ・エフェンディはさらに断言しておられます。

神ご自身によって人類にもたらされた計画の進展の最終的かつ究極の段階は、今度は、その範囲、性質、そして威力において人類史上比類のない世界文明の誕生のしるしとなるのです。後世の人々は、その文明をバハオラの宗教制の黄金時代の最もすばらしい成果と、口をそろえて称賛するでしょう。<sup>45</sup>

聖なる計画の展開における各段階は、信教の長によって立ち上げられた地球規模の計画の一つによって示されます。各計画には一定の要件があり、前の計画で達成された成果や教訓の上に構築されます。連続する計画を通して尽くされた努力によって、私たちが従事している事業に「普遍的に関連する様々な原則、概念や戦略」が「行動のための枠組み」として結晶化しました。この枠組みこそが、私たちの集団的な行動に形を与え、私たちが行うことの一貫性を保証するものなのです。今後のコースでは、この進化する枠組みの本質を探る機会があるでしょう。今の時点では、この枠組みが存在することで、地域レベルの「拡大する、個人の核」が、「新しい世界秩序の目標に向かう」人々の運動を生み出すことが可能になることを理解することが重要です。この観点から、2013年に世界各地で開催された一連のユース大会の参加者に向けて、万国正義院によって書かれたメッセージは次のように説明しています。

世界に広く分布したこの共同体が取り組んでいる、バハオラの啓示についてより適切な理解を得、啓示に収められている原則を適用しようという、過去何十年にわたる、世界中を包み込む活動は、経験を通して洗練され、行動の効果的な枠組みを作り上げました。このようにしっかりと確立された方法とアプローチを知っている皆さんは幸いです。皆さんの多くはすでに、その実践に粘り強く努めることによって、この聖なる教えが有する、社会建設の力の徴を自分で見ているでしょう。あなたが参加しているこの大会で、皆さんは、バハオラの呼び掛けに<sup>こた</sup>え、その

力が放たれるのを援助したいと願う若者なら誰もがなしうる貢献ということについて考えるよう勧められます。<sup>46</sup>

同じメッセージはさらに次のように言及しています。

皆が共同して行う行動に秘められた可能性は、共同体作りの活動に特に明らかです。この共同体作りのプロセスは、世界中で、集中的な活動の中心となっている数多くのクラスターや近隣地域や村落で勢いを増してきています。それらの場では、しばしばユースが活動の最先端にいます。それはバハイのユースだけでなく、バハイたちが行っている活動に良い効果を見出し、その根底にある和合と精神的変革のビジョンを理解する、バハイたちと同じような考えをもつ若者たちです。そのような所では、バハオラの啓示を受容性のある人々と共有し、そのメッセージが今日の世界にどのような意味を持つかについて探る必要性が痛感されています。社会の大部分は、消極性や無関心、あるいは、もっと悪いことには、自分や他人に害となるような行動を助長しています。それとはまったく対照的に、これらの若者は、精神的により豊かになる共同体生活のパターンを作り上げ、維持していく能力を住民のなかに強化しているのです。<sup>47</sup>

そして、正義院は、別のメッセージの中で、この言葉によって、バハイユースと、彼らと共に奉仕の人生の高みに登りたいと願う人々の視点を高めています。

いつの時代のバハイの若者にとっても、自分の生きているその時代に特有な貢献をする機会があります。今、現代のユースたちは熟考し、決意し、奉仕に身を捧げる覚悟をするときです。その奉仕の生き方こそは、豊富な祝福をもたらします。我々は古来の美が、取り乱し、混乱した人類のなかから、透き通った視覚を授けられた高潔な魂、他の人々の過失をくよくよ考えることによって自分の清廉さや公正さを蝕まれず、自分の短所によって麻痺させられることもなく、師に顔を向け、「除外された人たちを親密な友達の輪に導き」、社会の欠陥を認識することでそれから逃げるのではなく、その変革のためにはせ参じ、いかなる犠牲を払

ってもどのような形態の不正をも見落とすことなく、むしろ、「正義の光が全世界に輝きを投げかける」ために努力するユースを精選し給うよう、聖なる御敷居<sup>しきい</sup>で祈り嘆願いたします。<sup>48</sup>

上記の引用文は、若者が聖なる計画に奉仕する人々の最前線に進むことが不可欠であるということについて、あなたの心に僅かな疑い<sup>わず</sup>も残すことはないでしょう。このセクションの最後に、2000年にラテンアメリカ全土で開催された、一連のユースの集まりに対して、万国正義院が書いた以下のメッセージを振り返ることは有益でしょう。

この時代のユースが社会の諸事<sup>しよじ</sup>に責任を負うようになると、当惑させるような対照的な光景<sup>そうぎやう</sup>に遭遇することでしょう。この地域は、一方では、知的、科学技術的、経済的領域において正当に誇れるほどの輝かしい功績を挙げているが、一方では、広範囲にわたる貧困の改善や、人々を呑み込もうとしている暴力のうねりの高まりを避けることに失敗しています。多くの富を所有するこの社会が、どうして、その基本的構造を破壊している不正義を排除することに非力<sup>ひりき</sup>なののでしょうか。このことを率直に問う必要があります。

何十年もの論争の歴史が十分に証明しているように、この問いに対する答えは政治的情熱や、階級的利害の対立する表現や、科学技術的な秘策<sup>ひさく</sup>に見出すことはできません。必要なものは、政治、経済、技術といった手段が正しく適用されるための前提条件としての精神性の復興<sup>ふっこう</sup>です。しかし、そのためには触媒<sup>しよくばい</sup>が必要です。数は少なくとも、皆さんこそが、そのような触媒をもたらし経路であるということを確信してください。<sup>49</sup>

1. この最後のメッセージは、なぜ、知的、科学技術的、経済的にこれほど豊かな社会が、社会を引き裂く不正を取り除くことができないのかを問いかけ、その答えが政治的情熱や階級的利害の対立する表現、科学技術的な秘策にあるのではないことを指摘しています。あなたが住んでいる社会を思い浮かべ、次のそれぞれの例を挙げてください。

a. 社会を特徴づける政治的情熱: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

b. 社会における階級的利害の対立する表現： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

c. 社会が追求してきた技術的な秘策： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2. 万国正義院によれば、社会的な悪を除去する努力において、政治的、経済的、技術的手段が正しく適用されるための前提条件は何でしょうか。 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

3. 正義院は、社会の精神性の復興をもたらすために何が必要であると述べておられますか。

\_\_\_\_\_

4. 正義院は、人類へのバハオラのメッセージを提供する経路は誰だと言っておられますか。

\_\_\_\_\_

さて、以上のような考えを念頭に置いて、このコースを学ぶ友人たちと、聖なる計画の実施に参加することで、若者が社会の精神的再生のための経路としてどのように行動できるかを話し合ってください。

## セクション 19

前のセクションの終わりでの話し合いが、大業の前進において若者が果たすべき不可欠な役割について、さらに考えるきっかけになったことでしょう。『神よぎり給う』の次の一節で、ショーギ・エフェンディは、時代を超えて人類を鼓舞する英雄的な行いをした、信教の初期の英雄たちの姿を紹介しています。彼らの多くが若者であったことを考えると、その卓越した資質を表現するために守護者が用いた言葉について、ここで考える時間をとりましょう。その前に、以下の用語集に目を通してください。

流星の如く：流星のように。空に現れ、素早く横切っていく光跡

縦走じゅうそうする：縦つらぬに貫くこと

陰鬱いんうつ：陰気な、うす暗い

星団：恒星の大集団

白熱光を発する：高温の熱とすばらしい光を出すこと

抗争：勝利への戦い

草分け：開拓者

策謀：はかりごとをめぐらすこと。たくらみ

腐敗：墮落、邪悪

敬虔けいけんさ：神への崇敬と宗教的義務への献身

放棄：捨てる、諦める

決意：強い目的

御影石みかげいしのように：不屈の精神と忍耐力

崇敬すうけい：尊敬と畏敬の念

困惑：途方にくれる、まごつく

守護者は次のように書かれています。

崇高な物語の第一章のエピソードを概観がいかんすると、主人公たる英雄バブはシラズの地平線上に流星ごの如く現われ、ペルシャの陰鬱いんうつな空を南から北へと縦走じゅうそうし、悲劇的な速さで傾かたむき、そして栄光せんこうの閃光の中で消えて行ったことが見られる。そして、バブの周囲を巡る、神に心酔した英雄たちの星団がその同じ地平線に昇り、同じ白熱光を発し、まったく同じ速さで燃え尽きて、神の生まれたばかりの信教の、着実に強まりつつある勢いに次々と拍車はくしゃを掛けたことがうかがえる。…

同時に住民、聖職者、君主と政府を巻き込んだ凄まじい精神的抗争の記録に、輝かしい行動を残したこれらの英雄たちは、バブの選ばれた使徒ら、『生ける文字』であり、そして彼らの仲間たち、『新時代』の草分けたちであった。彼らは、全く多くの策謀、無知、腐敗、残酷、迷信、卑怯ひきょうに対して、崇高な、抑えることのできない、驚くほどの精神、思いも及ばないほど深い知識、人を圧倒せずにはおかない雄弁さ、比類ない熱意に満ちた敬虔さ、獅子のような凄まじい勇氣、聖人のように純粋な自己放棄、御影石のように固い決意、極めて広範なビジョン、敵を困惑させるほどの、『預言者』やそのイマムらに対する深い崇敬の念、敵対者も恐れおののくほどの説得力、同国人の生き方に挑戦し、変革を引き起こした信仰の水準と行動規範でもって対抗した。<sup>50</sup>

1. 次の文を完成させましょう。

- a. 「生ける文字」と仲間たちは、\_\_\_\_\_な抗争に従事した。
- b. この抗争は、同時に\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_と\_\_\_\_\_を巻き込みました。
- c. 信教の初期の英雄たちは、策謀、無知、腐敗、残酷、迷信、卑怯に対して、次の資質をもって対抗しました。
  - \_\_\_\_\_な、\_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_ほどの精神
  - \_\_\_\_\_知識
  - \_\_\_\_\_雄弁さ
  - \_\_\_\_\_敬虔さ
  - \_\_\_\_\_勇氣
  - \_\_\_\_\_自己放棄
  - \_\_\_\_\_決意
  - \_\_\_\_\_ビジョン

- \_\_\_\_\_、『預言者』やそのイマム  
らに対する深い崇敬の念
- \_\_\_\_\_説得力
- \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_信仰の水準と行動規範

2. 信教の初期の英雄たちは、どのような目的で、上記の一節で守護者が描写した精神的な戦いに参加したのでしょうか？ \_\_\_\_\_

---



---



---

3. 聖なる計画の実行に参加している現代のユースは、先人たちと同じように、精神的な戦い<sup>せんじん</sup>に従事しているのでしょうか？ \_\_\_\_\_

4. 彼らの戦いは、信教の初期の英雄たちの戦いとどのように似ているのでしょうか？

---



---



---

5. 今日のユースは、信教の英雄時代の兄弟姉妹のように、自分たちが従事している精神的な戦いで成功できるようにするにはどうすればいいのでしょうか？

---



---



---



---



---

次のセクションに進む前に、万国正義院のメッセージからの次の文節を読み、考えてみてください。

崇高なる御方バブが25歳という若さで、その革命的なメッセージを世界に伝えるために立ち上がられた時、彼の教えを受け入れ、広めた人たちの多くが若者でした。彼らの一部は、バブご自身よりも若かったほどです。彼らの英雄的行為は、『夜明けを告げる人々』という本に、まばゆいばかりの輝かしさで記録され、不滅です。それは、これから何世紀の間、人類の歴史を明るく照らすでしょう。このようにして、ユースという世代が、世界を再生させるために投げかけられたその聖なる推進力に刺激されて、人類の生き方を変革するプロセスの最新の段階に貢献する機会をつかみ取るという形が始まったのです。それは、バブの時代から現在まで、一度も途絶<sup>とだ</sup>えることのなかったパターンです。<sup>51</sup>

## セクション 20

危機と勝利の連続的なサイクルの中で、どの世代のユースも、夜明けを告げる人々が切り開いた道をたどり、バハイの活動の最前線に立ち続け、バハオラのメッセージを人類に伝えるために尽力してきました。万国正義院はこう書いています。

バハイの時代の最初から、若者は、神の啓示の公布においてきわめて重要な役割を果たしてきました。バブがご自身の使命を宣言されたのはわずか25歳の時であり、『生ける文字』の多くはバブよりもさらに若い者たちでした。師はごく若い時期に、イラクとトルコでお父上への奉仕において重責を負うよう求められたのです。そして彼の弟、『最も清らかな枝』は、神の僕<sup>しもべ</sup>らが「生き返らせられ、地上の全人類が一体となるように」と、22歳の若さで最大の牢獄で自らの生命を神に捧げました。ショーギ・エフェンディが守護者としての王座に呼び出されたのはオックスフォード大学の学生の時でしたし、10年聖戦で不滅の名声を得たバハオラの騎士<sup>きし</sup>の多くは若者でした。<sup>52</sup>

1984年に書かれたメッセージの中で、正義院はより最近の過去の英雄たちに敬意を表しています。

たとえば、昨年の夏、シラズで6人の若い女性達に起きた事を考えてみてください。彼女達は18才から25才の若さでしたが、絞首刑執行人<sup>こうしゅけい</sup>によって絞殺<sup>こうさつ</sup>されました。彼女達は皆、信仰を捨てるよう迫られました<sup>せま</sup>が、全員が最愛なる御方を否定することを拒否しました。また、学校の教師たちや宗教指導者<sup>じんもん</sup>たちの尋問や虐待を受けたり、信仰<sup>ようご</sup>を擁護したために、退学させられたりした多くの子どもたちや若者たちが何度となく示した、驚くべき不屈<sup>ふくつ</sup>の精神の記録を見てください。若者達は、彼らの共同体に残酷にも強い<sup>し</sup>られた制約の下で、国内のバハイ機構が活用できるよう自らのエネルギーを捧げ、目覚ましい奉仕を行ったということは特筆<sup>とくひつ</sup>に値します。どれほど輝かしい言葉も、このように純粋な彼らの無私無欲な行為や献身以上に、彼らの精神的決意と忠誠心を証明することはできません。事実、バハイに求められる信仰心の代償<sup>だいしょう</sup>がこれほど大きい場所は地球上で他にありません。また、イランの勇敢なバハイユース<sup>ゆうかん</sup>ほど、犠牲<sup>ぎせい</sup>の杯<sup>さかずき</sup>を喜々として輝かしい心で受け取った人達はいません。ならば、このような特異な時代に生き、イランの仲間たちの勇気の心動かされる実例<sup>ま</sup>を目の当たり<sup>あ</sup>にし、行動の自由を行使できるユースや青年である皆さんが、「縛<sup>しば</sup>られることを知らない風<sup>ごと</sup>の如く」、バハイの活動<sup>いせい</sup>の場へと威勢よく繰り出<sup>く</sup>していくことを期待されるのはもっともなことではないでしょうか。<sup>53</sup>

世界中の英雄的な魂の人生における重要な出来事について考える機会は、各世代のユースが使命感を身につけるのに役立ちます。幼少期には、毎週の子どもクラスや家庭で語られる物語を通じて、こうした傑出<sup>げっしゅつ</sup>した人物との親密な絆が形成されますが、12歳から15歳の間、そしてもちろん、青年年期全体を通じて、この必要性に取り組むには、より意図的な努力が必要です。慎重に選ばれた例は、劇的なものもあればそうでないものもありますが、勇氣、決断力、熱意、無私といった、若者が見習うべき資質を示すことができます。

1. 信教の初期の、あるいは最近の歴史から、ユースが熟考すべきと思われるエピソードをいくつか挙げてください。

---

---

---

2. これらの特定のエピソードを選んだ理由を書いてください。

---

---

---

---

## セクション 21

上に引用したわずかな文節からでさえ、信教の初期の英雄たちと彼らに続く英雄的な魂たちの人生が、目的意識によって際立っていたことがわかります。彼らがそれぞれ、自分たちが生きている歴史的瞬間の重要性を理解し、人類に求められている変化の大きさについてのビジョンを持っていたに違いないことも、同様に明らかです。このような目的意識が、神のメッセージの普及に捧げた人生の中で表現されたことも明らかでしょう。しかし、彼らが為した英雄的行為や、彼らの多くが払った究極的な犠牲について考えるとき、これらの属性だけがこのような聖別された存在を際立たせていたとは信じ難いでしょう。彼らの人生を最も特徴づけたものは何だったのでしょうか？ どのような情熱が彼らを虜にし、何が彼らを無私の奉仕の高みへと駆り立てたのでしょうか？ 彼らの心の中であれほど明るく燃えていたのは、神への愛ではなかったのでしょうか？ 彼らは最愛なる御方の美に夢中になっていたのではないのでしょうか？ ユースが美へ惹きつけられるよう育てること、真の知識の柔らかな流れに与りたいという生来の欲求を育むこと、創造主との親密な関係を築く手助けをすること、これら無くして、次世代のユースの精神性を高めることに貢献することができるのでしょうか？ 次の言葉に自分自身を浸し、この章を終えましょう。

なぜなら、真の愛を抱く献身的な友が、「最愛なる方」の面前に達したとき、「愛される御方」のかがかやく美と、愛する者の心の火は激しく燃え上がり、すべてのヴェールとおおいを焼きつくすからである。しかり、

愛する者の心臓から皮膚にいたるまですべて燃え上がり、「聖なる友」以外は何も残らないのである。<sup>54</sup>

おお友らよ！  
消滅せねばならぬ美のために永遠の美を捨てるな。またこの滅ぶべき塵<sup>ちり</sup>の世に愛着を持つな。<sup>55</sup>

『わが啓示』を認知し、わが知識の『大洋』<sup>たいよう</sup>から飲み、わが愛の大気圏に飛翔し、我以外のすべてを<sup>しりぞ</sup>退け、わが驚くべき発言の『王国』から下されたものをしっかりと把握していた者こそが真の博学者であることを知れ。誠に、そのような者はあたかも人類の目であり、万物の身体<sup>しりぞ</sup>の生命の精神である。その者を啓発し、立ち上がらせ、彼の偉大で強大なる大業に奉仕させた、慈悲に満ち給う御方に賛美あれ。誠に、そのような者は天上の『群勢』や、『壮大なる幕屋』<sup>まくや</sup>に住む者ら、わが名称、全能者、力に満ち給う御方のなかで『我が封印したワイン』を飲み干した者らに祝福されん。<sup>56</sup>

おお、神の軍勢よ！神の大業に完全に注意を向け、神の御言葉がその効果を発揮させることのみを目的とし、純粹な動機で昼夜大業に奉仕し、行動には自我や私的動機の痕跡が少しも感知されない、—いや、むしろ、取り乱して神の愛の荒野<sup>こうや</sup>をさまよい、神の知識の<sup>さかずき</sup>盃のみから飲み、神の甘い芳香を広めることに全く専念し、神の王国の聖句<sup>みわく</sup>に魅惑されている者—いついかなる時も、このような者を見れば、その者は、天によって支えられ、強化されること、朝の星のごとく、永遠の恩寵の空<sup>とこしえ</sup>から永久まで輝かしくきらめくことを、確実に知れ。しかし、もしその者が、私欲や自己愛の痕跡を少しでも示せば、その努力は徒勞<sup>とろう</sup>に終わり、その者は破壊され、最終的に絶望の状態に残されるであろう。<sup>57</sup>

誠に、汝は神の摂理<sup>せつり</sup>の手により『王国の王座』へと引き寄せられたこと、そして、汝が『聖なる神の美のお顔』<sup>おお</sup>を覆う覆いを取り除き、ヴェールを引き上げ、汝の洞察力をもって『輝かしいお顔』を見、この聖なる大業の

純粹さと高潔さの神秘を認識したほど、天の吉報<sup>きつほう</sup>は汝に大いなる喜びと幸福をもたらしたことを知れ！

さあ、神の愛で満ち溢れる心と、全ての喜びでもって神に懇願<sup>こんがん</sup>し、この導きと高尚なる贈り物に対し神に感謝せよ。そして、まことに、汝の足が『道』においてしっかりとする時、汝の主から届けられる贈り物の先達<sup>せんだつ</sup>が四方八方から汝に降りかかるであろう。<sup>58</sup>

神よ、あなたを目指して進み行くこの僕<sup>しもべ</sup>はご愛情の砂漠を夢中でさまよい、ご奉仕の道を歩いております。そして、ご恵沢<sup>けいたく</sup>を待ち望み、ご恩恵を願望し、御国<sup>みくに</sup>に頼り、賜物<sup>たまもの</sup>の美酒<sup>いさ</sup>に喜び勇んでおります。神よ、あなたの愛によせる僕<sup>しもべ</sup>の熱情<sup>ま</sup>をいや増し給え。あなたを称えまつる心を確固たらしめ給え。ご愛情<sup>こ</sup>を乞う熱烈な願いをいっそう強くなし給え。

あなたは恵沢多き御方<sup>けいたく</sup>におわし、偉大なるご恩寵<sup>おんちよう</sup>の御方にまします。あなたの他に神はいまさず、あなたは許し給い、ご慈悲に満ち給う御方におわします。<sup>59</sup>

## 参考文献

1. ‘Abdu’l-Bahá, in *Bahá’í Prayers and Tablets for the Young* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1978), no. 38, p. 30.
2. アブドル・バハ、「バハイ祈りの書」(2015 年版)、p.219
3. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá* (Wilmette: Bahá’í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 225.9, p. 394.
4. ‘Abdu’l-Bahá, cited in a letter dated 11 April 1985 written on behalf of the Universal House of Justice to an individual, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986: The Third Epoch of the Formative Age* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1996), no. 426.3a, p. 665.
5. アブドル・バハ、「バハイ祈りの書」(2015 年版)、p.221
6. Bahá’u’lláh, cited in the Ridván 1982 message to the Bahá’ís of the world, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986*, no. 321.5a, p. 538.
7. From a message dated 25 May 1975 written by the Universal House of Justice to all National Spiritual Assemblies, *ibid.*, no. 162.34, p. 310.
8. 万国正義院、世界中で開催予定の 114 のユース大会の参加者に宛てて書かれた 2013 年 7 月 1 日付けメッセージ
9. From a message dated 10 June 1966 written to the Bahá’í youth in every land, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986*, no. 37.2, p. 92.
10. From a letter dated 23 February 1995 written on behalf of the Universal House of Justice to selected National Spiritual Assemblies.
11. 万国正義院、大陸顧問団の会議に向けて書かれた 2015 年 12 月 29 日付けメッセージ
12. From a letter dated 23 April 2013 written on behalf of the Universal House of Justice to a National Spiritual Assembly, *ibid.*, no. 52.3, p. 296.
13. From a letter dated 19 April 2013 written on behalf of the Universal House of Justice to a small group of individuals, *ibid.*, no. 51.9, p. 293.
14. 万国正義院、世界の全国精神行政会宛てに書かれた 2011 年 12 月 12 日付けメッセージ
15. バハオラ、落穂集 137
16. From a letter dated 8 December 1923 written by Shoghi Effendi to a Bahá’í community, in “Trustworthiness: A Cardinal Bahá’í Virtue”, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, published in *The Compilation of Compilations* (Maryborough: Bahá’í Publications Australia, 1991), vol. 2, no. 2075, p. 345.

17. 'Abdu'l-Bahá in London: Addresses and Notes of Conversations (London: Bahá'í Publishing Trust, 1987), p. 66.
18. 落穂集 29
19. Bahá'u'lláh, in "Trustworthiness", published in *The Compilation of Compilations*, vol. 2, no. 2032, p. 332.
20. アブドル・バハ、聖なる文明の秘訣
21. 同上
22. 落穂集 43
23. 同上 126
24. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2006, 2018 printing), par. 48, p. 47.
25. 落穂集 60
26. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice*, par. 39, p. 34.
27. Ibid., par. 39, pp. 34–35.
28. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, p. 436. (authorized translation)
29. 落穂集 143
30. 同上 70
31. 'Abdu'l-Bahá, in *Some Answered Questions* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2014, 2016 printing), no. 10.8, p. 58.
32. From a talk given on 17 November 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), par. 4, p. 618.
33. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 29 August 1912, *ibid.*, par. 4, p. 405.
34. バハオラ、かくされたる言葉、ペルシャ編 6
35. アブドル・バハの遺訓
36. かくされたる言葉、ペルシャ編 49
37. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 10.2, pp. 41–42.
38. The Báb, cited in *The Dawn-Breakers: Nabil's Narrative of the Early Days of the Bahá'í Revelation* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1932, 2018 printing), p. 93.
39. アブドル・バハの遺訓
40. アブドル・バハ、パリ講話集 no.49, 1911 年 11 月 17 日の講話から
41. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 1 September 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 7, p. 417.
42. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 105.2, p. 186.

43. From a letter dated 17 February 1933 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, in *Social Action: A Compilation Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2020), no. 90, p. 44.
44. From a message dated April 1955 written by Shoghi Effendi, published in *Messages to the Bahá'í World, 1950–1957* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1971, 1999 printing), p. 76.
45. From a letter dated 4 May 1953 written by Shoghi Effendi, *ibid.*, p. 155.
46. 万国正義院、世界中で開催予定の 114 のユース大会の参加者に宛てて書かれた 2013 年 7 月 1 日付けメッセージ
47. 同上
48. 万国正義院、世界のバハイに宛てて書かれた 2013 年 2 月 8 日付けメッセージ
49. From a message dated 8 January 2000 written to the friends gathered at the youth congress in Paraguay, published in *Turning Point: Selected Messages of the Universal House of Justice and Supplementary Material, 1996–2006* (West Palm Beach: Palabra Publications, 2006), no. 20.3–4, pp. 123–24.
50. Shoghi Effendi, *God Passes By* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1974, 2019 printing), pp. 4–6.
51. 万国正義院、世界中で開催予定の 114 のユース大会の参加者に宛てて書かれた 2013 年 7 月 1 日付けメッセージ
52. From a message dated 10 June 1966 written to the Bahá'í youth in every land, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986*, no. 37.1, p. 92.
53. From a message dated 3 January 1984 written by the Universal House of Justice to the Bahá'í youth of the world, *ibid.*, no. 386.6, p. 616.
54. *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.76 p. 46.
55. かくされたる言葉、ペルシヤ編 14
56. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2005 printing), no. 14.4, pp. 207–8.
57. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 35.7, pp. 103–4.
58. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1909, 1930 printing), vol. 1, p. 182.
59. アブドル・バハ、「バハイ祈りの書」(2015年版)、p.31





# 大いなる可能性に満ちた年頃

## 目的

12 歳から 15 歳までの若者の計り知れない可能性を  
探求し、彼らの精神性を高めることに資する  
環境を提供することの意義を理解する。



## セクション 1

第一章では、ユースを際立たせるいくつかの特徴について述べました。本章の目的は、ジュニアユースの計り知れない可能性と、彼らの人生を形作る勢力について考えることです。ここで検討する概念は、数十年にわたる経験を通じて徐々に固まってきたものです。12 歳から 15 歳までの人たちの特別なニーズは、バハイ共同体によって長い間、認識されてきました。この年齢層のメンバーを教育する初期の試みと、彼らの能力を引き出し、湧き上がるエネルギーを方向づける方法を学ぶその後の努力から、私たちが本書で探究している、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムが徐々に生まれました。あなた自身が若い頃にこのプログラムに参加したことがある、友人がジュニアユースのグループと一緒にこのプログラムに取り組んだことがある、あるいは他の人と一緒に村や近所の親御さんを訪問して、このプログラムのアプローチやテーマについて話し合ったことがあるなどして、このプログラムについてよく知っているかもしれません。今、学んでいる資料は、あなたが当初は 3 年間、おそらくはそれ以上の時間を、この有益な奉仕活動に捧げ、大いなる可能性に満ちたこの年齢層の何人かのメンバーが人生の重要な局面を乗り切るのを支援できるようにするためのものです。

ジュニアユースの精神性を高めるプログラムについて、万国正義院は次のように書かれています。

ジュニアユースの精神的な力を引き出すプログラムの急速な<sup>ひろ</sup>拡がり  
は、バハイ共同体におけるもうひとつの文化的な進歩の表れといえるでしょう。世界的な傾向は、この年齢層に対して、不確定で、劇的な身体的・感情的変化の苦悩の中で迷っている、無反応、自己に没頭しているなどというイメージをもっていますが、バハイ共同体はそれとは異なり、使用する言葉とアプローチにおいて、断固として逆方向に動いています。つまり、ジュニアユースの中に<sup>り た</sup>利他主義、敏感な正義感、<sup>しん ら</sup>森羅<sup>ばんしょう</sup>万象について学ぶ熱意、よりよい世界を建設するために貢献したいという願望といったものを見出します。このビジョンの正当性については、この地球上の国々のジュニアユースが、プログラムへの参加者として自分の考えを声にした記述の中で次々と証言しています。このプログラムは、彼らの精神的認知力を<sup>えいびん</sup>鋭敏にし、表現力を向上させ、人生で役に立つモラル構造を強化しながら、彼らの広がりつつある意識を、真理の探究に引き付けているという印が至る所に見出せます。その探求は社会で動いている建設的な力と破壊的な力を分析し、これらの力が彼らの思考

や行動に及ぼす影響を認識するのを助けるものです。知的、精神的、そして身体的な力が花咲く年齢において、彼らは、崇高な存在という真のアイデンティティを彼らから奪う力と戦う手段や、また、公益のために働くうえで必要な手段を与えられているのです。<sup>1</sup>

上記の一節で正義院が言及した概念や考え方の多くは、まさにこの章の学習の焦点であり、この章を進むにつれて、あなたの頭の中でさらに明確になっていくことでしょう。今の時点で、以下の質問に答えてみてください。

1. ジュニアユースが属する年齢層について、世界的なトレンド(流行)はどのようなイメージを持っているでしょうか？ \_\_\_\_\_

---

---

---

2. それに対して、バハイ共同体はこの年齢層の人たちの中に何を見ているのでしょうか？

---

---

---

3. ジュニアユースの拡大する意識を現実の探求に引き込むことによって、彼らの精神性を高めるためのプログラムは、彼らが何をするのを助けているのでしょうか？

---

---

---

---

---

4. ジュニアユースがそのプログラムを通して得る道具(ツール)は、彼らが何をすることを可能にしますか？

---

---

5. なぜ、12 歳から 15 歳の若者は特別なグループだと思いますか？

---

---

---

6. 以上のことを踏まえて、あなたが既に知っているジュニアユースを思い浮かべてみて、この若い世代特有のニーズをいくつか特定してみてください。

---

---

---

7. この特定の奉仕の分野に入るよう、あなたを動機づけるものはなんでしょう？

---

---

---

---

---

## セクション 2

バハオラは、必須の祈りや断食の義務などの法が拘束力を持つようになる 15 歳で、人は成熟の始まりに達すると説いています。この観点から見ると、その直前の数年間は特別な意味を持ちます。幼少期から青年期への移行がこの数年間に起こるからです。身体的、知的、感情的なこの移行に伴う突然の急激な変化は、様々な形で振る舞いに影響を与えます。

12 歳になると、変化の兆<sup>きざ</sup>しが見え始めます。多くのジュニアユースは、その後の 3~4 年間で、人生のどの時期よりも肉体的に成長します。身長と体重が増加し、ホルモンの変化を経験します。男の子は声が低くなり、女の子は若い女性の体つきに変わり始めます。どちらも思春期を迎え、子どもを設<sup>もう</sup>ける身体能力を獲得します。

この時期に経験する身体的・感情的な変化は相互に関連しています。新しい力の出現に興奮し、それをうまいと切望する一方で、ぎこちなさ、繊細さ、不安感も伴います。こうした感情が矛盾した行動を引き起こすこともあります。内気なようであり、時には社交的であったり、一人にしてほしいという願望を表しながら、注目されることを歓迎したり、ある状況では驚くほどの勇気を持ちながら、ある状況では、どちらかと言えば恐<sup>おそ</sup>れを抱<sup>いだ</sup>いたりします。自分の才能や能力に対する関心が次第に高まり、世界における自分の居場所、特に同年代の仲間や大人との関係に対する意識が高まります。他人が自分の外見をどのように見るか、自分の考えに対してどのような反応を示すかが重要になってくるのです。

さらに、15 歳になるまでの数年間で、個人の生活や集団としての生活に関する基本的な概念が頭の中で形成されます。分析力が強くなり、これまで教えられてきたことの多くに疑問を抱いたり、それまで気づかなかった周囲の世界の矛盾に気づいたりするようになります。大人が決めた基準に機械的に従うことを、以前ほど自発的にはしなくなります。この移行期には、人は問い——そしてそれは哲学的な問いであることも多い——に対する答えを求め続け、新しい意識が急速に発達します。

もし若者たちを、その生まれつつある力を実りある形で発揮できるよう援助するのであれば、一方では幼少期を長引かせ、他方では、残念ながらますます多くの社会に根付きつつある、多くの側面において表面的な成人像を模倣するよう促す傾向にある接し方を避けることが不可欠です。アブドル・バハは述べておられます。

しばらくすると人は青春期に入り、以前の状態やニーズは、その段階の進歩に適切な新しいものにとって変えられる。観察能力は広がり、また深まる。知的能力は訓練され、覚<sup>かく</sup>醒<sup>せい</sup>される。子どもの頃の限界や環境は、最<sup>も</sup>早<sup>はや</sup>、その若者のエネルギーや達成を制限しない。<sup>2</sup>

幼少期の年月と青年期の違いについて理解を深めるために、以下の質問についてグループで話し合ってください。

1. 観察力が広がり深まるとはどういうことですか？いくつか例を挙げて説明してください。

---

---

---

---

---

2. ジュニアユースの知的能力は子どもの知的能力と、どのように異なりますか？

---

---

---

---

---

3. ジュニアユースのエネルギーを最早、制限することのない幼少期の限界をいくつか挙げてください。

---

---

---

---

---

### セクション 3

すべての人は、15 歳になる直前の数年間に、青年期固有の特質を発揮できるような教育や養育を受けるべきです。そのような教育の必要性は、15 歳までに個人の思考や行動のパターンの多くが既に固定化されていることを認識すれば、より明らかとなります。アブドル・バハはこう説明しておられます。

思春期を過ぎると、個人を教育したり、その性格を改良するのは極<sup>きわ</sup>めて困難となる。経験からもわかるように、思春期を過ぎると、その人の何らかの性癖を変えようとあらゆる努力をしたとしても、全く効果がない。その人は、今日、いくらか改善を示すかもしれない。しかし、2、3日もすると忘れてしまい、いつもの状態と慣れたやり方に逆戻りしてしまうであろう。<sup>3</sup>

「思春期」という言葉はよく知られていますが、これは12歳前後から18歳くらいまでの若者を指して、しばしば緩やかに使われます。私たちが一般に、「ジュニアユース」と呼ぶ年齢層の人々を識別するために「思春期前期」という言葉が使われることもあります。ここではこの点に過度にこだわらず、12歳から15歳までの若者を指す言葉として互換的に用いています。思春期における教育の重要性について考えるために、以下の記述が正しいかどうかを判断してください。

- \_\_\_\_\_ 幼少期に適切な教育を受けていなくても、思春期に適切な養育を受けることで、それ以前に確立された望ましくない行動パターンを修正することができる。
- \_\_\_\_\_ 幼少期に精神的・道徳的教育を受けた人だけが、その潜在能力を最大限に伸ばすことができる。
- \_\_\_\_\_ 思春期に適切な注意と配慮がなければ、たとえ幼少期に道徳的・精神的教育を受けていたとしても、道を踏み外す可能性がある。
- \_\_\_\_\_ 思春期において、人は社会を進歩させる勢力に自分の人生を関連付けさせ始めるか、または社会崩壊の勢力に押し流される。

## セクション 4

思春期に高まる意識は、神のご意志への服従と人類への自己犠牲的な奉仕、あるいは自我と熱情の牢獄への囚<sup>とら</sup>われという、二つの目的のどちらかに向けられます。アブドル・バハはこう明言しておられます。

それぞれの創造物の個性は神の英知に基づいてできています。なぜなら、神の創造には欠陥<sup>けつかん</sup>はないからです。しかしながら、性格には永続性という要素はありません。それは人間の中にあるわずかに変化しやすい

資質であり、どちらの方向にも向けることができます。ですから、もし人が賞賛に値する美德を身につけたなら、それらは人の個性を強め、隠されている力を発揮させるでしょう。しかし、もし欠点を身につけると、個性の美と純真さはその人から奪われ、神から与えられた個性の資質は自我の汚れた空気で窒息させられるでしょう。<sup>4</sup>

私たちは、攻撃的な物質主義の文化が生活のあらゆる側面を侵食している時代に生きています。この蔓延する文化の織物に織り込まれている自己への過剰なまでの没頭は、ジュニアユースが能力を伸ばすことを支援しようとする私たちに多くの難題を突きつけてきます。なぜなら、若者が自らの可能性に気づき、そのエネルギーを公益のために向けられるよう、心から支援しようとする取り組みでさえ、その根底にある個人主義的な世界観の悪影響を被る可能性があるからです。問題は複雑です。確かに、今日の世界システムは、多くの人間から目的ある人生を送るために必要な不屈の精神を奪っています。ですから、自分の道徳的な強さに対する自信は、取り組むべき問題です。それは、人々の崇高な使命を見えなくしています。ですから、自分の崇高な願望を実現することは正当な関心事なのです。それは大勢の人々に魂の生命というものに気づかせないでいます。ですから、自分の持つ真の潜在能力を発見することは注目に値するのです。しかし、「自己」(self)を強調するプログラムは必ずしも状況を改善するものにはなりません。自己実現、自己発見、自尊心の名の下に、そのようなプログラムが個人を理想化し、エゴを強化することはよく起こることです。私たちの課題は、若者の精神的な感受性を育み、その柔らかな心が「最大なる美」への魅力によってかき立てられ、人類への無私の奉仕という高い理想に向けられるようにすることです。人生の形成期であるこの時期の教育的ニーズに応えようとする私たちの努力は、執拗な自我に自己主張させることを防がなければなりません。この課題の本質を探るために、次の数セクションでは、自己に言及している書物からのいくつかの文節を熟考するよう求められます。しかしまず、「自己主張する執拗な自我」という言葉の意味について、グループで話し合うことが役に立つでしょう。奉仕の場が自己の優位性を拡大する場とならないようにするには、どうすればいいのでしょうか。

## セクション 5

以下の最初の引用文のセットは、神に喜ばれ、発展させるべき「個性」の側面に関するものです。

おお、わがしもべらよ。われは、わが恩恵と寛大さにより、汝らの魂に驚くべきものを託したのである。それがいかにすばらしいものであるかを理解できたならば、汝らはすべての創造物に対する執着を絶ち、自

己をまことに知るに至るであろう。まことに自己を知ること、われの存在を理解することに等しい。この状態に至り、汝らは、われ以外のすべてのものより独立した自己を発見する。そして、わが慈愛と恩恵の大海が、汝らの内に波うつ様子を見る。汝らは、それを内なる目と外なる目の両眼をもって、わが光輝なる名の出現を見るが如くはつきりと認めるであろう。<sup>5</sup>

あなたの栄光は、いかなる人間があなたについて述べることも、あなたに帰することも、また、あなたを称えるために捧げる讃美をもはるかに超越するものです。あなたはしもべらに対し、あなたの莊嚴さと栄光を最高に称える義務を定め与え給いました。しかし、それはしもべらに対するあなたの御恩寵のしるしに過ぎず、自己を知るといふ彼らの最も内なる存在に授けられた地位に昇り詰めることを可能にするためのものでしかありません。<sup>6</sup>

「母なる書」の地平線から出でた第一の飾り、第一の輝きは、人は己自身を知り、何が崇高につながり、また何がみすぼらしさへつながり、何が栄光または卑下へ、何が富または貧困へ人を導くかを認識しなければならない、ということである。<sup>7</sup>

おお心霊の子よ！

われ汝を豊かに創れるに、何故汝自ら貧しくするや。気高くわれ汝を創れるに、何故汝自ら卑しくするや。知識の精華もてわれ汝を生ぜしに、汝何故われより他の者に教化を求むるや。愛の粘土もてわれ汝を創りしに、汝何故他のものに没頭するや。汝の眼を汝自らに向けよ。されば汝、汝のうちに威光に輝き力強く自存しつつあるわれを見出さん。<sup>8</sup>

上記の引用文をもとに、次の文を完成させましょう。

- a. 神が、私たちの魂に託された、その恩恵と寛大さがいかにすばらしいものであるかを理解できたならば、私たちは \_\_\_\_\_

\_\_\_\_、\_\_\_\_  
\_\_\_\_。

- b. この状態に至り、私たちは、\_\_\_\_  
\_\_\_\_を発見する。そして、\_\_\_\_  
\_\_\_\_を見る。私たちは、それを  
内なる目と外なる目の両眼をもって、  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_。

神は私たちに対し、その<sup>そうごん</sup>莊嚴さと栄光を最高に称える義務を定め与え給いました。しか  
し、それは私たちに対する神の<sup>おんちよう</sup>御恩寵のしるしに過ぎず、  
\_\_\_\_  
\_\_\_\_を可能にするためのもの  
でしかありません。

- c. 私たちは己自身を知り、何が<sup>おのれ</sup>\_\_\_\_につながり、また何が\_\_\_\_  
\_\_\_\_へつながり、何が\_\_\_\_または\_\_\_\_へ、何が\_\_\_\_また  
は\_\_\_\_へ人を導くかを認識しなければならない。

- d. 私たちは\_\_\_\_<sup>つく</sup>に創られ、\_\_\_\_<sup>せい か</sup>創られました。\_\_\_\_の精華もて神  
は私たちを生じさせ、\_\_\_\_<sup>しょう</sup>の粘土もて神は私たちを創られました。神は、私たちが

\_\_\_\_<sup>まなこ</sup>ように、私たちの眼を私たち自身に向けるようおっ  
しゃっています。

上記の引用文はすべて、私たちの真の自己と、その本質を理解することの重要性に言及し

ています。もちろん、自分の存在の尊さを知ることは、自己の力や影響の拡大につながるのではなく、神と神の僕の前での謙遜けんそんにつながることを理解すべきです。真の自己を知ることが、エゴとの闘いにどのように役立つのか、グループで話し合ってください。

## セクション 6

二つ目の引用文のセットは、自己を甘やかすことの結果について警告しています。

不完全な魂はみな、自己中心的で自分の利益しか考えない。<sup>9</sup>

しかし、もしその者が、私欲や自己愛の痕跡こんせきを少しでも示せば、その努力は徒勞とろうに終わり、その者は破壊され、最終的に絶望の状態に残されるであろう。<sup>10</sup>

特に、汝は虚栄心なんじからの解放を望んでいる。この、うぬぼれという資質は、これまで世界の多くの重要な人物にとって破滅のもととなってきた。もし、ある人が称賛に値するあらゆる資質を持ちながらも、利己的であるなら、それらの美德と優れた特質すぐは全て消し去られ、最終的には、最悪の欠点へと変わってしまうであろう。<sup>11</sup>

今もこれからも、わがままから人が得るものは絶望でしかない。狂信から、また、愚かおろかで思慮に欠ける者を信じることから、人が刈り取るものは嫌悪けんおすべきものと惨めさのみである。<sup>12</sup>

今日、世界中のすべての人は私利私欲にふけり、自分の物質的利益を促進するために最大限の努力と奮闘ふんとうをしている。彼らが崇拜しているのは、聖なる現実でも人間世界でもなく、自分自身である。<sup>13</sup>

まさに汝が手紙に記しているように、これらの試練は、『真実の太陽』がその光線をそこに投げかけることができるまで、心の鏡から自我けがの汚れきよを浄めるものである。なぜなら自我以上に障害となるヴェールはな

く、それはどんなに薄いものであったとしても、ついには、人はそれによって完全にさえぎられ、永遠の恵みの分け前を逸<sup>いっ</sup>してしまうからである。<sup>14</sup>

太陽はすべての創造物を照らしているが、純粹で磨かれた表面だけがその栄光と光を反射することができるのを見よ。暗闇<sup>ぼっとう</sup>に没頭<sup>ぼつとう</sup>している魂には実在の栄光ある光輝<sup>こうき</sup>の啓示の分け前はなく、自我の土壤は、その光を利用することができず、成長をもたらしことはないのである。<sup>15</sup>

自己に没頭し、自我と情欲<sup>とりこ</sup>の虜<sup>とりこ</sup>となり、物質界のぬかるみでのたうち回る、この暗闇の中に楽しみを見出す者は、なんと墮落<sup>だらく</sup>した者であろうか！<sup>16</sup>

「自己中心的」「自己愛」「自己崇拜」「虚栄心」「私利私欲にふける」、そして「自我と情欲の虜」であることは、神から与えられた、私たちの個性の属性を抑圧するような雰囲気を生み出します。以上の文節を踏まえて、自己への没頭がどのように精神的成長と道徳的發展を妨げ、奉仕の効果を低下させるか、いくつかの文章で述べてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 7

三つ目の引用文のセットは、執拗な自我をどう扱うかについて、聖典から見つけられる多くの助言のごく一部です。

今日、アブハ王国の確証は、自己を放棄し、個人的な意見を忘れ、嗜好<sup>しこう</sup>を退け、他の人々の福利を考える者達と共にあります。自己を失くした者は誰であれ、宇宙とそこに住む人たちを見つけた者です！自らに没頭する者は、誰であれ、無思慮<sup>かいこん</sup>と悔恨の砂漠をさまよう者です！自己修練のマスターキーは自己を忘れることです。生命の宮殿<sup>きゅうでん</sup>への道に至るには自己放棄の道を通ります。<sup>17</sup>

神は私たちに物事の真実を見抜く力を与え給いました。しかし、私たちは自己を放棄し、純粋な精神と純粋な意図を持ち、この人間世界にあって不朽<sup>ふきゅう</sup>の栄光に達するよう心魂込めて努力しなければなりません。<sup>18</sup>

それゆえ、悪魔的な自我のヴェールを愛の炎で焼き払わなければならない。それにより精神を清め、洗練できるように、そして、その存在なくして世界は創造されなかったであろう彼の地位を理解することができるようになる。<sup>19</sup>

あらゆる私心<sup>ししん</sup>を捨てて、ひたすら神の意志に従順に従うよう努力すべきです。これこそは神の王国の市民となり、永劫不滅<sup>えいごうふめつ</sup>の生に到達する道なのです。<sup>20</sup>

自己に飽き飽きし、あの『光輝のお顔』に結び付くよう、できる限りのことをせよ。そして、ひとたびそのような隷属<sup>れいぞく</sup>の高みに達したなら、汝ら<sup>したかげ</sup>の下陰にすべての創造物が集まっているのを見出すであろう。これは限りなき恩恵、これは最高の主権、これは不死の生命である。これ以外はすべて、最終的には明らかな破滅であり、大いなる損失に過ぎない。<sup>21</sup>

それゆえ、おお友よ、比類なき御方を発見できるよう、自我を棄てよ。天の住処に汝の巢を見出せるよう、この滅びる世界を超えて舞い上がれ。もし、汝が存在の火をともし、愛の道にふさわしくなることを望むならば、無となれ。<sup>22</sup>

自己への想いはすべて忘れよう、地上の全てに対して目を閉じよう。我らの苦しみを知らせまい、また不当な扱いを嘆くまい。むしろ、自分自身のことに頓着せず、天来の恩恵のワインを飲もう。我らの喜びに声をあげ、栄光に満ち給う御方の美に我を忘れよう。<sup>23</sup>

おお世の人々よ。自我の誘惑に従うな。それは、邪悪と肉欲へと執拗に呼びかけるものである。むしろ、全創造物を所有し給う御方であり、汝らに敬虔な態度を示すよう促し、神への畏れを表すよう命じる御方に従え。<sup>24</sup>

上記の文節が示唆する態度は、今日の多くの社会に特徴的な自己の偶像化(崇拝の対象とすること)や自己満足への執着とは対照的です。これらの箇所から、私たちが自己に対して取るべき態度をいくつか挙げてみましょう。例を二つ挙げますので、参考にしてください。

- 私たちが学ぶべきは、自己を放棄し、個人的な意見を忘れ、嗜好を退け、他の人々の福利を考えることです。
- 私たちが学ぶべきは、自己を放棄することです。
- 私たちが学ぶべきは、  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
- 私たちが学ぶべきは、  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
- 私たちが学ぶべきは、  
\_\_\_\_\_

---

- 私たちが学ぶべきは、

---

---

- 私たちが学ぶべきは、

---

---

- 私たちが学ぶべきは、

---

上記で特定した態度が、いかに崇高な存在の発展に貢献し、奉仕の行いに力を与えるかについて、グループで話し合ってください。

## セクション 8

最後に、アブドル・バハの次の言葉は、自己犠牲と社会の変革に貢献する能力との相互関係を思い起こさせます。

人類の大半は、自己と世俗的な欲望で頭がいっぱいで、冥土の海に身を浸し、自然界の虜とりこになっている。しかし、物質界の鎖と足かせから解放され、敏捷びんしょうに舞う鳥ごとの如く、果てしない領域を飛んでいる魂は別である。彼らは目覚めていて、警戒を怠おこたらず、自然界の暗さを遠ざける。彼らの最高の望みは、人々の間から生存競争を根絶すること、精神性と天上の領土への愛を輝き渡らせること、人々の中にこの上ない優しさを示すこと、宗教間の親密な繋がりを築くこと、自己犠牲の理想を実行することである。そうすれば、人間世界は神の王国へと変容するであろう。<sup>25</sup>

おお神の軍隊よ！今日、この世界で、あらゆる民族は、それぞれ自らの砂漠をさまよい、幻想と思いつきに従ってあちこち動き回り、自らの

気まぐれを追い求めている。地上のすべての、<sup>あふ</sup>溢れんばかりの群衆の中で、『最大名』のこの共同体のみが人間的な策略から解放されていて、利己的な目的を一切促進していないのである。すべての人々の中でこの人々のみが、自我から清められた <sup>こころざし</sup>志 を持って立ち上がり、神の教えに従いながら、一つの目標に向かって熱心に努力し、奮闘している。その目的とはこの下界の塵を <sup>ちり</sup>高きにある天国に変えること、この世を神の王国の鏡とすること、この世界を異なる世界に変えること、全人類に公正な方法と新しい生き方を取り入れさせることである。<sup>26</sup>

なんじ  
おお、汝ら神に愛されし者らよ！このバハイの宗教制において、神の大業とは混ざり物のない精神である。彼の大業は物質界に属するものではない。それは争いや戦争を起こすものでも、有害な行動や恥<sup>は</sup>ずべき行動をもたらしものでもない。他の信教との口論や国家との戦いのためのものでもない。その唯一の軍隊は神の愛であり、その唯一の喜びは神の知識<sup>すき</sup>の澄み切った美酒であり、その唯一の戦いは『真実』を説くことである。その唯一の聖戦<sup>しつよう</sup>は、執拗な自我、人間の心の邪悪<sup>じゃあく</sup>な衝動に対するものである。その勝利は服従し<sup>くつぷく</sup>屈服することであり、無我であることがその永遠の栄光である。<sup>27</sup>

上記の文節は、アブドル・バハが「神の軍隊」に属すると考える人々、すなわち「神に愛され」る人々、「物質界の鎖と足かせから解放された」人々の特徴的な資質について述べています。以下の文章を完成させながら、これらの特質について考えてみてください。

- [illegible]

\_\_\_\_\_を示すこと、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_を築くこと、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_を実行することである。

c. 今日、この世界で、あらゆる民族は、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_動き回り、\_\_\_\_\_を追い求めている。

d. 『最大名』のこの共同体のみが\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_促進  
進していないのである。すべての人々の中でこの人々のみが、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_を持って立ち上がり、\_\_\_\_\_に  
従いながら、\_\_\_\_\_熱心に\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_。その目的とは\_\_\_\_\_を\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_に変えること、\_\_\_\_\_を\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_とすること、\_\_\_\_\_を\_\_\_\_\_に変  
えること、全人類に\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ことである。

e. 神の大業とは\_\_\_\_\_精神である。それは\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_に属するものではない。その唯一の軍隊は\_\_\_\_\_であり、そ  
の唯一の喜びは\_\_\_\_\_で  
あり、その唯一の戦いは\_\_\_\_\_である。その唯一  
の聖戦は、\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_に対するものである。その勝利は\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_であり、\_\_\_\_\_であることが\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_である。

## セクション 9

バハオラによって<sup>あらわ</sup>顕された祈りからの次の引用文を暗記してみましょう。

おお、わが主よ。彼らに、あなた御自身を顕示し給うた御方の前で、自らは無力であるという感覚を起こさせ、あなたご自身が自ら満ち足らしめ給う御豊かさの無数の証拠の前で、彼ら自身の性質の貧しさを認識するよう教え給え。されば、彼らはあなたの大業の周りに集い、あなたのご慈悲の裾<sup>すそ</sup>を握りしめ、あなたの御心のお喜びの御綱<sup>つな</sup>にすぎることでしょう。<sup>28</sup>

されば、おお、わが神よ、あなたの<sup>しもべ</sup>僕らから自我と欲望の<sup>ころも</sup>衣を剥ぎとり給え。あるいは、自分たちの要求の中にあなたの永遠なる栄光の優しい風の動きの他に何も見出すことなきよう、あなたの人々の目を高きに引き上げ給え。また、彼らは自分自身の中に、慈悲深きあなた御自身の啓示以外の何ものも認知できぬようなし給え。それにより、地上とそこに存在するすべてのものは、何であれ、あなたと<sup>あい い</sup>相容れないもの、あなた御自身以外のものを表すいかなるものからも清められるように。<sup>29</sup>

## セクション 10

ジュニアユースの育成に関心を深めていくにつれ、思春期を説明しようとする多くの理論に精通するようになるでしょう。その中で、あなたが繰り返し出会う言葉の一つは、「危機」——アイデンティティ、感情、親との関係、権威との相互作用などに関連する——でしょう。危機的な状態があらゆるジュニアユースの必要条件であると考えたことのないよう、これらの理論を批判的に見る必要があります。すべての若い人の人生は、主に、ある種の激変によって特徴づけられることが不可欠なのでしょうか？ 歴史を通して、ジュニアユースは混乱と困惑を経験してきたのでしょうか、そして、今日のあらゆる文化や社会において彼らはそのような危機を通り抜けているのでしょうか？

これらの問いに答えようとするとき、若者を対象とした一般的な研究のほとんどが、自己、満足、生物学的変化、性的意識、物質的成果(キャリア、収入、社会的地位)を過度に重視する枠組みの中で行われていることに気づくべきです。彼らはしばしば、階級、人種、性別に焦点

を絞り、すべての人間の魂に内在する神から与えられた資質を無視しています。このような研究から得られる洞察のいくつかは、もちろん、この年齢層の特徴を理解しようと努力する際に役立つでしょう。しかし、このような研究に触発された取り組みが、若者を物質主義社会の規範に順応させる以上のことができるかどうかは疑わしいと言えます。それとは対照的に、あなたが抱くジュニアユースの概念は、「常に進歩する文明を前進させる」個人、「和合を築く者」、「正義の擁護者」となる個人の精神的なアイデンティティの発展を求めるものではないでしょうか。

この点で忘れてはならないのは、若者が他人からどのように見られているかが彼らに多大な影響を与えるということです。したがって、社会に広がっている思春期の暗いイメージは、望ましくない振る舞いのパターンが伝播する条件を助長することになります。例えば、ジークムント・フロイトの「思春期は一時的な精神疾患である」という発言や、アンナ・フロイトの「思春期に正常であること自体が異常である」という示唆を例にとってみましょう。このような発言は、人々がジュニアユースの真の能力を見るのを妨げるヴェールとして働きはしないでしょうか？ これらの科学者は、どのような証拠によって、このような大げさな結論に至ったのでしょうか？ もちろん、思春期について、より好意的な言葉で語る教育者も数多くいますが、彼らの考えがこの問題に関する論議で優位を占めることはありません。親、そして教師の心にも根強く残っているのは、反抗的、理性的でない、軽薄といったイメージです。このような考えがその血管に脈々と流れている社会は、若い人たちが本書の最初の章で述べたようなユースになるのを、どのように手助けできるでしょうか。

## セクション 11

上述の話し合いの文脈において、私たちはあなたが次のような立場を採用することを提案したいと思います。もし、ジュニアユース・グループに、望ましくない振る舞い——正常な成長過程に特徴的な危機と勝利の連続的な段階から自然に生じる振る舞いを超えた——が見られるときはいつでも、その原因を社会環境に求めるべきです。ここで言う社会環境とは、ことによると、目覚めた若い心が、以前は無条件に信頼していた大人の生活の中に発見する目に余る矛盾や、子ども時代の習慣を捨てようとしている個人の合理性を大人が認識できないことを指します。

もちろん、この立場は、思春期の振る舞いに衝動性や反抗性がまったくないと主張するものではありません。示唆しているのは、社会環境、特に大人の行動が、この年齢と結びつけられるようになった望ましくない特徴の多くに大きく関わっているということです。この主張の意味を探るために、以下の文の妥当性についてグループで話し合い、さらにその考えを詳しく説明する他の文を作るとよいでしょう。

- ジュニアユースは、自分たちが守っていない基準に従うように言う大人に反抗する。
- 教え諭<sup>さと</sup>するような口調で忠告されると、ジュニアユースは反抗的に見える。
- 世界が、知的能力の発達を妨げるような表面的な活動しか提供しないと、ジュニアユースは軽薄になる。
- 子どもの時に制限のない自由を与えられていた場合は特に、大人が厳しい規則を押しつけると、ジュニアユースは規律を軽<sup>かろ</sup>んじる。
- 周囲の大人が、自分の決断がどのような結果をもたらすかを考えるようジュニアユースを援助する方法を知らないと、彼らは衝動的に見える。
- 社会への無私の奉仕ではなく、自尊(感情)を教え込まれると、彼らはプライドが高くなる。
- 絶え間ないプロパガンダに肉体的欲望を満たすよう唆<sup>そそのか</sup>されると、彼らはわがままになる。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 12

万国正義院は、「寛大すぎる社会」の「放縦<sup>ほうじゅう</sup>と墮落」と、その影響からユースが身を守る必要性について述べておられます。

…バハイたち、特にバハイユースが寛大すぎる社会の放縦と墮落とに屈することなく、彼らが支持しようと努力している崇高な行動規範が精神的原則にしっかりと根付いたものであり、それが彼らに自信、自尊心、真の幸福をもたらしているということが認識されたとき、神の大業は大いに益を受けるでしょう。一方、もしその信者たちが現在の風潮にあっさりと呑み込まれてしまうなら、この大業に及ぼし得るのは、ただ最大の害のみです。<sup>30</sup>

次の一節で、守護者はそのような社会の本質と、それが私たち全員に及ぼす影響について深い洞察を示しておられます。

実際、社会に今、蔓延する邪悪の主な原因は、精神性の欠如にあります。この時代の物質的文明は、人類の活力や関心をあまりにも吸い上げてしまい、人々は一般的に、自分たちの日々の生活の物質的存在の勢力や状況から自らを引き上げる必要性をもはや感じなくなっています。肉体的な存在としての必要性や要求と区別するために、精神的なもの、と私たちが呼ぶべきものに対する十分な需要がないのです。<sup>31</sup>

守護者は、今日の社会で働く破壊的な勢力について述べる際に、道徳的な転落の兆候をいくつか挙げています。結婚に対する無責任な態度とそれに伴う離婚の増加、家族の結束の弱体化と親による監督の緩み、この世の虚栄・富・快楽を追い求める熱狂、贅沢な放縦への墮落、芸術と音楽の退廃、文学と報道の水準の低下、人種的反感と愛国的傲慢などです。これらの悪の影響を受けない人はいませんが、若者には特別な影響を与えます。たとえば、離婚がもたらす結果を考えてみましょう。幼い子どもは、両親が離婚したとき、間違いなく深い悲しみを感じ、和合のある家庭の安全と安心を切望します。しかし、両親の結婚が破綻したとき、罪悪感、怒り、恥、屈辱といった感情に圧倒されるのは思春期の子どもです。離婚に対する両親の責任を認める一方で、家族の不幸を自分のせいだと責めずにはいられないのです。結婚や家族生活に対する懐疑の種が心に植え付けられ、その悲観論は、周囲の社会で観察される離婚の増加によって裏付けられるでしょう。

1. 上に挙げたような社会的状況のいくつかが、若者の現実認識、自分自身についての考え方、人生観、気持ちや感情、善悪を区別する能力、他者に対する振る舞い、社会制度に対する信頼感の形成にどのような影響を与えるかについて考えてみるとよいでしょう。示されたさまざまな状況について考え、あなたの考えを以下に書き込んでください。

a. 寛大すぎる社会の放縦と墮落:

---

---

---

---

---

---

b. 家族の結束の弱体化と、親による監督の緩み:

---

---

---

---

---

---

c. この世の虚栄・富・快楽を追い求める熱狂、贅沢な放縦への墮落:

---

---

---

---

---

---

d. 芸術と音楽の退廃、文学と報道の水準の低下:

---

---

---

---

---

---

e. 人種的反感と愛国的傲慢:

---

---

---

---

---

---

---

2. 社会情勢の悪化がジュニアユースの生活にどのような影響を及ぼしているかを考えるとき、どのような感情があなたの心を満たすでしょうか。このような気づきは、彼らが本来持っている能力を伸ばすのを助けるために、どのような形であなたの努力を強めるでしょうか。

## セクション 13

崩壊しつつある世界の兆候に注目することは、今日の社会で同じく作用している建設的な力の重要性を否定することではありません。必要なのはジュニアユースの精神的な力が養われるような環境を提供すること、それによって、彼らが適切な社会的勢力によって影響されるよう確実にすることです。彼らを社会の害悪から完全に隔離しようとする試みは無駄です。むしろ、自分たちの考えや感情に環境が及ぼす影響について判断し、分析する能力を養うよう援助されるべきです。これに関連して、プロパガンダの問題に格別な注意を払う必要があります。なぜなら、多くの社会で、プロパガンダはジュニアユースの価値観や態度や考え方を形成しているからです。そのことは、広告の特徴の幾つかを少し見るだけで分かります。

プロパガンダを支配している物質主義的な勢力は現実を歪めて<sup>ゆが</sup>います。例えば、広告で使われる、完璧で、達し難いような外観のイメージは、自己認識が高まり始める時期にいる若者の感情につけ込んでいます。多くのメッセージの中で、若い女性の主な仕事は男性を魅了することとして描かれています。さらに、しばしば暴力行為や危険を冒<sup>おか</sup>すことを容認し、性的な冒険や征服を奨励するくらいにまで、男らしさを純粹に肉体的な力で定義する傾向が強調されます。何であれ、弱いと見なされるものはにべもなく拒絶され、攻撃的な振る舞いが組織的に伝播します。面白いことに、ある特定の種類のたくましさは、女の子がそれを取り入れるよう誘導することを目的として、魅力的なものとして映し出されています。

若者向けの広告の多くの主な目的は、彼らが仲間入りしたいと願う文化を作り出すことにあるのは間違いありません。その文化の中で若者は共通の言語をしゃべり、同じような振る舞いをし、とりわけ、無<sup>む</sup>尽<sup>じん</sup>蔵<sup>ぞう</sup>の品<sup>しな</sup>数<sup>かず</sup>の製品を消費するのです。さらに重要なことは、彼らが、その後の生涯の消費パターンを決定することになる、精巧な価値観の手ほどきを受けることです。そもそも、「ティーンエイジャー」という言葉自体、社会のこの層の人達を代表とした有望市場をうまく利用するために数十年前に作り出されたものであったということは特筆すべきことです。

目覚めつつある欲望を完全に食べ物にするために、広告によって伝播されている文化では性的関心を若者の生活の中心に置いています。性的関心とは何のつながりもない清涼飲料のような商品が、若者の心に、ロマンティックな恋愛関係の幻想を抱かせるために使われています。性的アピールや、屈辱感からの解放を約束する化粧品や新しいファッションを売り出すために、体臭や、欠点のある肌、流行遅れの服などによって拒絶されるのではないかとといった不安や、自分が不十分であるという感覚を、彼らの心に抱かせます。自動車でさえ、「熱い」とか「ハンサム」とか「思いのままのかわいい子ちゃん」といった性的な含みのある言葉で説明されています。過去数十年間で道徳基準は低下し、道徳的に受け入れ難い内容の広告がますます露骨になってきました。徐々に、消費主義のある面は、それ自体が性的活動の形態になりつつあります。

世界的に拡大する「ティーン」の市場で、ブランドが果たす役割については特筆に値します。この市場の可能性をどう活用するかを臆面もなく探る研究は、ブランド・アイコンへの崇拝が消費主義の強力な要素であることを示唆しています。どうやらブランドは、思春期の不確かな世界における錨<sup>いかり</sup>のような役割を果たすようです。さらに言えば、ブランドはしばしば、広告によって魅力的なものとされたグローバルな若者文化へのパスポートとみなされます。当然のことながら、このようなマーケティング手法が促進する文化は、各国で拡大している貧困には無<sup>む</sup>頓<sup>とん</sup>着<sup>ちやく</sup>です。あらゆる背景を持つ若者たちに、消費財が無<sup>き</sup>限<sup>ぎん</sup>の喜<sup>き</sup>びの源であると信じ込ませるために、世界人口における少数派<sup>きようじゆ</sup>が享受している豊かさのイメージを投影しているのです。

「ティーン」市場に関するある研究では、若者は特定の種類の商品消費する傾向があるという属性によってカテゴリー分けされています。そのカテゴリーとは、広告がより効果的にターゲットを絞ることを可能にするものです。たとえば、その中のある研究では彼らを6つのグループに分類しています。自分達の運命を定められているものとして認識し、最小限の努力で何とかやっ払いこうとする「諦めている人たち」。快楽を追い、社会的・政治的関心を心に全く持たず、ブランドアイコンの崇拝に参加する用意のある「刺激を探究する人たち」。このグループと本質的には同じですが、困難な仕事に立ち向かう活力と能力があり、商品やサービスを、前進し、競争力を維持するための手段とみなす点異なる「野心家たち」。政治的・社会的反抗を避け、家族と密接な関係を保つ順応者<sup>じゅんのう</sup>で、製品の品質と利点を重視する識別力のある購買者である「静かな達成者たち」。同じく順応者ですが、学求的志向はなく、頭の中はスポーツの統計や、チームや選手の名前で一杯、政治的・経済的問題の入る余地がほとんどない「支持者たち」。そして、最後は、世界に前向きな変化をもたらすことを望んでいる「世界の救済者たち」。その重要性は、社会的大義を、売べき商品に変える機会をマーケティング担当者に提供することにあります。

すべての物事は、ブランディングや消費主義の影響を受けやすいように思えるでしょう。特に変化の激しいソーシャルメディアの分野では、人の生活のあらゆる側面が消費の材料となり得ます。表向きは「シェア(共有)」「友情」「ネットワーキング」を通じて世界をより良い場所にするために作られたプラットフォームは、実際には目もくらむような広告の経路として機能し、その届く範囲を広げ、浸透を深めています。しかし、どんなに不愉快であっても、ここで紹介する簡単な分析は、広告そのものを非難するためのものではありません。その目的は、商業的、政治的、民族的、文化的なプロパガンダを批判的に検討するあなた方の能力を高めることです。それにより、みなさんはジュニアユースが自らの思考や振る舞いに広告が与える影響を特定する手助けができるでしょう。以下の練習問題は、この複雑な問題についてさらに考える助けとなるでしょう。

1. 広告では、普通の商品をワクワクするような物に見せる言葉や映像が使われます。物事を実際よりもずっと意義のあるものにするためにシンボルが使われます。例えば、飲み物については、単純に、のどの渇きを潤<sup>うるお</sup>すと述べるのではなく、歓喜と達成感をもたらすものとして描写します。ファッション業界によって採用されるシンボルは、衣類や化粧品をより引き立たせます。若々しさというシンボルでキャンディを売ります。冒険心とスポーツマン精神というシンボルは、お酒の売り込みを助けます。何かをよりよく見せるため、本来あり得ないような表現で説明している広告や宣伝文句やイメージの例をあげることができますか。

---

---

---

2. 何であれ、買うことで得られる幸福の錯覚は、ほんのわずかの期間しか続きません。さもなくば、私たちは持っているもので満足し続けるでしょう。ですから、広告は絶えることなく欲望を抱かせ、自分が今持っているものでは完全には満足しないように仕向けます。広告はどのようにこの目的を達成していますか。

---

---

---

---

3. 前にも述べたように、社会的大義でさえも時には商品化されます。例えば、どんなものがありますか。

---

---

---

---

4. 現在のメディア環境では、残念なことに、高尚な願望が商業目的のために利用されています。高貴な感情を呼び起こす言葉や言い回しが商品の宣伝に使われ、人類の精神的遺産のさまざまな側面が、購入すべき商品として扱われています。いくつか例をあげることができますか。

---

---

- 
- 
- 
5. あなたの地域のジュニアユースが関わっているソーシャルメディアのプラットフォームについて考えてみましょう。そのようなプラットフォームへの参加は、彼らが形成する友情の性質、彼ら自身に対する見方、彼らの希望や願望にどのような影響を与えているでしょうか。この観点から、次の文の妥当性を考えてみましょう。「ソーシャルメディアへの参加を通じて、ジュニアユースは無意識のうちに自分自身を商品として認識し、提示するようになる可能性があります」。
- 
- 
- 
- 
- 

## セクション 14

ここで注意すべきことがあります。つまり、今日の社会がどれだけ若者たちに害を与えるものであろうとも、あなた方の取り組みにおいて、それらを強調し過ぎるのは間違いだということです。私たちはジュニアユースを、周りの悪から常に保護されていなければならないデリケートな存在として扱う習慣に陥りがちですが、そのようなアプローチは決して彼らの精神性を高めることにはつながりません。あなた方の努力の焦点となるべきは、社会変革の決定的な担い手として行動し、社会の向上に貢献する彼らの潜在能力の現実化です。問題の多いこの現代社会においてさえ、どの文化圏にも、自分たちが暮らす環境の嘆かわしい状況を超越し、奉仕への熱意や学習意欲、鋭い正義感、利他主義への強い傾向といった特性を一貫して示してきたジュニアユースの例は数多くあります。

多くの教育者が、思春期のこの過渡期に現れる生来の知的・精神的力のいくつかについて語っています。例えば、数人の教育者は、ジュニアユースが理論的な問題に関心を示していることを強調しています。またある教育者は、思春期の若者たちが社会変革において果たし得

る役割について力説しています。つまり、いつの時代でも彼らは、「真実であると感じ続けられるものを保持するためにも、再生力としての重要性を失ったものを革命的に矯正<sup>きようせい</sup>するためにも、その忠誠心とエネルギーを提供することができる」、「社会進化における重要な生命再生装置」だと言うのです。更にまた別の教育者は、思春期にある人々を、その「存在」全体で物事を受け取ることができる「まだ成長の途中だが、十分に形成された有機的な容器」に例えています。彼は、彼らが変革をもたらす可能性に注目し、教育はさまざまな知覚様式を利用すべきであり、ユースがあらゆる経験にもたらし得る集中度を利用すべきであると主張し、そのような集中度は、「存在の高潔さとともに」、人間社会を「冷たく、機械的で、空虚な理論的概念ではなく、生き生きとして、繁栄し、真に愛情のある、喜びに満ちた、はつらつとした有機体」にすることができると言及しています。「それが変革の不思議な力であり、思春期の可能性」であると述べています。

このセクションで引用した文と前のいくつかのセクションでの分析とから、思春期の概念を明確にする上で、いかに注意深くあるべきかを示しています。あなたはこれからの数年間、このテーマに関するさまざまな見解を批判的に検討することになるのは間違いありませんが、人間の人生におけるこの重要な時期の意義についての理解は、主にこの章と第一章の引用文にあるような聖典や書物の一節によって大きく形成されることでしょう。また、あなた自身がジュニアユースと接した経験によって、その確信が確かなものになることは間違いありません。

## セクション 15

ルビ・インスティテュートがジュニアユース・グループの学習のために準備した一連のテキストは、この幹コースで使うブックと同様、特に最初の数冊は、一見すると、確かに簡単に見えます。それは、主に、使われている言葉や練習問題の易しさによるものですが、扱われている概念は複雑かつ深遠です。この教材全体に流れる思考の流れは、決して子どもじみたものではなく、この教材を学ぶジュニアユースに、問題を深く考察するよう促すものです。そのような彼らの能力を理解してもらうために、このセクションと次の二つのセクションでは、何らかの形で暴力の影響を受けたことのあるジュニアユース自身の考えを紹介します。このような若者の暴力的な振る舞いに関する多くのイメージがメディアに映し出されているので、語られることのない、彼らの喪失と希望の物語にも耳を傾けることが適切でしょう。

最初のお話は13歳の少年のもので、実名を伏せて、ピーターと呼んでおきましょう。彼は8歳の時から暴力と戦争の影響を目の当たりにしてきました。13歳になった時、自分の行動が引き起こす結果——ある同級生たちからの残虐なあざけりを含む——を受け入れつつ、あちこちの学校や若者たちの組織で平和を呼びかけ始めました。

「僕はどんなことにも煩<sup>わづら</sup>わされませんでした。僕の家族は、自分たちの共同体に気を配り、共同体のために自分たちにできることは何であれすることが大事だと信じていました。僕はまだ13歳でしたが、僕たちにとって最大の問題は暴力と戦争だとわかっていました。他の何よりも平和が必要でした。もちろん、平和をつくり出すことは子どもの力では大変ですが、努力しなければ何も起こらないのです。…」

「僕の国ではもう何年もの間、たくさんの嘘が飛び交<sup>か</sup>っていたので、人々は何を信じ、誰を信用したらいいか分からなくなっていました。新聞もラジオもテレビも政治家も武装勢力も信用することができません。でも、子ども達が、暴力やそれが僕たちにもたらす影響について、そして、僕たちがどれほど平和を望んでいるかという話をすると、なぜか真実と分かってくれるのです」

「ある人たちは、自分たちは貧しい人達のために戦っているのだと言います。しかし、戦争で一番苦しんでいるのは貧しい人達です。復讐のために、あるいは、権力のために戦っている人や、他に選択肢がないと思って戦っている人がいます。若い人達の中には、家族が貧しくて他に手段を見つけることができなかったために武装勢力に入る人もいます」

内乱が激しくなり、ピーターと家族は脅されて町を出て行かなければならなくなりました。彼の父親は、職場と新しい町を行ったり来たりしていましたが、比較的平穏だった暮らしは長くは続きませんでした。平和活動を積極的に支援していた父親が、ついに暗殺されてしまったのです。

「僕は紛争の真<sup>ま</sup>ただ中に暮らしていたので、戦争がどんなものを分かっていたつもりでした。夜間、通りで戦闘がありました。銃声で目が覚めたこともたびたびでした。朝、学校に行くと戦いの跡を目の当たりにしました。あちこちの歩道に飛び散った血、弾丸で穴だらけになった建物。父の仕事場からそんなに遠くない所にあった死体置き場で犠牲者を見たこともありました」

「僕はこれらのことを、自信をもって語りました。まるで戦争とは何かを知っているかのように…。でも父が殺された時、僕は打ちのめされました。悲しみからだけでなく、その時初めて、戦争というものを、身をもって知ったからです。戦いたいという気持ちがどんなものかを知りました。どんなに平和を望んでいたとしても、戦争が直接、自分を襲った時、人は暴力へ一歩近付くということを知りました。これこそ、僕の国であんなに多くの人を陥<sup>おとし</sup>れた罠だったのです。…」

「その後は何もかもが違っていました。家は死んだように静まり返った抜け殻でした。いつも見慣れていた通りがどこも違うものに見えました。どこもかしこも安全だとは感じられませんでした。自分が平和のために努力してきたことは全部まったく価値のない事に思えました。だって、父を救うことはできなかったんですから。僕の町を呑み込んだおぞましい暴力は、ついに僕の家族の心臓を打ち抜きました。そして、僕はそれを止められなかったのです。僕は自分を責めて、自分に問いました。『父さんがあんな狂暴なやり方で殺されなければならないなんて、僕は一体何をしていたんだ』と」

彼の家族への脅しは続きました。ピーターは愛する家族を守るために銃を購入しました。父が殺されて、10日後の夕方、ピーターの家族は全員、二階の部屋に集まっていた。彼が一階の台所に降りてきた時、銃を持った侵入者が、庭から二階の窓をのぞいているのが見えました。

「僕は、銃を取ってきてこの男を殺すことができると分かっていました。…父の仇を討つことができる。僕の家族を守るためだ。彼を撃っても、この国で僕を咎める人はほとんどいない。…確かにそうでした。でも、僕は何もしませんでした。…父は僕に平和のために尽くす事を望んでいました。それなのに、今、僕が暴力をふるえるのでしょうか。僕が父に敬意と愛を示す唯一の方法は、そして僕の家族を救うただ一つの方法は、平和を築くよう努力することでした。彼を殺すことで、僕に、僕の家族に、僕の国に、平和がもたらされるのでしょうか。むしろ彼を殺すことで、僕はすべてを失うでしょう。僕は彼と同じ類いの人間になってしまいます」

ピーターは侵入者を静かに見ていました。しばらくすると、その男はなぜか背を向けて去っていきました。その後、間もなく、ピーターは銃を捨て、もう二度と銃は持たないと誓いました。

次のお話を読む前に、ピーターがもつ際立った資質をいくつか挙げ、この深遠なテーマを省察する彼の能力について、以下に書いてください。

---

---

---

---

---

---

## セクション 16

メアリー(これもやはり仮の名前ですが)は常に紛争の恐れがある環境で育ちました。彼女は幼い頃に、友人たちのグループと意見を異にすることの代償を知りました。

「私が11歳の時、友達から完全に無視されました。みんなが口げんかをしているときに友達の側に立たなかったからです。私の友達のグループは、クラスで起こった盗みの犯人として、ある女の子を責め、そのため、大げんかになりました。その女の子の側に立つか、対抗するか、そのどちらかが求められていました。私の友達は皆、彼女に対抗する側にまわりました。みんなは私も同じ側に立つと思っていましたが、その女の子が盗んだ証拠はありませんでした。私は確信が持てなかったし、だからと言って、友達に反対するのも嫌だったので何も言いませんでした。みんなは怒って、まる1年間、誰も私に話しかけませんでした」

メアリーは、ある若者と仲良くなり、他の女の子たちにかかわれましたが、彼に好意を抱くようになりました。二人は一緒に長い時間散歩したり、自分たちの将来について話したりしました。でも、ある日、メアリーは彼が銃の手入れをしているのを見つけました。彼が銃を持っているとは知りませんでした。

「私が近付くと、彼はまるで何も変わったことはしていないかのように微笑みかけました。私はずっと暴力や、銃や戦争が大嫌いでした。彼は人がよくやるように、言い訳をしようとしてました。でも、私は即座に、私たちはもうおしまいと言いました。『こんな生活は送りたいくないし、自分の子どもにもさせたくないわ』と言ったのです。今では冗談のように思えますが、若かった私には世界が真っ二つに割れたように感じたのです」

このことがあってから、メアリーの成績は落ち始め、お母さんは心配しました。そんな時、彼女はある先生に相談しました。

「私は友達のこと、銃のこと、友達から無視されたこと、女の子達のいじめ、恥づかしさと心の痛みなど、すべてを打ち明けました。先生は私の事を笑わなかったし、

私を幼稚だとか滑稽だと思わせることもありませんでした。…」

先生は私に言いました。『考えてご覧。君の将来は君の手の中にあるんだよ。君の将来は他の誰のものでもない。君の親のものでもなければ、それにその少年のものでもない。それは君のものだ。だから、それを君は思い通りにできるんだよ』

メアリーは14歳のとき、既に彼女が通う学校の生徒たちのリーダーで、同級生や年下の生徒たちに平和を呼びかけていました。次の言葉は、当時のメアリーが考えていたことです。

「貧困を終わらせることで戦争を終わらせることができると私たちは知っていました。でも、私たちは何も出来ませんでした。失業者を減らすことが役に立つと分かっていたんですが、それについても何も出来ませんでした。銃や鉦なたを使うのを止めさせることも。私たちは暴力を終わらせることは出来ませんでした。でも私たちの間に平和を打ち立てることは始められると信じていました。・・・」

「私はどんなことであれ、日常と異なったことに対してとても敏感でした。時々、何か悪いことが、特に自分の家族に何か起こるのではないかといった恐怖に襲われ、涙が出て、逃げ出したい気持ちになったりしました。でも、他の子ども達は私を頼りにしていて、ある意味では私自身のまだ生まれていない子ども達も私を頼りにしているんだと感じていました。顔を背けることはできませんでした。どんなに恐くても。私は、ただ注意して安全であるようにすることしかできませんでした」

メアリーのもつ顕著な資質を幾つか挙げましょう。

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 17

ここに別の三人の若者の話を紹介します。彼らの一人ひとりが、最も高潔な考えと優しい感情を表しています。最初は16歳の少女の話です。彼女が12歳の時、親友が非行少年グループの争いに巻き込まれ、刺し殺されました。彼女はその友達のことを忘れられず、平和の促進に己を捧げることを決意しました。後に、彼女は暴力の被害にあった子ども達を助け始めました。

「8歳とか9歳の幼い子ども達が非行少年グループに入ります。そうすることがかったいいとか、街で自分達を守ってくれるだろうという理由からです。多くの場合、子ども達は家庭内暴力から逃げようとしているだけですが、街では状況はもっと悪くなっていることに気付きます」

「私は…にバスで行かねばなりません。バスの運転手さんのほとんどが、私がどんな活動をしているか知っていて、運賃も私が払えるだけにしてくれ、よく、ただで乗せてくれます。…への道はくねくねした上り坂で、険しい崖の近くに危なっかしく粗末な丸太小屋が連なり、建設用に岩が削り取られた山が切り立っています。きつくて骨の折れる採掘の仕事は、低賃金だけど、立ち退きを余儀なくされたたくさんの家族の子ども達はここで働いています。彼らの家族は貧しく、子ども達は学校をやめ、お金を稼ぐために何でもします。

滑りそうなぬかるみの道を足首まで浸って歩き、臭くて汚れた川の上に掛けられた仮の橋を渡ります。学校はトタン屋根の下に荒れ放題の教室6つから成り、木製の机はボロボロで、教室の隅にはごみが散らばっています。電気はありません。ある一つの教室は天窗以外に窓はありません。床は土です。雨が降ると屋根の音がうるさいので、話をする時は声を張り上げなくてはなりません。あちこちから水が漏れてきます。一つの教室の壁には、子ども達が描いた絵が飾ってあります。すてきな家の絵で彼らの周囲の環境とはまるで対照的です。たぶん、子ども達は前に住んでいた家を思い出して描いたのでしょう。あるいは、将来住みたい家を描いているのかもしれませんが…」

「多くの親の顔には悲しみが見えます。彼らは子ども達にけんか腰で話し、ののしります。でも、ワークショップの中で態度が変わることもあります。躰のために子どもを叩くべきと思い込んでいる親もいますが、そうすることで子どもを路上生活に追いやってしまう事に気付きます」

次は、11歳で家出をした女の子の言葉です。彼女は薬物の常習者になりましたが、ある友達の粘り強い助けで救われ、ついには若者たちの平和運動に参加するまでになりました。

「私たちの生活が実際どんなものだったかを説明するのは容易なことではありません。穏やかな生活を送ろうとしても、暴力に引きずり戻されてしまう場合があるということを確認、それを打ち明けることが怖かったのです。…私はずっとこの人生から逃げ出したいと思っています。とても言いづらいことですが、今、私はまた、平和運動から遠ざかろうとしています。私は自分自身に嘘をつき、友達に対して大丈夫だという振りをしていますが、実際はそうではないのです。時々、私はドラッグでハイになります。毎晩、家にはけんかが絶えません。母と義父は私にどなっているか、互いにどなり合っているかです。私は耐えられなくなって家出をします。でも、そこには若い人に害になることがいっぱいです…。私は二つの道を同時に歩いているのです。いつも平和の道の方を歩けたらいいのにも思います。私の葛藤<sup>かつとう</sup>や耐え抜いてきたことには、何らかの価値があると思います…。もっと多くの大人が喜んで協力し、私たちが学んだことに耳を傾け、一緒に活動してくれたら、若い人達は平和のためにもっとたくさんできると思います。もし家庭に平和があれば、それは素晴らしい一歩になるでしょう」

最後は15歳の少年の経験です。彼の兄は革命グループに拉致されました。しばらくして、家族は彼から知らせを受け取りました。彼は監禁されていましたが、連絡を取ることはできると知って家族は喜びました。

「僕は兄に詩を送りました。自信と希望を持ち続けてもらおうと思って。僕は兄の忠告を守って一所懸命に勉強していることを伝えました。最近、兄から返事をもらってとても嬉しいです。兄は、『君が学校の勉強を頑張っている事を知ってうれしい。僕は頑張らなかったから…、勉強しなかったことを後悔しているんだ。…例えば、本を読むのも好きではなかったけど…、ここでは様々な種類の本を30冊以上も読んだよ。まだまだ読みたい本が一杯あって、辞書もあるから、知らない言葉の意味を調べることができる。今までは、こんなこと自分から進んでしたこともなかったのに…』」

「兄は無事な様子ですが、それでも僕は心配しています。兄を拘束している人達と話が出来れば、思いやりをもって、その人達のしている事がどんなに人を苦しめているかを分かってもらうようにしたいと思います」

「もし、僕たちが平和を築きたければ、許すということはとても大切です。戦争

は、許すこと無しではなりません。僕達みたいに被害を受けた人間は特に許すということが大切です」

「僕が達成しようと取り組んでいること……、それは許しです」

このセクションに引用したユースたちが示している属性の幾つかについてグループで話し合い、自分の考えを書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 18

最後に、思春期の特質を探究するに当たって、たとえどれほど簡潔にであれ、信教の若き英雄ルホラの生涯を無視することはできません。彼は12歳で、喜々として殉教の杯を飲んだのです。7歳のとき彼は、大業の翼成者であった父のバルガと兄に同行して聖地巡礼を特別に許可されるという栄誉を得ました。ルホラはそのような聖なる環境のなかで精神性を開花させ、バハオラの存在という太陽の光を浴びたのです。話に聞いたのですが、ある日、バハオラは彼に「今日はどんなことをしたのか」と、お尋ねになったそうです。

彼は「……先生から授業を受けていました」と答えました。

「何について習ったのかな」と、バハオラ。

「(預言者の)再来についてです」と、ルホラ。

「その意味を説明してご覧」と、バハオラ。

「再来とは、真実と資質が再来することです」と、ルホラ。

バハオラはさらに質問され、「それはまるで先生の言葉のオウム返しのようなだね。自分が理解した事を自分の言葉で言ってごらん」と、おっしゃいました。

ルホラは「それは今年の木から花を切るようなものです。来年になれば、またこれとまったく同じような花が咲きますが、それは同じものではありません」と答えました。

『祝福された美』は彼の知的な返答をお喜びになり、しばしば彼を、ジェナベ(名誉あるバハイの先生)と呼ばれました。

ルホラの秀でた性質を示す話は、他にもたくさんあります。確かに彼は普通の若者ではありませんでした。それは、12歳という若い年齢でそのような犠牲の極みにまで登ったということではっきり分かります。もちろん、大業への献身や最愛なる御方の道における犠牲が殉教である必要はありません。しかし、ルホラは、以下にその一部を引用する、彼の有名な詩の中で、犠牲の神秘をどれほどの切望と限りない喜びをもって描写していることでしょうか。

聖なる恩恵の<sup>さかづき</sup>杯から私に飲ませ給え。  
そして私の罪と弱さを取り除き給え。  
私の罪は真に重いものです。  
されどわが主のご慈悲はそれに<sup>まさ</sup>勝ります。

聖なる祝宴の<sup>しゃくにん</sup>酌人よ、ようこそ！  
近寄りて私の魂を活気づけ、  
「最愛なる御方」の道で  
私が犠牲を払うにふさわしい者となし給え。

あなたが近いうちに作ろうとしているグループのジュニアユースは、ルホラのような人生を生きはしないでしょう。しかしながら、このセクションと、前の幾つかのセクションに引用された文節は、一人の人間が非常に若い時から現すことができる崇高さを示しています。この章の初めの方で、思春期における意識の目覚めは二つの方向のどちらかに向けられ得るという声明を学びました。一つは、神のご意思への服従と人類のための自己犠牲的奉仕へ。もう一つは、自我と情欲にとらわれてしまう方向です。次の数セクションにおける話し合いで、思春期の性質、ジュニアユースの可能性、および環境が彼らの生き方に及ぼす影響について探ります。ここで小休止して、今、あなたが、これこそジュニアユースの生来の可能性だと思っていること、そし

て、彼らの精神的、知的能力の発展のために何がなされるべきと思うかについて書きましょう。

[illegible]

## セクション 19

この章の多くの部分で、思春期の潜在能力について探求しましたが、ここでジュニアユースの精神性を高めるプログラムへの参加について少し触れておきましょう。この年齢層の人が最も強く切望していることの一つは、同じ年頃の仲間のグループに属することです。若い人は自分達のことを理解し共感してくれる友達にアドバイスを求めることで安心感を抱くのです。ですから、「ジュニアユース・グループ」の概念を中心としたプログラムを組織し、メンバーが定期的に集い、行動し学べるよう系統的な指導を受けることは、当然のニーズに対する自然な対応です。集まりの雰囲気は楽しくうちとけた親しみのあるものですが、軽薄な内容のものであってはなりません。それよりも、大業と人類への奉仕の人生に必要な資質や姿勢の向上に貢献する雰囲気であるべきです。集まりではグループのメンバーは非難や嘲笑<sup>ちやうしやう</sup>を気にすることなく自分の考えを述べ、また自分の質問に対する答えを求めることができます。彼らは聞き、話し、振り返り、分析し、決定し、それに基づいて行動する事を学びます。

それぞれのグループには、ジュニアユースにとって真の友達で、彼らが能力を伸ばす上で援助することができる年上の人が必要で、そのような役割をする人は、「アニメーター」として知られています。アニメーターの存在によって、グループのメンバーは、希望を失うことなく、彼らを取り巻く社会に作用している道徳的退廃の勢力から自分達を守ることができるだけでなく、社会の改善に貢献できるのです。このような役割を果たすのは特定の年齢だけの特権ではありませんが、17歳以上の若者が優秀なアニメーターになる傾向があります。なぜなら、彼らはジュニアユースを子どもとしてではなく、対等に接し、質問し、明確さを求め、現実の調査に従事するよう促すことが容易だからです。下記の引用文で、アブドル・バハは若者たちがどのように育てられるべきかについて、ご自分の望みを表現なさっています。

アブドル・バハの望みは、より深い知識を学ぶ教室にいる若い魂が、愛することを彼らに訓練する人によって育てられることです。この子ら皆が、精神が及ぶ全範囲において、隠された神秘をしっかりと学ぶことができますように。そうすれば、栄光に満ち給う御方の王国において、その一人一人が言葉を与えられた小夜鳥<sup>さよどり</sup>のように、『天の領域』の秘密について声を上げて叫び、恋いこがれる者がするように、最愛なる御方への痛切な求めと完全な欠乏<sup>けつぼう</sup>を吐露<sup>とろ</sup>するでしょう。<sup>32</sup>

ジュニアユース・グループは子どもクラスではありません。スタディサークルのような特徴を持っていますが、その主な機能は、メンバーにとって相互支援の環境として機能することであり、その中で、生涯を通じて彼らの特徴づける精神的認知力や思考・行動パターンを身につけ

ことができるようにすることです。みなさんはルビ・インスティテュートの様々なコースに参加するなかで、最初に、スタディサークルのメンバーとしての経験をし、それから、おそらく、ブック3を学んだ後に子どもクラスで教えるでしょう。下に挙げた特質のリストを見てください。あなたのグループで、それぞれについて、ジュニアユース・グループ、子どもクラス、スタディサークルとの類似点、あるいは違う点について話し合しましょう。

- 活動の性質
- 参加者同士の関係
- 集まりの雰囲気
- ファシリテーター(それぞれ、先生、アニメーター、チューター)の役割

## セクション 20

この奉仕の分野に専念し始めるとすぐに、みなさんは、自分たちの努力の効果は、あなたがつくろうとしているジュニアユース・グループのメンバーとの間に築く関係の質に大きく左右されるということに気づくでしょう。もちろん、あなたは彼らの声に耳を傾け、助言をし、必要なときには慰めるでしょう。彼らの高潔さを固く信じ、彼ら全員に対して敬意と心からの愛情を示せば、彼らは優秀さに向かって努力するよう動機づけられるでしょう。権威者的な態度や独りよがり、あるいは独裁的な支配といった、ジュニアユースが活躍する余地を与えないような態度は微塵も見せず、彼らの幸福と進歩に全力を尽くす姿勢を示す必要があります。そして、あらゆる機会を捉えて、彼らの心の中に真の信仰の基盤を強化し、明るい未来への希望を植え付けなければなりません。アブドル・バハは私たちに次のように勧めておられます。

まず何よりも、自らの命を互いのために犠牲にし、自らの福利よりも全体の福利を優先する心構えをしなさい。いかなるものによっても揺るがされない関係を創りなさい。いかなるものによっても壊されない集合体を形成しなさい。いかなるものによっても滅ぼされない財宝を取得し続ける心を持ちなさい。もし愛が存在しなかったら、実在には何が残るでしょうか？人間を動物より優れたもの<sup>すぐ</sup>にしているのは、神に対する愛の炎です。この優れた力を強めなさい。この力によって、この世のあらゆる進歩が達成されるのです。<sup>33</sup>

次に挙げる態度がどのようにジュニアユース・グループのメンバーを無力にするか、どのような思考、感情、行いが、アニメーターがそのような傾向に抵抗するのを助けるのか、話し合ってみましょう。

権威者的な態度: \_\_\_\_\_

---

---

---

---

---

独りよがり: \_\_\_\_\_

---

---

---

---

---

独裁的な支配: \_\_\_\_\_

---

---

---

---

---

## セクション 21

どのジュニアユース・グループのメンバーとであれ、あなた方の彼らとの関係は、あなた方が示す模範に大きく影響されます。若者の生活に及ぼすお手本の影響についてはいくら強調してもし過ぎることはありません。ですから、心を清めるための私たち自身の努力は、この点で更なる意味を有します。守護者は、「はなはだしい物質主義」、「人間の魂を覆い隠す世俗的な物事への執着」、「心を悩ます恐れや心配事」、「時間を占める娯楽や浪費、考え方を暗くする偏見と敵意、精神的能力を麻痺させる無関心や無気力」は、「バハオラへの奉仕において、戦士となる事を望む者みな<sup>あなた</sup>の道に立ち<sup>あなた</sup>はだかる悔りがたい障害のいくつか」であると述べておられます。彼は更に、これらの勢力に抵抗する各自の能力は、私たち自身がいか「これらの不純」から清められ、「これらの関心事や絶えず心を悩ます心配事」から解放され、「これらの偏見や敵意」から自由になり、「自我を無くし」、「癒し、支える神の御力に満たされる」か、にかかっていると私たちに思い起こさせておられます。

守護者のこのような勧告は、ジュニアユースの精神的な能力を高めることへのあなたの貢献にどのように関係しますか。

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 22

あなたはジュニアユースの賢明な助言者であると同時に、彼らの真の友達として、彼らの喜びの時も、苦しみの時も、彼らに寄りそうことが大切です。彼らが優秀さのさらなる高みを目指すために、常に励まされる必要があります。彼らの短所や間違いにではなく、達成に注目する限りにおいて、あなたは彼らを援助することができます。もちろん、励ましはエゴを増長させないようにされるべきです。達成に注目しますが、もし、彼らの道徳規範を汚すような状況が彼らに見られたなら、ためらうことなく助言すべきです。

あなた方の友情の性質についてグループで考えるため、下記の、守護者の代理によって書かれた手紙からの引用文を読みましょう。これは信教の機構と一個人との関係について述べたものですが、ジュニアユース・グループのアニメーターとしてのあなたの努力にも関連しています。

信者たちは概ね、大業において日が浅いです。たとえ彼らが何か間違えたとしても、「あれをしなさい。これをしては駄目」などと常に言われて、彼らの精神が打ち砕かれることに比べれば、大した問題ではありません！<sup>34</sup>

過去の失敗を何度も指摘される、または、常に、何をすべき、何をすべきでないなどと指図されていると、若者が意欲を挫かれてしまうのはなぜか、話し合い、あなたの考えの幾つかを書きとめましょう。

---

---

---

---

---

---

---

励ましは見境のない称賛とは違います。偽善のない、誠実なものでなければなりません。そうでなければ、高慢、または信頼の欠如につながります。以下の引用文は、アブドル・バハが信者を、どのように大業への奉仕に向けて励まされたかを示す幾つかの例です。

神の偉大な葡萄園にて彼の大業に奉仕するよう、神が汝を援助し給うたことに、我は誠に神に感謝を捧げる。<sup>35</sup>

神の御名で人々の間で呼びかけるべく汝を選ばれたこと、栄光に満ち給う御方の美に汝を魅了されたこと、そして、神の大業に勝利をもたらすべく汝を強くされたことを、我は誠に、わが最高の主に賛美を捧げる。<sup>36</sup>

誠に、汝を彼の慈悲の大海に<sup>ひた</sup>浸し、信仰の<sup>さかずき</sup>杯と認識の純粋な美酒を飲ませ給いし時、神が汝を罪から洗い清め給うた。よくぞやった！よくぞやった！というのは、汝は自らの意思を神の意思に<sup>ゆだ</sup>委ねることを<sup>ほつ</sup>欲し、神への汝の愛が<sup>ま</sup>いや増し、神についての汝の知識を広げ、神の道で確固とし続けることを切望したのだから。<sup>37</sup>

おお、わが<sup>いと</sup>愛しき精神的な者らよ！神に賛美あれ、汝らはヴェールをはぎ取り、<sup>あわ</sup>憐れみ深き、最愛なる御方を認め、この住处から<sup>すみ</sup>超空間の領域へと急いだ。汝らは神の世界に天幕を張り、ご自力にて存在し給う御方なる彼を<sup>たた</sup>称えるべく、甘美な声をはりあげて心を<sup>つらぬ</sup>貫くような歌を歌った。よくぞやった！一千回繰り返す。よくぞやった！なぜなら汝らは<sup>あらわ</sup>顕された『光』を見、生まれ変わった自分の存在の中で、「全創造者の中の最上なる御方、主に祝福あれ！」との叫びを上げたのだから。<sup>38</sup>

おお汝ら、誠実なる者らよ、<sup>あこが</sup>憧れを抱く者ら、<sup>いだ</sup>磁石の如く引きつけられた者ら、神の大業に奉仕し、神の御言葉を称揚し、神の甘い香りを四方にまき散らすべく立ち上がった者らよ！汝らの、美しい文体、雄弁な言葉、深遠な意味の素晴らしい手紙を読み、我は神を称え、そして、汝らを援助し、神の<sup>ぶどうえん</sup>広大な葡萄園で汝らが奉仕できるようにし給うたことを神に感謝した。<sup>39</sup>

汝の手紙は、信仰と確信の香りを四方八方へ<sup>かぐわ</sup>放散させる<sup>はなたば</sup>芳しい花束のようだった。よくぞやった！よくぞやった！汝は、見えざる王国へと顔を向けた。<sup>すば</sup>素晴らしい！素晴らしい！汝は、全能者の美に<sup>ひ</sup>惹きつけられた！見事だ！見事だ！この最高の恩恵に到達した汝は、なんと幸運なことだろう！<sup>40</sup>

アブドル・バハが友人たちを称賛された例を参考に、あなたが近々援助することになるグループのメンバーをどのように励ますかを考え、書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 23

最後に、あなたがジュニアユース・グループのメンバーと友情溢れる強い絆を築き、優秀さに向けて努力するよう彼らを励ます努力は、あなたが、喜びに満ちた環境を作る限りにおいて実を結ぶということを覚えていなければなりません。

喜びは私たちに<sup>つばさ</sup>翼を与えてくれます。<sup>うれ</sup>嬉しいとき私たちはますます活  
気付き、知性はずっと鋭くなり、理解力はよりはっきりしてきます。<sup>せじ</sup>世事  
もよりうまく対処でき、いっそう有益な存在となります。<sup>41</sup>

グループのために喜びに満ちた環境を作り出すためには、自分自身が喜びを感じていることが必要です。近々つくりたいと考えているグループの一員となり得る、あなたが既に知っているジュニアユースを何人か思い浮かべてください。彼らについてのどのような思いが心に浮かぶとき、喜びを感じますか？

---

---

---

---

---

---

---

そのようなグループの集まりを軽薄なものにすることなく、喜びに満ちたものにするために、あなたが取り得る実践的な方法にはどのようなものがあるでしょうか？

---

---

---

---

---

---

---

これまで学んだことを心に留めて、下に挙げた万国正義院の代理による手紙からの引用文を読みましょう。

あらゆる個人が求める内面的な喜びは、つかの間の感情と違って、外面的な影響に依存しません。それは、永続するものと表面的なものとを識別することができる純粋な心によって育まれる、確信や意識的知識から生まれる状態です。<sup>42</sup>

では、次に挙げたアブドル・バハの言葉を熟考して、この章の学習を終わしましょう。

人間の最大の贈り物は普遍的な愛である。それは存在を永遠なものとする磁石である。それは実在を引き付け、人生に無限の喜びを満ち渡らせる。もし、この愛が人の心に浸透すれば、宇宙の勢力のすべてがその人の中に現実化されるであろう。何故なら、それは人を神聖な地位に運ぶ神聖な力であり、人はそれによって啓発されるまでなんの進歩も成さないからである。実在にある愛の力をいや増させ、汝らの心を引力のより強い中核となし、新しい理想と関係を作り出すよう努力せよ。<sup>43</sup>

## 参考文献

1. 万国正義院、2010 年レズワン・メッセージ
2. From a talk given on 17 November 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), par. 3, p. 617.
3. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 111.7, p. 192.
4. *Abdul Baha on Divine Philosophy* (Boston: The Tudor Press, 1918), pp. 131–32.
5. バハオラ、落穂集 153
6. 同上 1
7. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2005 printing), no. 4.7, pp. 34–35.
8. バハオラ、かくされたる言葉、アラビア編 13
9. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 34.2, p. 100.
10. Ibid., no. 35.7, p. 104.
11. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1909, 1930 printing), vol. 1, p. 136. (authorized translation)
12. アブドル・バハ、聖なる文明の秘訣
13. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 68.3, pp. 147–48.
14. Ibid., no. 155.4, p. 253.
15. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 26 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 3, p. 205.
16. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 11 June 1912, *ibid.*, par. 4, p. 258.
17. 'Abdu'l-Bahá, in *Bahai Scriptures: Selections from the Utterances of Baha'u'llah and Abdul Baha* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1928), no. 992, p. 548.
18. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 11 June 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 6, p. 261.
19. *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.22, p. 21.
20. アブドル・バハ、パリ講話集 no. 15, 1911 年 10 月 28 日の講話から
21. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 36.5, p. 111.
22. *The Call of the Divine Beloved*, no. 2.19, p. 19.
23. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 195.5, p. 327.
24. バハオラ、ケタベ・アグダス: 最も聖なる書、par. 64
25. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 223.1, pp. 388–89.

26. Ibid., no. 35.4, p. 102.
27. Ibid., no. 206.9, p. 354.
28. *Prayers and Meditations by Bahá'u'lláh* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1987, 2008 printing), XXXVI, par. 4, p. 47.
29. Ibid., CLXXXIV, par. 2, p. 324.
30. From a letter dated 23 November 1983 written on behalf of the Universal House of Justice to an individual, published in *Lights of Guidance: A Bahá'í Reference File* (New Delhi: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2010 printing), no. 1206, pp. 359–60.
31. From a letter dated 8 December 1935 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *Prayer and Devotional Life: A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, the Báb, and 'Abdu'l-Bahá and the Letters of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2019), no. 71, p. 30.
32. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 107.1, p. 188.
33. *Abdul Baha on Divine Philosophy*, p. 112.
34. From a letter dated 30 June 1957 written on behalf of Shoghi Effendi to a National Spiritual Assembly, in “The National Spiritual Assembly”, published in *The Compilation of Compilations* (Maryborough: Bahá'í Publications Australia, 1991), vol. 2, no. 1502, p. 128.
35. *Tablets of Abdul-Baha Abbas*, vol. 1, p. 11. (authorized translation)
36. Ibid., p. 18. (authorized translation)
37. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, pp. 266–67. (authorized translation)
38. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 236.4, p. 439.
39. Ibid., no. 199.1, pp. 332–33.
40. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1916, 1930 printing), vol. 3, p. 530. (authorized translation)
41. アブドル・バハ、パリ講話集 no. 35.2, 1911 年 11 月 22 日の講話から
42. From a letter dated 19 April 2013 written on behalf of the Universal House of Justice to a small group of individuals, published in *Framework for Action*, no. 51.7, p. 292.
43. *Abdul Baha on Divine Philosophy*, pp. 111–12.



# アニメーターとして奉仕する

## 目的

ジュニアユースの精神性を高めるプログラムを  
形作る概念を熟考する。



## セクション 1

本書の第二章では、思春期初期の若者の生活における社会的環境の重要性を話し合いました。それに応じて、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムは、「ジュニアユース・グループ」についての概念を中心に構成されています。前にも述べたように、ジュニアユース・グループは子どもクラスとは異なります。ジュニアユース・グループはスタディサークルと似た面も幾つかありますが、その基本的な機能はメンバーが互いに助け合う環境を提供することであり、その環境のもとで彼らは、生涯を通じて自分たちを特徴づける精神的認知力や、思考と振る舞いのパターンを発達させることができます。

通常、ジュニアユース・グループは3年間にわたって、少なくとも週に1回、定期的集まり、毎年開催される数回のキャンプに参加します。グループとして一緒に過ごす時間の中心にあるのは、12歳から15歳を対象に特別に開発された教材の学習です。また、共同体での奉仕活動の相談・計画・実行、スポーツ、演劇や工芸など身近な文化的活動も行います。数日間ずつ行われるキャンプでは、個々のグループとして集中的に学び、近隣や村の他のグループと一緒に集団的な行事や活動に参加します。この章では、あなたがこれから非常に熟知することになる、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムのさまざまな側面について考察します。

## セクション 2

最初に、このグループを構成するメンバーについて見てみましょう。共同体のジュニアユースがこのプログラムに関心を示したら、通常、10～15人のグループを作ることができます。メンバーのほとんどは、12～13歳ですが、何人かは12歳より少し歳下か、あるいは既に14歳になっているかもしれません。経験上、彼らの年齢がどうであれ、メンバーが3年間を通して、一つのグループとしてこのプログラムを完了するとき、最も良い結果をもたらすということがわかっています。そして、それを終了した時、希望する人は教育課程の次の段階に進み、インスティテュート・コースの幹コースを学習し、自分たちに開かれた奉仕の道を歩むことができます。

グループに参加するジュニアユースの中には、バハイ子どもクラスに参加したことがある人もいるでしょうが、多くの場合、このプログラムに出会った若者たちにとって、これが信教と初めて関わる機会だということを忘れてはなりません。ですから、年齢の違いだけでなく、背景や経験の観点でいろいろな違いがあるでしょう。どんなグループも決して均質ではありませんから、アニメーターは常に、ジュニアユースの様々な関心事に<sup>こた</sup>応えるという課題に直面します。この点

で、アニメーターにはかなりの柔軟性と創造性が求められ、グループと会うたびにこの課題に  
対処する準備をする必要があります。例えば、次のような状況において、どう対応しますか？

- ・ グループの何人かのメンバーは、(テキストを)読んで理解することに困難がある。
- ・ グループの年少者を他のメンバーと別にしたとき、年少のメンバーがそれを恥ずかしいと感じる。
- ・ 1、2 人の年長のメンバーは、グループの特定の活動にやりがいを感じない。
- ・ グループの中に、特定の活動への参加を断る人がいる。
- ・ グループ内の数人のメンバーが、他のメンバーよりも早いペースでテキストを進める能力を示している。
- ・ グループ内の女の子と男の子が一緒に特定の活動に参加したがない。
- ・ 何人かの子は、グループでの遠足などのために十分な資金を提供できない。
- ・ メンバーの 1、2 人は、出席が不規則である。
- ・ 1 人の子がグループで集まっているときに不適切なジョーク(冗談)を言う。
- ・ 何人かの子が、集まりに幼い弟や妹を連れてくる。
- ・ 1 人か 2 人のジュニアユースがグループでの話し合いに参加しない。

このような状況、あるいはこれに似た状況について、グループで話し合いましょう。もちろん、  
あなた方はこの分野の奉仕で経験を積むにつれ、このような課題について、他のアニメーター  
たちとその都度、そして何度も、定期的な振り返りの会(リフレクション・ミーティング)で検討し、  
新たな洞察を得ることでしょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### セクション 3

このプログラムの中心にあるテキスト——みなさんの中にはブック 2 で提案された折に、その何冊かを読んだことがある方もいるでしょう——は、言語と探求される概念の両方の観点から、難易度別に緩やかに順番がつけられています。テキストは二つのカテゴリーに分けられます。第一のカテゴリーのものは、バハイの観点から主題を扱っていますが、宗教的なことを教えるという形式をとっていません。この意味で、それらは「バハイの考えに基づく」と言われます。それらはこのプログラムの主要な構成部分です。もう一つのカテゴリーに属すものには、明白にバハイの要素を提供するテキストを含み、その数は多くはありません。私たちは次のセクションでその要素を調べますが、ここではバハイの考えに基づくテキストの性質に集中しましょう。

一般に、この種のテキストは次のような確信に基づいて作られています。つまり、バハオラの啓示の大洋にある英知の無数の真珠は、いまだバハオラの地位に気付いていない人であっても、関心がある人になら提供されるべきということです。みなさんはブック 2 の第二章「高揚する会話」で、精神的な知識と洞察を日常の会話に統合する能力を養うために、アブドル・バハの講話や書簡に基づく文章を学習したので、この概念は既にご存知でしょう。

自分自身の経験からもわかるように、その章で探究したテーマを他の人たちと話し合う時、自分の考えが何に由来しているかについて自然な形で触れることもありますし、そうするのは賢明でないと思うなら伏せておくでしょう。それは、その時その時のニーズによります。バハイの考えに基づくテキストの場合も同じ原則が適用されます。これに関して、万国正義院の代理による手紙では次のように述べられています。

バハイ社会的経済的發展を <sup>つかさど</sup> 司る基本的原則の一つは、人々がいたるところで、火急の社会問題にバハオラの教えを適用し、個人としての、また

集団としての生活を物質面でも精神面でも改善することができるよう、友らはバハオラの教えを惜しみなく、無条件に人々に差し出すべきだというものです。バハオラを今日の神の顕示者として受け入れることを、神の御言葉に触れることの条件とすべきではありません。さらに、バハオラの教えに基づいて開発された教育的プログラムの根底にある靈感の『源泉』を、状況がそう要求する場合に、明白に述べることを控えることは不適切ではないでしょう。このような観点から、信教の教えと原則に基づく教材を創る時、友らが検討できる様々な選択肢があります。<sup>1</sup>

万国正義院の代理による、もう一つの手紙にはこう述べられています。

私たちは、バハイの考えに基づくカリキュラムの教材にバハイの書物からの引用文を使う時、もし著者名を挙げないことが理に<sup>かな</sup>適うと思われるなら、挙げる必要はないということをあなた方に伝えるよう言われました。

2

このように、バハイの考えに基づいた、すべてのテキストはバハオラの啓示の直接的影響のもとで開発されますが、それぞれの教材の性質とその使用目的によって、信教について明示的に言及する範囲が決まります。聖典の一節を取り入れることが適切な場合もあります。また、引用文なしで、バハイの教えを説明する場合もあります。どちらのケースでも、その引用文の出典について言及することもあれば、しないこともあるのです。しかし、たとえ、信教について明白に言及していない場合でも、学んだり教えたりする経験の中で、その教材は確かにバハオラの啓示に基づいたものだということがはっきりしてくるので、その点を認識しておくべきです。

ここで取り上げたバハイの考えに基づくテキストは、聖典からの直接的引用を用いる、または、知的、道徳的、精神的テーマの説明にバハイの教えを織り込むこと、その両方によって、神の御言葉の力を広範囲に引き出して用いています。そのテキスト自体には出典が記されていません。それらの引用文の出典を述べるか、述べるとすればどの時点でそうするかについては、通常、そのグループの状況や傾向、関心事に照らして、アニメーターに判断する余地が残されています。下記は、一般的に、ジュニアユース・グループが最初に学習するテキスト『確証のそよ風』の中のレッスンから抜粋したものです。これを読み、下記の質問を話し合ひましょう。

グッドウィンには、チシンバというとても仲の良い友達のクラスメイトがいます。チシンバはよくムレンガ家を訪れます。今夜は夕食に呼ばれました。食事中、会話は次々と変わっていきます。ムソンダは、確証を話題に出したくてうずうずしていました。ようやく、しばらくの間、会話が途切れました。「ローズと確証について話してたんだ」と、ムソンダが話し始めました。

「ほら、また始まった」と、グッドウィンは咳払いをして言いました。でも、彼が驚いたことに、チシンバは興味深そうに耳を傾けています。

「その言葉はどういう意味？」と、チシンバはムソンダにたずねました。

ムソンダも驚き、ローズの方を見ました。ローズが助け舟を出してくれることを願っているのです。

「確証…。それはね、神様が私たちの努力を認めて、助けてくれることを意味するんだよ」と、ローズは言いました。

チシンバはしばらくの間黙っていました。悲しそうな目をしています。「数ヶ月前にね…」とチシンバはゆっくりと話し始めました。「お父さんが失業したんだ。お父さんは正直で信頼できる人だし、みんなもそう思ってる。18 年間会社の警備員として働いてきたんだけど、突然、お父さんは首にされたんだ。その理由は誰もが知っている。もしお父さんが仕事を続けていれば、2 年後には退職して、会社はお父さんに年金を払わないといけなくなるからなんだ。家には貯金がありませんし、一番上の兄さんは働いているけど、僕は下宿費が払えなくなるから、来年は学校に通えそうにないんだ。僕は本当に学校が大好きなんだ。どうして神様は僕のことを助けてくれないんだろう」

誰もがムレンガさんの方を見えています。チシンバの質問に対する彼の返事を待っているのです。

ムレンガさんは、微笑みながらこう言いました。「私たちが努力する時、神様が確証をくれるからといって、人生が楽になるとは限らないんだよ。人生の中でたくさんの困難に向き合う。そして、残念なことにその困難のほとんどは不正が原因なんだ。でも頑張っ

て困難に打ち勝っていかなければならない。たとえ望みどおりに事が進まなくても、神様の確証を信じていなければならぬ。神様は、不正を取り除こうとする君の努力を認め、君を助けてくれるはずだ」。ムレンガ氏はチシンバの方に向かってこう言います。「チシンバ君の家族はみんなとても仲が良く、働き者だね。私は、状況が変わって、君が学業を終えられるようになると思うんだ。きっと、そうなるよ」

私たちはセクション 20 と 21 で『確証のそよ風』を、ある程度詳しく考察しますが、ここで以下の質問についてグループで話し合ってみましょう。

1. 上の会話で扱っている主な精神的概念は何ですか。
2. その概念はジュニアユースに理解できる方法で示されていますか。
3. このブックの第二章で「自己」に重点を置きすぎることの危険性について話し合いました。努力すること、および神の確証を引きつけることの重要性を強調した教育課程と、その章で説明したような、自己実現、自己発見、自尊心という観念を中心に体系化された教育課程とはどう異なりますか。
4. バハイの家庭の出身者を含め、その背景に関係なく、すべてのジュニアユースにとって、ここで検討されているような、バハイの考えに基づく、この種のテキストの学習をすることはためになるでしょうか？ なぜですか？

## セクション 4

二つ目のカテゴリーに該当するテキストは、バハイ子どもクラスで受けた精神的教育を継続するための内容を提供しています。つまり、バハイの基本的な信条を明確に示して、それらの信条が共同体生活の中でどのように行動に移されるべきかについて論じています。テキストの中でテーマが扱われる方法に影響を与える信念として、以下のものがあります。この時代に遣<sup>つか</sup>わされた神の顕示者としてのバハオラの地位、人類に対する彼の目的の究極的な実現に対する絶対的な確信、彼の法に従うことによって達成される限りない自由と喜びの確信、彼の聖約の力に対する確信。

このカテゴリーの教材について考える時、守護者の代理によって書かれた次のような助言を熟考すると助けになるでしょう。

…現代の若者が直面する危険はますます深刻になりつつあり、早急な解決が求められます。しかし、経験から明らかなように、この実に悲しく混乱を引き起こす状況の救済策は伝統的で聖職者中心の宗教には見出せません。キリスト教会の教条主義はきっぱりと捨てられました。若者を統制し、今日の甚<sup>はなは</sup>だしい物質主義という落とし穴から救い出すことができるのは、バハオラによって世界に啓示されたような、建設的で生きている、真の信教の力なのです。過去と同じく、今もなお宗教は世界の唯一の希望

ですが、それは教会の指導者たちが徒<sup>いたづら</sup>に説教しようとしている宗教の形式ではありません。真の宗教から分離すると、道徳はその効力を失い、人類の個人的及び社会的生活を導き、統制することはなくなります。しかし、真の宗教が真の倫理と結合すれば、道徳的進歩は、単なる理想ではなく、現実的な可能性となります。<sup>3</sup>

上の文は、伝統的な宗教の影響が弱まっていくのに反して、活きた信教の力は、現代社会にはびこる「甚だしい物質主義という落とし穴」からユースを守ることができるということを明確にしています。この力は、若者たちが学ぶ内容、および彼らの精神的能力の育成を助ける方法の両方に反映されるべきです。これらのアイデアについて更に深く考えるために、『信仰の精神』からの抜粋を見てみましょう。このテキストは、ここで検証しているカテゴリーに属するものです。

『信仰の精神』は、哲学的なテーマを扱っています。なぜなら、この年代の若者は自分の存在意義に関する基本的な疑問を抱いていて、それらの疑問に対しては、その後の人生で混乱したり、信念を喪失したりするのを回避するために、適切に答えられなければならないからです。人間の本質、善と悪、自由意志と運命、進化と人間の精神の出現、人間の知性、信仰の精神といったような、人の心を悩ませる多くの難問に対する答えは、バハイの教えの中にあります。『信仰の精神』は、こうしたテーマに光を当てるために聖なる書物、特に『質疑応答集』におけるアブドル・バハの、鋭い説明から得た洞察を用いています。各テーマは、ジュニアユース・グループによる毎週の定例の集まり、後半では週末にキャンプ場で一緒に過ごしたときの会話を通して展開されます。以下はテキストのあるレッスンからの抜粋で、ジュニアユースたちが、運命について、アニメーターのナタリア・ペトロバと話し合っている部分です。

「ここまでで分かったことについて、検討してみましょう」。ナタリア・ペトロバが言います。「私たちは、良いことをするにも悪いことをするにも自由意志を持っていて、その意志を働かせて高潔な人生を歩まなければなりません。しかし、自由意志を持つということは、すべてをコントロールできるということではありません。私たちの力ではどうにもならないことも起こります。ここで、別の観念についてみんなに質問します。みんなは、『運命』という言葉はどう理解していますか？」

「運命はどうしても変えられないものだと思う」。イゴールが言いました。

「そうね。誰か例を挙げられるかな」と、ナタリアが質問しました。

「自分の親を選ぶことはできない」と、ナディア。

「どこに生まれるかも選べないよ」と、アントン。

「僕の両親はいつも、お前は偉大なピアニストになる運命にあるって言うんだけど」と、バディク。

「でも、そうしなきゃならないということはないよね。他のものになることを選ぶことだってできるよ」。マリナが言いました。

「その通りね。運命はそんなに単純なものではありません。運命を説明する良い例えがあります。絨毯がどう織られるか見たことがある人はいますか？」 ナタリアがみんなに尋ねました。

みんな、きょんととしていたのでナタリアは続けました。「さあ、ここに枠があるとします。そして、その枠の端から端に糸が並行に強く張られています。織り手はその張られた糸に、いろんな色の様々な織り糸を織り込んで模様を作ります。アブドル・バハが、私たちは織り手のようなものとおっしゃったのを、初期の信者の一人が聞いたことがあります。私たちには枠と織り糸が与えられているし、また織り込む糸も与えられているの。それらは生まれながらにして持っている才能や能力とすることができます。これが私たちの運命なの。しかし、織機で織る模様は私たちが選びます。私たちは自由に行動できます。自分の行動の一つ一つが模様の小さな部分を作ります。完成作品が成長した私たちです。自由意志と意欲を通して、私たちは神が授けてくださった能力や才能を発達させるのね」

---

### 考えてみよう

神様は、私たちみんなにそれぞれ違う能力を与えて下さいました。生物学が得意な人もいれば、音楽の才能を授かった人もいるでしょう。でも、私たちは全員、高貴な人間になるのに必要なものを与えられています。ですから、自分の欠点を運命のせいにするのは間違っています。欠点を運命のせいにとすると、自分を磨く努力をしなくなります。下にあげたそれぞれの例で、自分の状況を変えるのに役立つ考えを選びましょう。

- a. 健康によくない食生活によって、よく病気になる人がいて、こう思います。
- ・ 自分が病弱なのは運命だ。
  - ・ 言い訳はやめて、食習慣を改めるべきだ。
- b. 勉強しないためにテストの成績が良くない人がいて、こう思います。
- ・ 私は一番にはなれないかもしれないけど、努力すれば進歩すると思うわ。
  - ・ 学業で優れることは私の運命ではないんだわ。
- c. 困難にぶつかるたびにお酒に浸る人が、しらふの時にこう思います。
- ・ お酒を飲むのはこの人生のせいだ。
  - ・ 僕は人生の困難に立ち向かうことができる。お酒は必要ない。
- d. 彼女はいつも友達を非難するので友達から敬遠されています。彼女は思います。
- ・ みんな、私の事を嫌いなのよ。
  - ・ 批判するのをやめて友達のいいところを見るようにしよう。
- e. テストでカンニングをして見つかった人がこう思います。
- ・ 運が悪かった。カンニングをしても見つからない人もいるのに。
  - ・ どうしてこんなことをしてしまったのだろう。正直の衣を纏うべきなのに。

---

「犯罪者になる運命にある人なんていないってこと？」アイバンが質問します。

「もちろん、いません。私が今、話した教えでは、誰もが与えられた枠と織り糸を使って、美しい模様を織ることができるんです。私たちはみんな、それぞれに違っているけど、みんな良い人間になる能力を持っているの」。ナタリア・ペトローバが答えました。

「でも、そんなこと難しすぎるよ」

みんなにはアイバンが何を言っているのか、よく分かりませんでした。

「何がそんなに難しいの」と、ナタリアが尋ねました。

「強くて、立派な人になるために、ずっと、そんなに努力しなきゃならないってことだよ」。アイバンは答えました。

「その通りね、アイバン」と、ナタリアが微笑みながら言いました。「でも、神様はいつも私たちを助けて下さるってことを忘れないでね。神様は、決して私たちをひとりぼっちにはされません。ヨットについて考えてみて。ヨットを動かす力は船からくるのではなくて、風からくる。でも、風を使ってヨットを目的の方向に向けるのは船長です。すべての力は神様からくる。神様の助けがなければ私たちは無力でしょう。自分しか見ていないと、弱さだけしか見えないけど、神様に顔を向けて援助を懇願<sup>こんがん</sup>すると、神様がお喜びになることをする力を見出すでしょう」

それから、メンバーはペアになって次の文章を暗記します。

比類なき創造主は、すべての人間を同じ物質より創造し、人間の本質を他の創造物より高めた。それゆえ、人間の成功と失敗、取得と損失は自らの努力に依存する。努力すればする程、人間の進歩は<sup>ほど</sup>大<sup>だい</sup>である。

おおわが神よ。おおわが神よ。あなたは卑<sup>いや</sup>しく、か弱い私を見給う。そしてその私が、最も大いなる事業に取り組み、大衆にあなたの御言葉をもたらし、あなたの民<sup>たみ</sup>に教えを広める決意をしているのを見給う。あなたが、聖霊の息吹をもって助け、勝利をおさめるよう栄光の御国の軍勢をもって援助し、私の上に確証をふり注ぎ給わなければ、どうして私に成功がありましょう。ただあなたの確証のみが、ぶよを<sup>わし</sup>驚<sup>いってき</sup>に変え、一滴の水を川や海と化し、一個の原子を光や太陽に変えることができるのです。おおわが主よ。勝利をもたらす、あなたの真の御力で私を助け給え。そうすれば、私の舌はすべての人々の間であなたの賛美と属性を語り、私の魂はあなたの愛と知識の美酒で満ちあふれることでしょう。

あなたは全能の御方におわし、望むままになし給う御方におわします。

みなさんはセクション 22 で『信仰の精神』のテキスト全体を学ぶ機会がありますが、ここで一息入れて、以下の点を話し合いながら、上記の抜粋の内容を考察すると有益でしょう。

1. このテキストでは運命という概念をどのように提示していますか。この示し方は独断的ですか？
2. この概念の独断的な示し方の例を挙げてください。
3. このテキストは、若者が精神的概念を探究するのを助けることに適切な重点を置いていますか？あるいは、考えが厳格に示されていますか？
4. このテキストは、運命や自由意志に関して聖典が示す意味を、若者が自分の人生に見出すようにするため、どのような援助をしていますか？
5. 物語は、概念を理解しようとする若い登場人物たちが表現する、異なる意見や感情に対する寛容さを示していますか？もしそうなら、それはどのように示されていますか？
6. この点に関して、ジュニアユース・グループのメンバーが自分の考えを自由に表現することが許されないとすればどうなるのでしょうか？
7. ナタリア・ペトロバはジュニアユースが思考を明晰にするのを、どう援助していますか？
8. この物語で若者たちの間で話し合われている疑問は、背景の違いに関係なく、すべてのジュニアユースに関連するもののでしょうか？

## セクション 5

思春期初期は、物事の外見を超えて、見る能力が非常に高まる時期であり、私たちは目撃するもの、経験するものについてより深い理解を求めます。これが示唆することは、ジュニアユースには精神的認知力が必要だということです。彼らは、精神的な勢力を認識し、あらゆる状況に精神的な現実を見出し、関連する精神的原理を特定することができるよう援助されるべきです。信教の聖典には、「内なる視力」「内的な視力」「魂の目」といった能力について言及しています。たとえば、以下の文章で、アブドル・バハはテヘランのタルビヤット学校に次のような忠告をしておられます。

彼らに最短期間で最大の進歩を遂げさせなさい。目を大きく見開き、すべての事物に内在する真理を明らかにさせ、あらゆる芸術や技術に熟達させ、すべての事物の秘密をありのままに理解することを学ばせなさい。この能力は『聖なる敷居』への隷属がもたらす明らかな効果の一つである。<sup>4</sup>

アブドル・バハは、人間を動物から区別する能力の一つは、精神的認知力だと述べておられます。

人間は動物と共通する力を持つ一方で、知的達成、精神的知覚、美德の獲得、そして、神の賜物、主の恩恵、天の慈悲の発露を受け取る能力によって動物と区別されることは明らかです。これらは人の飾りであり、誉れであり、崇高さです。人間はこの最高の地位に向かって懸命に努力しなければなりません。<sup>5</sup>

また別の文章で、師は内なる視力と内なる聴力を精神的な恵みだと述べておられます。

神は私たちに物質的な贈り物と精神的な恵み、太陽の光を見るために外なる視力と、神の栄光を認識できるよう内なる視力を授けて下さいました。また、神は、音の調べを楽しむために外なる耳を、私たちの創造主の声を聞くことができるよう内なる聴力を創造されました。<sup>6</sup>

また別の機会には、師は、内的な視力を開くことがいかに重要であるかを思い起こさせておられます。

あらゆるものの中に神の精神の徴と証跡を見ることができるよう、私たちの精神的知覚、内なる視力が開かれなければなりません。すべてのものは、私たちに『霊』の光を反射させることができます。<sup>7</sup>

次の文章で、アブドル・バハは精神的認知力が理解を高める一例を説明なさっています。

人は死によって消滅するという概念は人間の退廃の要因であり、人間の墮落と卑しさの原因であり、人間の恐怖と卑賤の源です。それは人間の思考の分散と弱体化を助長してきました。一方、存在と連続性の認識は、人間を崇高な理想へと引き上げ、人類の進歩の基礎を築き、天の美德の発展を促しました。それゆえ、人間は、想像の産物以外の何ものでもない非存在と死滅の思考を捨て、人間が創造された神聖な目的の中で自分が永遠に生き、永続するものと考えべきです。日々刻々と、人間の現実の連続性

に対する精神的な認識へ向かって上へ上へと進んでいけるよう、人間の魂を墮落させる考えから顔を背けなければなりません。<sup>8</sup>

精神的認知力が、通常の知性を用いることだけでは近づき得ない、新たな次元を人間の理解にどのようにもたらすか、以下に書いてみてください。

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 6

これまで、精神的認知力の必要性について探究してきましたが、では、その能力をどのように発達させるかについて自問すべきでしょう。もちろん、この問いに対する単純な回答はありません。ここでは、それに関連する考えをほんの少し探究するだけになります。

精神的認知力は純粋な心の属性であることは明らかです。アブドル・バハはこう述べておられます。

人間の心が清らかで聖別<sup>せいべつ</sup>されればされるほど、さらに神に引き寄せられ、『実在の太陽』の光はその中に表されます。この光が心を神の愛の火で燃え立たせ、心の中の知識の扉を開け、神聖な神秘<sup>ふう</sup>の封を切り、それにより、精神的発見が可能になります。<sup>9</sup>

精神的認知力の発達のためには、神の知識が不可欠であるというのは明らかです。

物事の実体に関しての理解は、存在の領域における物質的利益を与え、  
外面的な文明における進歩をもたらしますが、神の知識は、精神的な進歩  
と惹きつける力、真の視力と洞察、人類の称揚、神聖な文明の出現、道徳  
の修正、良心の啓発の源です。<sup>10</sup>

内なる視力が強められるためには、神の愛が不可欠であることは明らかです。

おお、わが友よ！『真理の太陽』から発されるまばゆいばかりの光線で  
汝の視力を照らし、生命の水と神の愛の火によって、汝を生き返らせ、洗  
礼なさったことに神へ感謝を捧げよ。<sup>11</sup>

神の愛は火に例えられます。なぜなら、それはヴェールを焼き尽くすか  
らです。また、神の愛は水にも例えられます。なぜなら、それは生命の源  
だからです。つまり、神の愛とは、人類の世界における美徳の最奥の实在  
です。それを通して、人間の性質は浄化されるのです。神の愛を通して、  
人間世界の欠陥から解放されるのです。神の愛を通して、人は美徳の領域  
で進歩を遂げます。神の愛は、世界の啓発の元です。<sup>12</sup>

次の練習問題は、上述の助言の意義を考える助けになるでしょう。

1. 以下のそれぞれがどのように精神的認知力を高めるか説明しましょう。

a. 心の純粋さ \_\_\_\_\_

---

---

---

b. 神の知識 \_\_\_\_\_

---

---

---

c. 神の愛 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2. 次の文について正(○)か否(×)かを考えましょう。

- \_\_\_\_\_ 神の教えの援助なしに、理性だけで私たちは善悪を区別することができる。
- \_\_\_\_\_ 私たちが真理を認識することを可能にするのは、神の顕示者を認識し、その教えに従うことだ。
- \_\_\_\_\_ 心が純粹だと、その人はだまされやすくなる。
- \_\_\_\_\_ 心が純粹であればあるほど、神の属性をより忠実に反映し、その光によって物事の内実が知覚できるようになる。
- \_\_\_\_\_ 神への愛の火は自己のヴェールを焼き払い、内なる視力が真理を見ることを可能にする。
- \_\_\_\_\_ 神の愛の力は、神のご意思に従い、その目的を果たすために、明確なビジョンを持って努力する私たちを助ける。
- \_\_\_\_\_ 消滅への恐れは、私たちの知的・精神的能力を弱める。したがって、私たちの存在の継続性を確信するとき、私たちの精神的認知力は研ぎ澄まされる。
- \_\_\_\_\_ 「神の御敷居」への私心のない奉仕は、私たちが物事の内実を見るのを助ける。
- \_\_\_\_\_ 内なる視力で神の確証を見ることができる。

## セクション 7

前のセクションの最後の引用文は、私たちの探究に特別な関連をもつ一つの基本的概念を指摘しています。すなわち、内なる目は、数多くのヴェールによって、物事の内実を見ることを妨げられているということです。精神的認知力の発達には、このヴェールを除去することが必要です。アブドル・バハはこう述べておられます。

自然界に存在するすべての生命に <sup>あらわ</sup> 顕れている神の賜物は、人間を精神的に盲目にし、無能にする、知的かつ死すべき目という <sup>たまもの</sup> ヴェールが介在する

ことで、時として隠されています。しかしこれらの薄片<sup>はくへん</sup>が除かれ、このヴェールが引き裂かれるとき、神の偉大なる徴<sup>しるし</sup>が見えるようになり、人は世界を満たす永遠の光を目撃<sup>もくげき</sup>するでしょう。すべては神の賜物であり、それらは常に顕<sup>あらわ</sup>れています。天の約束は常に存在します。神の恩恵はすべてを取り巻いていますが、もし人間の魂の意識の目がヴェールに覆<sup>おお</sup>われて暗い状態のままだとしたら、これらの普遍的な徴を否認する結果となり、神聖な恵みの顕現<sup>けんげん</sup>を奪われたままになるでしょう。それゆえに、神の徴の顕れを見、神の神秘的な恩寵<sup>おんちよう</sup>を見分け、そして物質的な恩恵は精神的な恵みに比べれば無に等しいことがわかるように、内なる視力の目を覆うヴェールが取り除かれるよう、私たちは心魂込めて努力しなければなりません。<sup>13</sup>

すべての魂は、人の目を覆っているヴェールが引き裂かれ、直ちに太陽を見、それによって心と視力が照らされるよう努力しなければならない。<sup>14</sup>

文字通りの解釈、無益な想像、盲目的な模倣、自己、情欲と欲望の追求、貪欲と羨望、偏見——これらは、聖典で言及されているヴェールのいくつかです。つまり、私たちの物質的感覚もまた、ヴェールとして作用するのです。

皆さんが霊的能力と抱負を日一日と増大させ、そして物質的感覚の支配によって『聖なる光明<sup>こうみょう</sup>』の栄光から視力を遮<sup>さえぎ</sup>られることがないように。これが私の祈りです。<sup>15</sup>

ヴェールの一つは文字通りの解釈です。内なる意義を見抜くためには非常な努力が必要です。<sup>16</sup>

汝が光輝の王国への道を見つけ、無益な想像のヴェールを引き裂いたこと、そして内なる神秘の核心が汝に知らしめられたことについて神を賛美せよ。<sup>17</sup>

我は、熱烈に神に嘆願<sup>なんじ</sup>する。汝の内なる眼からヴェールを取り除き、汝に神の最も強大な印を明らかにするように。そして、汝を導きの旗となし、神以外の全てから完全に離脱し、神の愛の火によって燃え立ち、神の記憶<sup>ぼつとう</sup>に没頭し、万物の真の姿を意識させるように。それにより、汝自らの目で

見、自らの耳で聴き、汝の祖先の模倣<sup>もほう</sup>を断つように。汝は洞察をもって汝の主の大業を調べよ、人々は暗黒のヴェールに覆われているのだから。 18

なぜなら自我以上に障害となるヴェールはなく、それはどんなに薄いものであったとしても、ついには、人はそれによって完全にさえぎられ、永遠の恵みの分け前<sup>いつ</sup>を逸してしまうからである。 19

しかし、情欲と欲望の追求は、心から立ち上る一千のヴェールでその目を覆い、視力と洞察力を共に眩<sup>くら</sup>ませるであろう。 20

おお、理解の子らよ！もし、まぶたが、いかに繊細<sup>せんさい</sup>であろうとも、人の外なる目が世界とそこにあるすべてのものを見ることを阻むことができるなら、その内なる目に食欲<sup>どんよく</sup>のヴェールがかかるとき、何が起こるかを考えてみよ。言挙げよ。おお人々よ！食欲と羨望<sup>せんぼう</sup>の闇は、雲が太陽の光を遮<sup>さえぎ</sup>るように、魂の輝きを曇<sup>くも</sup>らせる。 21

皆さんが曇<sup>くも</sup>りなき目で、世俗の事物を見るのではなく、『真理の太陽』を見つめ、…、また、『太陽』がその強さを皆さんに授け、偏見の雲があなたの方の目から『太陽』の輝きをさえぎることのないよう切に希望いたします。やがて、『太陽』は雲にさえぎられることなく皆さんに光を投げかけるでしょう。 22

上の最初の引用文でアブドル・バハは、「すべては神の賜物であり、それらは常に顕れています」。そして「天の約束は常に存在」し、「神の恩恵はすべてを取り巻いてい」と述べておられます。師はさらに、「もし人間の魂の意識の目がヴェールに覆われて暗い状態のままだったら」、人は神の大いなる御<sup>み</sup>しるしを否定し、これらの明らかな恩恵を奪われることになるだろうと述べておられます。

1. アブドル・バハが言及されている、賜物や恩恵のいくつかとはどのようなものでしょうか。

---

---

---

2. 以下に挙げたヴェールは、どのようにこれらの賜物や恩恵を見えなくしていますか。

a. 文字通りの解釈 \_\_\_\_\_

---

---

---

b. 無益な想像 \_\_\_\_\_

---

---

---

c. 盲目的な模倣 \_\_\_\_\_

---

---

---

d. 自己 \_\_\_\_\_

---

---

---

e. 情欲と欲望の追求 \_\_\_\_\_

---

---

---

f. 食欲と羨望 \_\_\_\_\_

---

g. 偏見 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

3. 次の文について正(○)か、否(×)かを考えましょう。

\_\_\_\_\_ 私たちの内なる目は、知的能力や肉体的な目の助けがなくとも、認識することができる。

\_\_\_\_\_ 私たちの物質的感覚と知的能力は、常に、精神的現実を認識する妨げになる。

\_\_\_\_\_ 私たちの物質的感覚から神に関係のないものをすべて取り除くことは、私たちの内なる能力が真理を認識するのを助ける。

4. 最後に、精神的認知力の妨げとなるヴェールの本質をさらに深く洞察するために、アブドル・バハの聖典からの次の声明を熟考しましょう。暗記するのもいいでしょう。

汝、まことに、『真理』を覆<sup>おお</sup>う多くのヴェールがあることを知れ。光を通さないヴェール、次は繊細で透<sup>す</sup>けて見えるヴェール、そして、『光』の包囲<sup>げんわく</sup>のヴェールがあり、我々がそれに目を向けると眩惑される。ちょうど、太陽がそれ自体の光に包まれ、我々がそれに目を向けると視力が奪われ、眩惑されるように。我は神<sup>こんがん</sup>に懇願<sup>こんがん</sup>する。人間が『真理の太陽』の目撃<sup>はば</sup>を阻まれなくなるよう、すべてのヴェールを取り払い、すべての目を光に馴染<sup>なじ</sup>ませ給うように。<sup>23</sup>

## セクション 8

次に紹介するのは、ジュニアユースが学ぶ、バハイの考えに基づくテキストの一冊である、『希望の兆<sup>きざ</sup>し』から抜粋されたレッスンです。両親を亡くした後、姉を探して旅に出た 12 歳の少

年、キボミの物語です。キボミはアヅンバ族の出身です。彼の両親は内戦のさなかにクング族のメンバーに殺されました。これから見るレッスンの一つ前のレッスンでは、キボミと、キボミにとっても親切にしてくれたクング族出身の老人との出会いが描かれていました。以下に引用しているレッスンで、キボミは自分と同じ部族に属する兵士の一団と出会います。

キボミは食べ物を食べたので、力がつき、もっと早く歩けるようになりました。彼は自分の村を出たとき、恐ろしさ<sup>いか</sup>と怒りを感じていました。今では以前のようにいつも他の人に抱くいい感情を持つようになっています。老人はクング族だけれど、彼は優しくて頭も良い。食べ物も分けてくれた。そして、老人の話す言葉は美しく希望に満ちていました。「わしらは選択しなければならない」「わしらは人を愛するために創造された、憎むためではない」

キボミはナンガタへ流れる川づたいに歩きます。しばらく歩いた後、声が聞こえたので、大きな木の陰に素早く隠れます。若者たちが何人か近づいてきています。アヅンバ語を話しています。キボミは自分の母語<sup>ぼご</sup>が聞けてうれしくなり、ゆっくりと木の陰から歩みだします。男たちは制服を着ています。アヅンバ族の反乱軍です。若者もいて、キボミと同じくらいの年の子どももいます。兵士たちはキボミを見つけるとすぐに止まり、鉄砲<sup>てっぽう</sup>を上げました。「待ってくれ」とキボミは言います。「僕は君たちと同じアヅンバの人間だ」

「こんなところで一人で何をしている」と、いらいらした様子でリーダーが尋ねてきます。

「クング族が村を攻撃して、僕の両親を殺した。だから村を出てきた」。キボミは答えました。

「それなら俺らと一緒に来い」とリーダーが言います。「クング族のやつらに教えてやることがある。お前の両親にやったことの仕返しにな」

キボミは心をそそられました。少し考えてから反乱軍についていこうとしました。少年兵士が前に近寄って、キボミに手を差し伸べてきます。キボミは彼の目を見て、彼らの絶望感に当惑しました。キボミはためらい、「後で行くよ」と震えた声でそう答えます。「でも、今は姉さんを見つけないと」

兵士たちが立ち去る時、一人が後ろを向いてこう言います。「覚えておくんだ、反撃しか方法はないことを」。キボミは返事をしませんでした。

## 質問

---

1. キボミが村を出たときどんな感情をもっていましたか。
2. 老人に会って、キボミの感情はどう変わりましたか。
3. なぜ、キボミは木の影に隠れましたか。
4. キボミが出会った制服姿の若者たちは誰ですか。
5. リーダーはキボミに何と言いましたか。
6. キボミは男の子の兵士の目に何を見ましたか。

## アクティビティ

---

1. キボミは少年兵士の目の中に絶望感を見出しました。彼はキボミと同様、恐れや怒りをいだき、敵と戦い、敵を殺すことを選択しました。私たちは悲しみと絶望に<sup>おちい</sup>陥るときがあります。そのような時は暗い道を選ぶのではなく、希望を見出す明るい方法を選ぶべきです。下の祈りを読み、熟考してみましょう。

彼こそは、<sup>あわ</sup>憐れみ深き御方、すべてに御恵み深き御方におわします。お  
お神よ、わが神よ。あなたは私を見給い、私を知り給う。あなたは、私の  
<sup>あんそくじょ</sup>安息所におわし、避難所にまします。私は、あなた以外の何ものをも求め  
たことはなく、これからも求めることはありません。あなたの愛の道以外  
を歩んだことはなく、これからも歩むことはありません。絶望の暗い夜、  
私の目は、期待と希望に満ちてあなたの無限のご恵沢の朝へ向けられて  
います。また、夜明けには、私の<sup>しょうちん</sup>消沈した魂は、あなたの美と完全性を  
思い起こして活気づけられ、強められます。

このお祈りを暗記しましょう。

2. 下の状況でどの行動が絶望をもたらし、どれが希望をもたらすものでしょう か。

a. あなたはある教科の試験で悪い点を取りました。

希望 絶望

- |                            |                          |                          |
|----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ・ 勉強をあきらめて、遊びにもっと時間を使う。    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 自分は馬鹿だと自分自身に言う。          | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ ほかの生徒に勉強を手伝ってもらおう頼む。     | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 我慢強く、教科を理解するように努力する。     | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 先生が手伝ってくれないと言い、先生のせいにする。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

b. あなたは一人寂しく感じ、友達がいません。

希望 絶望

- |                                 |                          |                          |
|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ・ 一人でいて、悲しい思いをする。               | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 自分自身のことを考える時間を減らし、他の人のことを考える。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ いつでも他の人の短所を考える。               | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 他の人の長所を見るようにする。               | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 他の人に話しかけるようにし、親しくする。          | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

c. 自分の親戚の間で、嫉妬やけんかをみました。

希望 絶望

- |                     |                          |                          |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|
| ・ あなたも嫉妬し、けんかをする。   | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 家族や親戚に寛大であるようにする。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ・ 家族が和合するように祈る。     | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

- ・ 家族の子供たちに愛と寛大さについて教える。 ☐ ☐
- ・ 自分の親戚を変えることが自分にはできないと言う。 ☐ ☐

d. 友達があなたを傷つけることをしました。

希望      絶望

- ・ 仕返しすることを決め、友達を傷つける。 ☐ ☐
- ・ 友達を許す。 ☐ ☐
- ・ 自分は誰もこのように傷つけないと決める。 ☐ ☐
- ・ あなたの友達が悪い人間だと言いふらす。 ☐ ☐
- ・ 友情を絶つ。 ☐ ☐

このレッスンで、ジュニアユースが発見する精神的真理をいくつか挙げましょう。光と闇にたとえられている希望と絶望というテーマは、どう扱われていますか？この物語と、物語に付随するアクティビティは、どのように、ジュニアユースの精神的認知力を研ぎ澄ますのに役立つでしょうか？

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 9

ジュニアユースを精神的に力づけるために、プログラムの中で数多くのテーマに取り組む必要があり、「希望」と「確証」はその二つの例です。こうしたテーマについて丁寧に話し合うことで、精神的認知力が強化され、意識の拡大に役立ちます。アブドル・バハはこう述べておられます。

神の信教の堅固な支えとして制定された柱が幾つかある。それらの中で、最強の柱は学習と知性の行使、意識の拡大、森羅万象の真実や全能なる神の隠された神秘についての洞察である。<sup>24</sup>

人間はさまざまな意識レベルで生きることができます。神のご意志と目的を認識すること、私たちとその共同体に影響を及ぼしている勢力を認識すること、新しい世界を築くために知的、精神的な力を捧げる努力をすること——これらは物質的な関心事に集中した生活よりも高い意識状態を示唆します。ジュニアユース・グループのメンバーがより高い意識段階に到達するよう援助することはアニメーターにとっての主な課題の一つです。ジュニアユースがその段階に到達するためには、精神的な生活の中心となるテーマに関連する概念を理解する必要があります。そして、そのような概念について熟考し、分析し、それを自分たちの現実に適用する能力を高める必要もあります。「希望」と「確証」の他に、ジュニアユースが熟考の対象とすべきテーマや関連概念には、どのようなものがあるでしょうか？

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 10

これまでの数セクションで、私たちは精神的認知力という課題と、これに関連する属性の幾つか、すなわち、心の純粋さ、神の知識、神の愛について調べました。また、私たちが「内なる目」で見るのを妨げる「ヴェール」についても考え、ある概念を理解することが、どのように精神的認知力を強め、意識を拡大する上で役立つかを考えました。

思春期において、人間の魂に内在する力がますます顕在化してきます。その中でも、思考力と表現力は特に重要であり、それらを育むことは意識の拡大にとって同様に不可欠です。言語と思考の間には密接なつながりがあります。思考力は発言を通して明らかになるものであり、発言力を高めることは理解を深めるために不可欠です。表現力を高めることと、現実に対する理解を深めることは密接な関係にあります。理解には、結局のところ、言語と分ち難く結びついた活動である思索と内省が必要なのです。バハオラはこう述べておられます。

おおバハの人々よ！技能や科学や技術の源は熟考力である。地球に住む全ての親族の幸福と調和を促進するような真珠や英知や発言が、この理想的鉱山から輝き出でよう、<sup>なんじ</sup>汝ら、最大の努力を尽くすがよい。<sup>25</sup>

もちろん、人間の理解力と表現力は、神の言葉による啓発を必要としています。バハオラは述べておられます。

<sup>なんじ</sup>彼は<sup>きゅうさい</sup>汝らを救済するために到来し、<sup>はしご</sup>汝らが、<sup>いただき</sup>発言の梯子で理解の頂<sup>かんなんしんく</sup>に昇れるようにと、艱難辛苦を背負われた。<sup>26</sup>

表現力の強化には、読み書き、<sup>わじゆつ</sup>話術といったような、型にはまった技術の習得以上のことが含まれます。それにはいくつかの能力、つまり、<sup>すぐ</sup>優れた読解力、考えを明確かつ雄弁に表現す

る力、概念を的確に述べる力が求められます。これらの能力を行使して、ジュニアユースは、自分たちを取り巻く世界の状況分析や、自らの将来の社会的イデオロギーの基盤となる個人的信念を形成するために、関連する科学的、道徳的、精神的概念を適用することを学びます。

アブドル・バハは「人口の大部分は、社会の慢性病を即座に治す薬であるこれらの重要な手段について知らされていない」と説明されました。また、師は「現在のところ、不十分な教育のため、人民のほとんどは、自分の言わんとすることを表現するための言葉さえも欠けているのである」とも言われました。したがって、青年期の初期に表現力を発達させることができ、人類の慢性的疾患を治療する神の薬に気づき、自分たちの心を高尚な考えで満たし、その方法で理解力を高め、意識を拡大した人達はなんと幸運なことでしょう。

既に何冊かのテキストを終えたジュニアユースのために使われることが多い、バハイの考えに基づいたテキスト『言葉の力を引き出す』から抜粋した以下のレッスンでは、グループが「言葉」の概念について話し合っています。これを勉強して、若者達の意識がどのように高められたかを説明しましょう。

アレグリアスのユース・グループが発足して数ヶ月が経ちました。その間に彼らが実行した最もおもしろい活動のひとつは、植樹プロジェクトでした。学校の周りの敷地 50 本の果樹を植え終わると、彼らは、親・友人・近所の人たちを式典に招待しました。その式典でエリサは環境を改善することの重要性について短いスピーチをしました。地域の人たちはこのプロジェクトに感謝しました。これらの樹はやがて実を結び、村の美化にもつながるからです。

エリサは式典の翌日、アレグリアスを発つ前にユースとの特別な集まりを持ちたいと言いました。「今日はこれから数ヶ月の間、私たちの話し合いの中心となるテーマについて、みんなに話し合ってもらいたいのです」と、エリサはとても熱心に言いました。「そのテーマを紹介するにあたって、みんなにまず質問があります。神さまはなぜ私たち人間を創られたのでしょうか？」

マリエラがすぐに答えました。「神さまは人間を愛しておられたから、創られたのよ。『われ<sup>なんじ</sup>の創造を愛した。さればわれ汝を創った』。私は小さいときにこの言葉を覚えたの。今も忘れていないわ」

「すばらしいわね」とエリサが言いました。「神さまは私たちを限りなく愛しておられたので、私たちをお創りになりました。そしてその愛があったから、私たちの一人一人に最もすばらしい贈り物をくださいました。そのような贈り物のひとつに、『言葉』を使う能力があります。つまり言葉を話し、読み、書き、理解する能力は人間以外には与えられていないのです。言葉を通して私たちは互いに意思の疎通<sup>そつう</sup>をし、自分がどう感じ、何を考えているかを知らせるのです。そして何よりも大切なことは、聖なる教えが表現されるのもこの言葉を通してなのです。神の顕示者を通して啓示される神の言葉に耳を傾け、それを読むことによって私たちは神の教えを理解します。そこで、みんなの話し合いのテーマは『言葉の力』にして欲しいのです」

「言葉は剣よりも強いっていう句を聞いたことがあるわ」と、カルロタが言いました。

「そのとおりだよ」とロベルトが言いました。「でも言葉が力を発揮するためには、行いが伴<sup>ともな</sup>わないとだめだ。そうでないと、言葉は空っぽ<sup>から</sup>になってしまうし、風が吹いたらすぐ吹き飛ばされてしまうよ。僕の好きな引用文に、『おおバハの人々よ！行いが言葉と異なるものらの道を歩かないよう気をつけよ』というのがあるよ」

「そのとおりだわ」とアンナ・マリアが言いました。「ある人に自分は親友だと言っても、その人が必要なときに助け<sup>た</sup>けないなら、大した友達<sup>たい</sup>じゃないってことになるわよね」。

みんなはアンナ・マリアの言葉で想像力を刺激され、中身のない言葉、行動が伴った言葉の両方の例をあげ始めました。

最後にエリサがこう言いました。「みんなよくできたわ。行動が伴った言葉にはとても力がこもっているということを納得したようね。そう、言葉にはとてもつもない力があって、それは世界を変えることさえできる力なの。みんなはより良い世界を築きたいと思っているでしょう。あなた方が言葉の使い方を学ぶべき理由はそれなのよ。つまり言葉について考え、言葉を理解し、話し、広め、そして言葉を行動に移すことがうまくできるようになることなの」

しばらくの間、ユースたちはエリサの言ったことについて考えていたので黙っていました。そして突然、ディエゴがあるアイデアを思いつきました。あまりにも興奮していたので、みんなの前に立ち上がってこう言いました。「物質的進歩と精神的進歩をどうやって達成できるかわかった！純粋な行動の伴った言葉の力を通してだよ！」

みんな、黙っていました。ディエゴは気まずそうにそこに立ち尽くしたままでした。座ってよいものやら、立ったままでよいものやら、わかりませんでした。助けを求めて、エリ

サの方を見ました。エリサはゆっくり立ち上がり、ディエゴの方に歩いてゆき、彼の手を取ってこう言いました。「あなたはとても深い真理を見つけたのよ。時間がたつにつれ、それがどんなに大切なことなのか、わかるようになるわ」

### 練習

1. 下にあげた単語を用いて、文章を完成させなさい。ただし、形を変えるべきものもあります。

伴う、想像、表現する、行動、意思疎通する、改善する、授ける、  
創造する、環境、取り囲んで、贈り物、明らかにする、納得させる、深い

- a. 言葉の力を通して私たちは自分を\_\_\_\_\_ことができる。
- b. ジュリアは小さい弟をひとりにしたくなかったので、弟を\_\_\_\_\_お店に行くことにした。
- c. 医者は女の子の健康が\_\_\_\_\_始めたのをみて、喜んだ。
- d. エンリケは何度か頼んで、やっと、集まりで話をするように彼女を\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ことができた。
- e. 神さまは私たちに命という\_\_\_\_\_をくださいました。私たちはそれを無駄にしてはいけません。
- f. フアン・カルロスは、いつも、約束は努力してそれを守ろうとします。彼の言葉にはいつも、\_\_\_\_\_が伴っています。
- g. 神さまは私たちを愛しておられるので、私たちに数多くの贈り物をくださいました。  
言葉を使う能力は、神さまが私たちに\_\_\_\_\_最もすばらしい贈り物のひとつです。
- h. その話は、すべて作者の\_\_\_\_\_によって書かれました。

- i. 他の人と\_\_\_\_\_には、話を聞くことを学ぶべきです。
- j. セシリアは\_\_\_\_\_について関心があったので、地域のセンターで衛生についてのコースを提供することにしました。
- k. ディエゴはプロジェクトに取り組むときはいつも、みんなにやる気を出させることができます。彼は熱意を\_\_\_\_\_ことができるのです。
- l. ロベルトは1日中働いたので疲れて果てて、すぐ床<sup>とこ</sup>につきました。誰も彼を起こすことができませんでした。彼はとても\_\_\_\_\_眠りについていました。
- m. 私の祖母は自分の歳を誰にも言いたがりませんでした。100 歳になった時、ようやく自分の歳を\_\_\_\_\_ました。
- n. アンナは家の周り一帯に庭を作りました。それで様々な色や形の美しい花が家を\_\_\_\_\_咲いていました。

2. 下にあげた語句を使い、文章を作りましょう。

清き行い: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

環境を良くする: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

とても熱心に: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

言葉を行動に移す: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

言われた事についてよく考える: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

3. 言葉には人を良い方や悪い方に導く力があります。私たちが使う言葉によって、人に良いアドバイスを与えることも、悪いアドバイスを与えることもできます。以下の文章が良いアドバイスなら「○」、悪いアドバイスなら「X」をつけなさい。

\_\_\_\_\_ 私たちは和合しているべきで、決してけんかしてはいけません。

\_\_\_\_\_ もしそれが必要ならもらえばいい。持ち主がどう思おうと関係ないでしょ。

\_\_\_\_\_ 陰口しないこと。

\_\_\_\_\_ 私たちはみな、ときどき<sup>なま</sup>怠けたい時があります。そんな日は何もしないほうがいい。

\_\_\_\_\_ 今日できることを明日に<sup>の</sup>延ばすな。

\_\_\_\_\_ 集まりにちょっと遅れていくくらい大丈夫よ。

\_\_\_\_\_ いかに小さな仕事でも優れた仕事をすべきです。

\_\_\_\_\_ 時には罪のない小さな嘘をついてもいいのよ。

\_\_\_\_\_ 誰にも何もしてあげる必要なし。どうせ<sup>むく</sup>報われないんだから。

\_\_\_\_\_ 人生の目的はただ楽しい事をするだけ。

\_\_\_\_\_ 私たちは日々自己を磨くべきです。

\_\_\_\_\_ 仕事は罰のようなもの。

\_\_\_\_\_ なぜ法律に従うべきなの？何が自分にとって一番良いことかは自分が知ってるでしょう？

\_\_\_\_\_ この世での私たちの目的は、神さまを知り崇拝することです。

\_\_\_\_\_ 奉仕の精神で仕事をするとき、私たちは神さまを崇拝していることになります。

\_\_\_\_\_ 私たちは自分の生活だけ気にかけて、他人たちの問題に悩まされるべきではない。

\_\_\_\_\_ あなたの両親はお年寄りです。現代の生活についてはあまり分からないでしょう。

\_\_\_\_\_ 時々、ほんの少しお酒を飲むぐらいなら害はない。

\_\_\_\_\_ 人生は短いだから、なぜそんなに仕事ばかりする必要があるの？

1. このレッスンでは、ジュニアユースが「言葉」の概念について熟考するのを助け、彼らの意識を広げようとしています。どのようにそれを行っていますか。

---

---

---

---

---

---

---

---

2. 上のレッスンで、思考力と発言力の間にどのような関係を見出しましたか。

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 11

ジュニアユースは、文章をすらすら読み、その文章の意味を把握する能力を発達させる必要があります。世界の多くの地域に、この年代向けの多様な著書があり、その範囲は、学術的教科書からコミック雑誌にまで及びます。この膨大な著書の多くはジュニアユースの健全な育成に役立つ要素も多いですが、それらの効果は、バハイの聖典に示される真理が若者の魂に及ぼす影響には及びません。私たちは、この宗教制において、バハオラがあらゆる言葉に新鮮な効力を付与されたことを知っています。バハオラはこう述べておられます。

しかし、全能なる命令者の指示にしたがい、われはわが栄光のペンの動きにより、あらゆる人体に新しい生命を吹き込み、すべての言葉に新たな威力を付与した。この蘇生<sup>ふよそせい</sup>の波は全世界に及び、その証拠はあらゆる創造物に現われている。<sup>27</sup>

ジュニアユースの表現力を育むために使用されるテキストで扱われるテーマや概念が何であれ、その内容は信教の聖典を厳密に反映したものであるべきです。たとえば、「正義」の概念についての理解は、バハオラの教えによって照らされるなら、精神的な現実との接触を失った世界では簡単に達し得ないほどの意味の深さに達するでしょう。聖典に含まれる珠玉<sup>しゆぎよく</sup>の知恵を、想像力豊かに練り上げられたテキストの助けを借りて発見することは、ジュニアユースの心を照らし、その心に喜びを生み出します。アブドル・バハは次のように説明しておられます。

あなた方の魂が神の御言葉の光によって明るく照らされ、神の神秘の宝庫とならんことを。なぜなら神聖な教えを精神的に理解すること以上にすばらしい慰め<sup>なぐさ</sup>や甘美な幸せ<sup>かんび</sup>はないからである。もし、シェイクスピアのような詩人の言葉の真の意味を理解できたなら、人は喜び<sup>うれ</sup>、嬉しく思う。ましてや、聖典の真理を理解し、王国<sup>しんぎ</sup>の神秘について知ることができるなら、人の喜びと嬉しさはいかばかりであろうか！<sup>28</sup>

下記の文章は、ジュニアユース・テキスト『言葉の力を引き出す』からの抜粋です。テキスト全体を通して「進歩」がテーマになっていて、信教の教えに一致した進歩の概念について、若者達が理解を深めるのを助けるよう工夫されています。今日のマスメディアで伝えられている進歩の意味と、以下の抜粋で表現されている進歩の意義との違いを識別するよう求められています。

大分前に、人々に尊敬されている教師が村を訪問しました。この人はこう言いました。「アレグリアスは物質面と精神面の両方の進歩を達成させる模範的な共同体となれるでしょう」。最初、ディエゴは「物質的進歩と精神的進歩」という意味がはっきりわかりませんでした。でもこの話を聞いたとき、彼も共同体の人々も興奮しました。それ以来、彼はこのテーマについて多くのことを学びました。ディエゴは身体は小さいけれど、もう子供ではないこと、そして村の人たちが望んでいる物質的進歩と精神的進歩の達成を手助けできることを知っていました。

このような会話の中で、ディエゴは物質的進歩と精神的進歩について問いかけました。いつも興味深いことを言うマリエラがすぐに答えました。「私、知ってるわ。物質的進歩とは、私たちは貧乏で、幸せにしてくれる物を買えるようになるにはもっとお金が必要ってことよ」

マリエラのコメントは皆を刺激し、それぞれが意見を述べ始めました。次はその話し合いの大体の内容です。

アントニオ 「僕は幸せになるには必ずしもお金が必要とは思わない。貧乏で幸せな人をたくさん知ってるよ」

カルロタ 「今、私の兄さんは大学の休みなんだけど、私たち貧乏人がお金持ちのために喜んで働くよう、お金持ちが『幸せな貧乏人』と言う、うたい文句を作ったと言ってるよ」

アンナ・マリア 「確かにそうかもしれないけど、幸せは心の中からくるもので、物をどれだけ所有しているかからくるものではないと思う」

ディエゴ 「でも貧乏はそんなに楽しくもないよ。生活を改善するために最善を尽くすべきだよ」

アントニオ 「でもその努力の間も幸せでいることが大切だと思う。僕は自分のため、地域のために一生懸命働きたいけど、そうしながらも幸せでありた

いんだ。以前はカルロタの兄さんと一緒にいるのが楽しかったけど、金持ちと貧乏人<sup>ごし</sup>についてのことを話し始めてから、聞くのがいやになった。彼はケンカ腰<sup>ごし</sup>だもの」

ロベルト 「真の幸福は、神様のおそば近くにいることと神様の掟<sup>おきて</sup>に従順であることから来るものだよ」

ディエゴ 「そうだよね。だけど神様を愛することは、神様が創造した人間を愛し、共に助け合うことだということも忘れてはいけない」

カルロタ 「それと、神の掟を守ることは、より良い世界を築くためにお互いが協力し、恵まれない人をなくすよう努力することでもあると思う」

その時、ディエゴは自分たちの議論はほとんどが物質的進歩のことであるということに気がつき、「精神的進歩はどうしたの」と問いかけました。しかし、みんなはさっきの協議で疲れきっていたので、話の続きは次回に回すことにしました。

ユースは物質的進歩と精神的進歩について話し合うため数回集まり、一ヵ月後のエリサの訪問直前に結論を出すため、特別な話し合いを持ちました。ユースがアイデアを発表したとき、彼女はとても喜び、皆がきちんとした結論を出せるよう助けました。それにより、彼らは次の宣言を書面に書くことができました。

#### ユース宣言

私たちはもう子供ではないので将来について真剣に考えるべきです。私たちの住んでいるこの世界は苦難と不和に満ちています。人が調和して住み、戦争と貧しさのない新しい世界を作りたいのです。新しい世界作りはまず私たちの地域から始めるべきです。それで私たちはこの小さな町、アレグリアスでの物質的進歩と精神的進歩について話したいと思います。物質的に進歩するには、農業を発展させ、健康に注意し、もっとたくさんの学校を設立し、商業や産業を活発にさせるべきです。私たちの労働が実り、家庭や町や周囲が美しくなり、皆が清潔で衛生的な環境を満喫<sup>まんきつ</sup>できるのです。

すべての人の物質的進歩は精神的進歩を達成しなければ実現できません。精神的進歩なくしては、一握りひとにぎの人だけが裕福で残りの人が貧しいままであり続けるのです。共同体として目的を達成するには、和合し、公正に行動し、協力し合い、お互いに友好的でなくてはなりません。正義、寛大、愛、親切、正直、信頼性は精神的な特質であり、私たちが物質的進歩と精神的進歩を達成する原動力です。

精神的特質を持つことは、よりよい世界を築くためだけに必要なものではありません。この地球では終わらない私たちの魂の生命にも必要なのです。物質的、精神的進歩とは日々それぞれの面で優秀さを目指し、正義と平和な世界を築くために努力し、喜びと幸福に満ちた永遠の生命のための心構えをすることなのです。

ディエゴはスピーチの準備に長い時間をかけました。当然、彼が主題として取り上げたかったのは、「アレグリアスの精神的進歩と物質的進歩」でした。でも難しい話にしたくなかったし、友達に説教じみた話をしたくありませんでした。そこで次のようなスピーチをしました。

「アレグリアスのユース・グループの一員であることは僕にとってとても大事なことです。このグループのメンバーは、これまで僕が持った友だちの中で最高であり、みんなと共に過ごした時間は、これまでの人生の中で最も幸せな時のひとつです。このグループを結成し一緒に活動し始めてから、僕たちは大きく変わったと思います。最初は多少子供でしたが、共に会合を持つうちに次の成長段階に入ったと思います。活動や協議のおかげで、混乱と絶望の状態でユースの時期に入らずにすみしました。僕たちは人生の目的を知っており、その目的を達成するためにお互い助け合うことでしょう。僕たちは永遠に友達でいると思います。

このグループを結成してから、僕たちがしばしば考えてきた課題はアレグリアスの精神的・物質的進歩です。最初はただその意味を知りたかっただけだと思います。しかし、今では私たちの多くが地域の進歩のためにエネルギーを捧げることが望んでいると思います。僕たちの熱意が伝染し、村のすべての人に影響を与えることを願っています。

愛情を込めて指導してくれたエリサのおかげで、僕たちは進歩について重要なことを知っています。僕たちが常に団結していなければすべての努力が無駄にな

るということです。「優秀」を目指すこと、一日が前の日よりも良い日になること、また啓発された言葉と清い行いは変化をもたらす力があることを学びました。ではなぜ、言葉はそんなに力があるのでしょうか。その最も大切な理由の一つは、言葉を通して私たちは知識を発見し、獲得し、伝達できるからです。進歩の原動力は知識です。

先日、僕は家の近くの牧場で牛が何頭か草をはんでいるのを見ていました。僕は一人思いました。『牛は、必要なものはみんな持っている。牧草を食べたいなって思っているかわからないけど、全部、その場に生えているし。小川が牧場の中を流れているから、飲みたい時はいつでも飲めるし。日向でも日陰でも好きな時にいつでも寝そべれるし。他に何が要るっていうんだろう？』そこで、僕ははっと気がつきました。牛たちはこれしか持ってないんだ。知識もなければ、自分たちが何をしているか理解しているわけでもない。言ってみれば自然の奴隷です。牛みたいには絶対に生きたくない僕は心に決めました。そこで自分自身に問いかけました。『もし、僕にとっても力があって、裕福な人物になったとしても無知だったらどうだろう。結局は奴隷と変わらないんじゃないだろうか。自分自身の熱情の虜になって、訳のわからないことをし、食欲の奴隷、自分より金持ちで強い人たちの奴隷でしかないのではなかろうか』って。だから知識は進歩の中核です。知識は僕たちに自由を与えてくれるのです」。

進歩というテーマについて、ジュニアユースが理解すべきだと思うことは何か、考えを下の欄に短くまとめましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

## セクション 12

信教の聖典では、「発言」は、「明晰」「雄弁」「浸透性」「感銘を与える」といった言葉で修飾され、「節制」「英知」「理解」の必要性を指摘する表現が添えられます。これらの性質を備えた言葉は、「自我と情欲のヴェールを焼き尽くし」、「敵意と憎悪の火を消す」という並外れた効果が期待されます。また、言葉はそれを発する人の状態や精神的資質によって影響力を発揮します。

ことあ  
言挙げよ、人間の発言は本質的に影響力を及ぼすことを目指し、節制を

要する。その影響力は、それが洗練されているかを条件とし、さらに洗練されているかは、離脱した純粋な心に左右される。<sup>29</sup>

さらに、言葉と発言は感銘を与え、かつ浸透性を持たねばならない。しかしながら、言葉は、それが完全に神のために、また、その時と人々の緊急性を考慮して発せられるのでなければ、これら二つの資質が吹き込まれることはないであろう。<sup>30</sup>

我は、神に懇願する。御恩恵の真珠を汝らの頭上に降らせ給え。神の愛の火を汝らの心に点火し給え。高潔な人々の集いにおいて、最も雄弁な言葉と最も素晴らしい神秘を語るために汝らの舌を緩め給え。見解を一致させ、思考を調和させ、汝らをアブハの樂園の花となし、天上の天使となし給え。全ての人々の中で、神の王国の神聖な徴が汝らの顔に顕現されるようなし給え。<sup>31</sup>

汝の言葉や発言が、頑なになった心に浸透するよう願うなら、この世界に対する全ての愛着を自身から取り除き、汝の顔を神の王国へ向けよ。

32

1. 上の引用文から、人の発する言葉に力を与える精神的資質をいくつか挙げてください。

---

---

---

2. この精神性を高めるプログラムでジュニアユースが学習するテキストで示される概念の探究は、これらの資質の育成に、どのように役立つと思いますか。

---

---

---

## セクション 13

聖典において、発言力は崇高な目標を実現させる方向に向けられるべきであると言われて  
います。

今は、『最高のペン』から流れ出た超脱ちょうだつの水で自身を清め、繰り返し  
送られた、あるいは顕あらわされたこれらのことについて、完全に神のために  
熟考し、そして英知の力と汝の発言の力を通して、世の人々の心にくす  
ぶる敵意と憎悪ぞう おの火を消すために、力の限りを尽くして努力する時であ  
る。<sup>33</sup>

この僕しもべは、すべての勤勉で積極性に富む魂に訴える。唯一なる御方、  
比類なき御方、全能者、慈悲深き御方なる神に対して抱く愛ゆえに、あ  
らゆる地域の状況を改善し、知恵と発言の活水かつすいで死者を蘇よみがえらせるため  
に最大限の力を尽くして立ち上がれ。<sup>34</sup>

すべての言葉は精神ふ よを賦与されている。従って話し手、あるいは解説  
者は適切な時と場所で自分の言葉を慎重に伝えなければならない。なぜ  
なら、それぞれの言葉がもたらす印象は明らかに明白で、知覚できるか  
らである。『偉大なる存在者』は言う。ある言葉は火、別の言葉は光にた  
とえられよう。そしてそれらの及ぼす影響は世界に表れる。故に、啓発  
された賢者は、主としてミルクのように柔和な言葉で話すべきである。  
それにより、人の子らは育てられ、啓発され、真の理解と高潔の地位、  
人間存在の究極の目的に達するであろう。さらに、彼は言う。一つの言  
葉は知恵のバラ園の柔らかい苗木を緑豊かに繁栄させる春のようであ  
り、一方、別の言葉はあたかも致命的な毒のようである。分別ある賢者  
は最高の寛大さと寛容をもって話すべきである。そうすれば、彼の言葉  
の甘さはすべての者を人の地位にふさわしいところに達するよう誘うで  
あろう。<sup>35</sup>

1. 以下の声明を読み、正しいか判断してください。

表現力が目標とするものは、

- \_\_\_\_\_ 議論で勝つこと
- \_\_\_\_\_ 明白な論拠を示し、真理を説明すること
- \_\_\_\_\_ 人々の心にある敵意と憎悪の火を消すこと
- \_\_\_\_\_ 他の人を操ること
- \_\_\_\_\_ 真実を隠すこと
- \_\_\_\_\_ 森羅万象の神秘について説明すること
- \_\_\_\_\_ 複雑な事柄について例をあげて説明すること
- \_\_\_\_\_ 誤解をはっきりさせ、ビジョンの一致をうちたてること
- \_\_\_\_\_ 自分の意見の優位性を実証すること
- \_\_\_\_\_ 称賛と感心を得ること
- \_\_\_\_\_ 現実の調査
- \_\_\_\_\_ 人々の状況を改善すること
- \_\_\_\_\_ <sup>しいた</sup>虐げられた人々の権利を擁護すること

2. 表現力の向上が、個人的な変革の道におけるのと同様に、社会の変革に貢献しようとする努力において、ジュニアユースにとってどのように役立つか、短い文章を書いてみましょう。

---

---

---

---

---

## セクション 14

ジュニアユースの表現力向上を助けるとき、神の御言葉こそが、人が発する言葉に力を注ぎこみ、人の心と知性に真の理解を付与<sup>ふよ</sup>するということを決して忘れてはなりません。ここで一旦立ち止まって、以下の引用文を読み、熟考してみましょう。

発言の『真昼の星』は神の啓示の地平線上に輝いている。その光輝は  
諸々の書物や書簡を照らし、かくして言葉という王国と理解という気高  
き領土は喜悦に震え、彼の光を華麗に放っている。<sup>36</sup>

言挙げよ。汝らの心の土壤に英知と理解の野草が芽吹くよう、われは  
わが玉座より神聖なる言葉の大河を放出させたのである。<sup>37</sup>

あなたの発言の息吹を通して、理解の天は飾られ、そして、あなたの  
ペンから流れ出るものにより、すべての朽ち果てた骨は再生された。<sup>38</sup>

それゆえ、神の最初の賜物は御言葉であり、それを発見し受け止める  
のは理解力であることは明々白々である。この御言葉は存在の学び舎の  
第一の教師であり、全能なる御方を明示するものである。目に見えるも  
の全ては御言葉の英知の光によってのみ見ることができる。明白なるも  
の全ては御言葉の知識の印にすぎない。全ての名称は御言葉の名称にす  
ぎず、すべての事柄の始まりと終わりは必然的に御言葉に依存しなけれ  
ばならない。<sup>39</sup>

上記の引用句をできるだけ多く暗記しておくといいでしょ。

## セクション 15

私たちは、人類が道徳破綻に直面している時代に生きています。何百年もの間、人類を導  
いてきた基準はどんどんその影響力を失い、蔓延する物質主義、極端な相対主義と抑えのき  
かない個人主義に立脚したイデオロギーの価値観が次第にその座を奪いつつあります。それ  
が若者に及ぼす影響を考える前に、この現象について更に考えてみましょう。

過去数世紀の歴史の流れの中で、人類が、自分たちを長い間抑圧してきた数多くの鎖から  
徐々に解放されてきたというのを確認することができます。独断主義、専制政治、迷信、これ  
らはその鎖のほんの一部です。成し遂げなければならないことはまだたくさんありますが、深く  
根付いた偏見は克服され、正義を執行するための法律が作られ、個人や集団の権利が認め

られました。しかし残念なことに、この貴重な歴史的運動は現在、両極端に悩まされ、その傾向はますます強まっています。極端な相対主義と抑えのきかない個人主義が主役に躍り出て、絶対的なものの存在が脇に追いやられているのです。個人の好みを自由に追求することが最高の理想とされ、その結果、善悪の区別が曖昧になりつつあります。大きく異なる価値観に基づく行動パターンが、より多くの場所で同価値とみなされるようになり、伝統的に共同体のメンバーを結びつけてきた絆は、その強度をほとんど失っています。

このような風潮の中で、ユースは道徳的な指針を得られず、真理と虚偽を区別することが困難な状態に置かれることが多くあります。人間に真理と虚偽を区別することを可能にする精神的感受性を目覚めさせることができるのは、神の御言葉以外にありません。アブドル・バハは、神の御言葉は思考と道徳の領域を照らすと教えておられます。

…知性と理想主義の精神的領域には、啓発の中核がなければなりません。その中核とは、永続し、永遠に輝き続ける『太陽』、神の御言葉です。その光は人類を照らしてきた真実の光であり、それは思考と道徳の領域を照らし、人間に神の世界の恩恵を授けています。<sup>40</sup>

道徳的な選択ができるようになるには、一連のルール以上のものが人には必要です。強い社会的目的を持った若者の知性と心の中に、道徳的な構造全体が構築されなければなりません。この構造は、精神的概念、振る舞いのパターン、必然的にもたらされる結果についての知識を結びつけ、意志と勇気の力によってしっかりと保持されます。このような道徳的構造は、個人の知性の中で働く言語の構造と密接な関係があるように思われます。この言語は、前のいくつかのセクションで述べたように、若者が、崩壊しつつある世界において、人々の価値観を形成している社会的、文化的、イデオロギー的な勢力を認識し、それらを変革するために必要な精神的な力の本質を理解するのを可能にするほど、十分に豊かなものであるべきです。

人が考えを表現する言語構造と、その人の思考と振る舞いを支配する道徳構造との密接なつながりは、言語と道徳の両方を教える方法にとって重要な意味をもちます。言語を教えるために使う教材の内容は、それを用意する人の価値観によって必然的に変わってきます。それは明確な道徳的メッセージを伝えるものにもなり得るし、道徳的にあいまいなもの、精神性を害するものにもなり得ます。道徳教育の内容もまた、普及している道徳の概念によってさまざまに変わる可能性があります。たとえば、精神的認知力を高め、社会変革へのコミットメントを育む言語と思考の要素に十分な注意を払うことなく、単に振る舞いを改善することを目的として、道徳的概念が一連の美德、義務、規則、事実として提示されている大量の教材を確認することができるでしょう。また、生徒の好みや嗜好を明らかにすることで、自分という人間を発見し、自

分のもつ可能性に気づくことができるという前提で、生徒に自分の好みや嗜好について話し合うよう求めるだけの道徳教育プログラムも見受けられます。道徳教育をこの二つのどちらかのアプローチに絞るのは、認め<sup>がた</sup>難いことです。ジュニアユースの精神性を高めるプログラムは、当然、高い道徳規範を敬遠することはできませんし、また、そのような基準が個人に明確に要求するものを無視することもできません。同時に、このようなプログラムでは、先に述べたように、精神的な概念について十分に議論できるようにする必要があります。しかし、さらに踏み込む必要があるのです。特に、道徳的構造の創造における言語の役割に注意を払う必要があり、次の二つのセクションでこの役割について考えます。

## セクション 16

精神性を高めることに関する教育プログラムで使われるテキストは、率直で探究的でありながら、ここ何十年間か道徳教育を大いに悩ませてきた相対主義に陥らないような言葉で書かれなければなりません。

『まっすぐな道を歩む』もまた、ジュニアユース・プログラムを構成する、バハイの考えに基づくテキストです。20の物語で構成され、それぞれが一つの道徳的テーマに関連しています。ほとんどの文化で、物語は、ある世代から次の世代へと知恵を伝える手段として用いられています。このテキストでは、いくつかの有名な物語が、従来伝えられてきた曖昧なメッセージを取り除くように書き直されています。また、各レッスンには、道徳構造を健全に発達させるために極めて重要な言語的スキルや能力を高めるための練習問題が組み込まれています。以下のレッスンは、みなさんがよく知っている寓話から始まります。この寓話は、明確な道徳的メッセージに沿った思考様式と行動様式を育む目的で書き直されています。レッスンを読み、この物語が伝えるメッセージが、誤った文化的規範の永続をどのように回避しているか、話し合ってください。

賢い人はお世辞にごまかされることはありません。もちろん、誰でも誉められると励まされます。しかし、誉められることを切望していると、判断力が弱まることを覚えておきましょう。

ある時、1匹のキツネが、くちばしにチーズのかけらをくわえているカラスを見つけました。キツネは、「あのチーズを取ってやろう」と考えました。そして、カラスが木の枝に止まるまでカラスの影の後を付いて行きました。

「いい日ですね、カラスさん」。キツネはできるだけ行儀良く言いました。「今日のあなたはとても魅力的ですね。羽はつやつやしているし、目ときたら宝石のように輝いていますよ。きっとあなたの声もすばらしいでしょう。ああ、あなたの鳴き声を聞けたらなあ」

この言葉は、新鮮な水のように、称賛されることを望んでいるカラスを満足させました。そこで、自尊心をくすぐられたカラスは頭を持ち上げ、素敵な友達に敬意を表して歌を歌い始めました。

もちろん、カラスがくちばしを開けたとたん、チーズのかけらは落ちました。キツネは、チーズが地面に落ちる前にそれをパクッと口にくわえ、逃げていきました。あたりにはカラスの不愉快な声が響き渡りました。

### 理解を深める

以下の質問に対する答を、きちんとした文章で答えましょう。

1. キツネは何を見ましたか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
2. カラスはくちばしに何を持っていたか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
3. キツネはチーズを取るために何をしましたか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
4. カラスは本当に心地よい声をしていましたか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
5. キツネは心からカラスを誉めたのですか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_
6. この物語の起きた場所は町ですか、村でしょうか。それとも森でしょうか。 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

## 言葉を増やそう

次の言葉を一つずつ使って文を完成させましょう。必要であれば、文に合うように語形を変化させて使いましょう。

励まし 切望 魅力的な  
影 誉めて 満足 自尊心  
愉快的な 判断 弱って

1. 生徒たちは一所懸命勉強したので、先生はいつも生徒たちを、\_\_\_\_\_いました。
2. アルマンドと弟は、一緒に畑で働いたり将来の計画を話し合ったりして\_\_\_\_\_一日を過ごしました。
3. ホン・メイは旅行が好きで、新しい場所を見に行きたいと\_\_\_\_\_していました。
4. 彼女は美しい声をしていたので、先生は彼女に音楽の勉強をするよう\_\_\_\_\_しました。
5. 農夫は最初の雨のすぐ後に種まきをするという正しい\_\_\_\_\_をしました。
6. チャンデューは、テストの点数に\_\_\_\_\_しなかったので一所懸命勉強することにしました。
7. ゾン・ジャンは問題を抱(かか)えていましたが、\_\_\_\_\_が強いので誰にも手伝ってもらおうとはしませんでした。
8. 日が暮れる頃、その木の長い\_\_\_\_\_は庭にかかります。
9. それは\_\_\_\_\_話だったので子どもたちは何度も聞きたがりました。
10. 彼は病気ですっかり\_\_\_\_\_いましたが、しばらくすれば元気になるとわかっていたので、すぐ働き始めました。

## 話し合おう

お世辞<sup>せじ</sup>にごまかされないようにするには、どうしたら良いでしょうか。

暗記しよう

「だましや詐欺<sup>さぎ</sup>のわなにはまらないよう、細心の注意を払って自分を守りなさい」

グループで次の質問を話し合ひましょう。

1. 注意しなければ、この物語はキツネの利口<sup>りこう</sup>さを賞賛するような形で語られる可能性がありますし、実際に、その意味で語られたこともあります。この物語の上述のバージョンでは、そうした印象をどう回避していますか？

---

---

---

---

2. この物語の道徳的メッセージは何ですか？

---

---

3. そのメッセージに関連した、いくつかの概念は何でしょうか？

---

---

4. ジュニアユースが道徳的概念を理解するのを助ける上で、このような寓話<sup>ぐうわ</sup>はどれほど効果的な手段でしょうか？

---

---

---

---

5. この練習問題は、ジュニアユースのどのような能力を伸ばすでしょうか？

---

---

---

---

---

6. レッスンで行われる話し合いは、そのみで行われるのではなく、物語の中で伝えられている道徳的メッセージとの関連で行われる場合、思考力や熟考力の発達にどのように寄与するでしょうか？ また、表現力をどのように高めるでしょうか？

---

---

---

---

---

7. このレッスンの最後に行われる引用文の暗記は、これらの力(思考力、熟考力、表現力)を強めるのにどのように役立ちますか？

---

---

## セクション 17

彼らが行う選択の基礎となる道徳的原則を認識するよう、ジュニアユースを援助するためには、彼らの現実に近い状況を提示することが重要です。しかし、このことは、現実的であるという名のもとに、人間の低次の性質を表わすものに注目するという意味ではありません。考察の対象となる状況は、ジュニアユースが理解し易いものである一方で、崩壊しつつある社会にあ

りふれたものである必要はなく、代わりに、優秀さを目指して懸命に努力するよう彼らを鼓舞する思考や振る舞いの基準を表わすものであるべきです。これを達成するために、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムで使われるテキストは、一方では権威者的な態度や子どもじみたおしゃべりを避けなければならない、他方では善行に関する説教の言葉を避けなければならない。バハイの考えに基づく、別のテキスト『優秀さについて学ぶ』から抜粋された次のレッスンを考えてみましょう。このレッスンで、チェン夫人は自分の孫たちに、純粋さの概念を説明し、また、いくつかの練習問題を通してその意味を彼らが完全に理解できるよう助けています。

チェン夫人は、優秀さの二番目の条件に、純潔<sup>じゅんけつ</sup>で聖なる生き方があると言います。そして、その生活には、謙虚さ、純粋さ、自制、礼儀正しさ、清らかな心などの美德があるといます。彼女はまず、純潔な生活の根底<sup>こんてい</sup>に無くてはならない純粋さの説明から始めます。

「鏡を想像してごらん下さい。ほこりをきれいに払ったら、光を反射します。同じように、心から、ねたみ、嫌悪、思いあがりのような不完全なものを取り払えば、心がきれいになり、天の光を反映するものとなります。孟子は、『大人とはその赤子<sup>せきし</sup>の心を失わざる者なり』(徳の高い人は嬰兒<sup>みどりご</sup>の時の純真無垢な心を持ち続けている人のことをいう)と言われました。もちろん、それは正しいです。でも、子どもの心の純粋さは、無知と弱さからきているし、まだ試練にもあっていません。あなたたちはもう子どもではありません。今後も成長するにつれ、賢く、強くなっていきます。それでも心の純粋さを失わないよう油断してはいけませんし、大いに用心しなければなりません。あなたたちの心の鏡をこの世の不純なもので汚<sup>けが</sup>してはいけません。そうではなくて、これは理性と信仰の力を通してすべきことなのです。努力と意志を使うことでしか、あなたたちが純粋でいることはできません」

それからチェン夫人は、純粋さの概念は誤解されることも多いので、次のリストから純粋さを持つ性質と、間違っ<sup>まちが</sup>って純粋さと関連づけられがちな性質の区別をするようユースたちに言いました。

いつわ  
偽りのないこと

しんし  
真摯であること

うぶなこと

ぎぜん  
偽善のないこと

清らかな心をもっていること

身体を清潔に保つこと

愚かなこと

いばらないこと

狂信的なこと

単純なこと

ずるさがないこと

私利私欲のないこと

弱いこと

感情的であること

知的であること

親切であること

見栄<sup>みえ</sup>を張らないこと

若者たちは以下の引用文を暗記し、祖父母と次の質問を話し合います。

わが第一の忠言<sup>ちゅうげん</sup>はこれである。すなわち、純粹にして優しく、また輝かしき心<sup>こころ</sup>を持て。さらば古<sup>いにしえ</sup>よりつづく不朽<sup>ふきゅう</sup>にして永遠なる主権<sup>なんじ</sup>は汝のものとならん。

人間の生き方は、まず純粹でなければならない。その次に、はつらつとしていること、清潔、精神の独立が必要である。川床<sup>かわどこ</sup>はまずきれいにしてから新鮮な川の水が流れ込むようにする。

1. 偽善者とは、本心でないのにそのふりをしている人のことです。どちらが悪いのでしょうか。多くの弱点を持っていることですか。それとも、偽善者であることですか。
2. 私たちの思考から取り除くべき不純なものにはどんなものがありますか。
3. 実際、どんな人がこの世でより多くのことを成し遂げますか。純粹な人ですか。それとも、不誠実な人ですか。

グループで次の質問について話し合しましょう。

1. このレッスンは、純粹さの概念について世間一般にみられる誤解をどう取り除いていますか？ \_\_\_\_\_

- 
- 
- 
2. チェン夫人の言葉遣い<sup>づか</sup>にはどのような特徴がありますか？

- 
- 
- 
3. このレッスンは、精神的優秀さを目指して懸命に努力するジュニアユースに、どのように役立つでしょうか？

## セクション 18

前の二つのセクションで私たちは、ごく簡単にではありますが、道徳構造の創造における言語の役割について考えました。『まっすぐな道を歩む』『優秀さについて学ぶ』からそれぞれ抜粋された二つのレッスンの考察は、あるテーマと概念についての話し合いを、言語のスキルと能力を向上するようデザインされた練習問題と組み合わせて行うことで、健全な道徳的選択に役立つ思考パターンを強化できるという点を理解する助けになったでしょう。このように言語の習熟度を発達させることがいかに重要であっても、個人の道徳構造は、多くの互いに影響合うさまざまな要因に左右されるということを忘れてはなりません。具体的には、ここで話し合っている思考パターンを科学的思考から切り離すことは困難です。若者たちは、科学的な方法で現実を調査することができるよう準備する必要があります。ですから、彼らが学ぶテキストの何冊かは数学や科学の分野を扱うことになりますが、その目的はそれらを教科として教えるためではなく、それらが生み出す合理性といったものを強化するためです。数年間という長期に

わたって、ジュニアユース・プログラムに専念することを希望する人のための、このブックから枝分かれしたコースでは、これらのテキストについてかなり詳しく話し合うことになります。今のところは、ジュニアユースが取り組むことになる教育プロセスのこの要素を意識するだけで十分です。

## セクション 19

精神的認知力を育み、表現力を高め、健全な道徳構造を構築すること、これらすべては精神性を高めるプロセスにとって極めて重要です。不幸なことに、力を持つということは、人間の精神的本質と反する価値観と関連付けられている場合が多くあります。通常、力を持つというこの概念について考えるとき、心に浮かぶイメージは、支配、操作、制圧、規則、優越性、征服のイメージです。しかし、あなた方の目的は、ジュニアユースが異なる種類の力を用いるよう援助することです。道徳的な力は、愛、正義、知識、理解、鋭敏な洞察力、奉仕、そして、とりわけ、謙虚さから生じます。実際、謙虚さは、私たちがここで考えている精神性を高めるプロセスにとって、無くてはならない状態です。というのも、天上からの援助を通してのみ、プロが驚に、一滴の水が川や海に、一個の原子が光や太陽になることができるからです。バハオラとアブドル・バハによって顕されたお祈りの抜粋を熟考することで、精神的・道徳的なエンパワーメントの性質についての洞察を得られるでしょう。その祈りの中で、私たちは、ある資質や属性を与えてくださるよう神に嘆願します。

あなたにお祈りいたします。おお、すべての名称の主におわし、天と地の両方を治め給う統治者におわす御方よ。あなたに愛されるすべての者一人一人があなたの御代において御慈悲の杯となり、あなたの僕らの心を奮い起こすことを可能ならしめ給え。更に、おお、わが神よ、彼らがあなたの恩恵の雲から降り注ぐ雨の如く、あなたのご慈愛の春の香りを運ぶ風の如くなるよう力を与え給え。彼らを通して、あなたが創り給いました者らの心の土壌は新緑におおわれ、あなたの領土全域にその香りを漂わすものが芽吹かされましょう。それにより、すべての人が『御啓示の衣』の芳香をかぐことができますように。<sup>41</sup>

おおわが神よ、あなたの創造物の間で御するしを広め、あなたの国々において信教を擁護することを可能にする力を私どもに授け給え。<sup>42</sup>

おお、わが神よ。あなたの御顔に目を据<sup>す</sup>えて、ただあなた御<sup>ひと</sup>一方のためだけに、あなたの法と勧告にすぎる者らの中に私が数えられますよう、私に力を与え給え。<sup>43</sup>

おお、わが神よ、私どもが自らを捨て、あなた御自身を顕示し給う御方、最も崇高で最も気高き御方に確固としてすぎり続けることができますよう、力を与え給え。<sup>44</sup>

諸々の御名の曙<sup>あけぼの</sup>であり、あなたの諸々の属性の夜明けの地である御方により懇願いたします。私があなたに仕え<sup>つか</sup>、あなたの美德を賛美するために立ち上がることを可能にするものを私に定め給え。<sup>45</sup>

私を御心<sup>じじょ</sup>にかなう侍女の一人となし給え。<sup>46</sup>

この子らを守り給え。この子らが教育されるよう恵み深く助け、人類世界に奉仕できるよう援助し給え。<sup>47</sup>

おお最愛なる御方よ、私が不信心<sup>ふしんじん</sup>な者らの疑惑によってあなたへ向かうことを妨<sup>さまた</sup>げられることなきよう、あなたの大業に確固たらしめるものを私に下し給え。<sup>48</sup>

私に、あなたの面前で真の座を得させ給え。私にあなたの慈悲の象徴を授け、恐れることも、悲しむこともないあなたの僕<sup>しもべ</sup>らの中に私を加え給え。<sup>49</sup>

おおわが神よ。あなたの僕が、御言葉を高く掲<sup>くうきよ</sup>げ、空虚なことや偽<sup>いつわり</sup>りを拒<sup>こば</sup>み、真理を立証し、聖句を四方へ広めるよう助け、輝きを現わし、正しい人々の心に朝の光をもたらすことができますよう援助し給え。<sup>50</sup>

彼らがあなたの御言葉を高め、あなたの大業を促進<sup>きわだ</sup>することができますよう、彼らがあなたの人々の中で際立つことを可能となし給え。おおわが神よ、彼らが、あなたの御意志とお喜び<sup>かな</sup>に適うことをなすよう助け給え。<sup>51</sup>

## セクション 20

これまでの数セクションに渡って話し合ってきたこと——現実を理解するうえで不可欠な、精神的認知力の性質についての検討、崇高な目標達成にとって極めて重要な表現力についての探究、選択をなす時に必要な言語構造と道徳構造の関係の分析、道徳観なエンパワーメントのプロセスについての熟考——を念頭に、ジュニアユースが学ぶ二冊のテキストをある程度、詳しく見てみましょう。私たちはこのセクションと次のセクションで、『確証のそよ風』を、セクション22と23で、『信仰の精神』を調べます。これらは共に、精神性を高めるプログラムの最初の年に、グループが学ぶテキストの一冊です。

バハイの考えに基づくテキスト『確証のそよ風』は、13歳になったばかりの少女であるム Сонダと、学校の休暇中にム Сонダの家族を訪問している年上の従姉妹のローズの物語です。二人の少女は、ム Сонダの兄のグッドウィンとその友達のチシンバと一緒に自分たちの将来について考え、希望と可能性について語り合います。このテキストに関しては、グループで探究すべきアイデアがたくさんありますが、まず全体を通読し、それからもう一度、もっと注意深く読み、練習問題をしてください。それが終わったら、この後に続く考察に進みます。

言うまでもなく、このテキスト全編のテーマは「確証」です。下記の文節は、この物語の主人公たちの話し合いや、神の確証の力の作用を実証する出来事を通して、このテーマが言及されている部分です。すべての文節は、レッスンからそれぞれ抜粋されたもので、テキストに出てくる順に提示されています。各文節後の空欄に、それぞれの文節で確証の概念がどう扱われているか、また、ジュニアユースの確証についての理解がレッスンを進むにつれてどのように深められると思うかを書いてください。

「人のためにする奉仕について考えてるんだけど、他の人の助けになるような仕事がしたいな。看護師になりたいって思うけど、頑張って勉強をしないといけない。それにお金もたくさんかかるし、家には十分なお金がないと思うんだ」と、ム Сонダは説明しました。

「そうだね、ム Сонダ、でも頑張ってみたら」とローズは言いました。「数週間前に授業で『確証』という言葉を知ったんだ。先生は、それは神様が私たちの努力を認めて、援助してくれることだって教えてくれたよ。私はこの言葉がとても好き。もし自分が看護師になりたいと心に決めたなら、きっと神様から確証をもらうことができると思うな」

---

---

---

---

---

その日の夜遅く、ム Сонダは布(ふ)団(とん)の中でローズにささやきました。「ねえローズ、『確証』って言ったよね。それって、もし私が学校の勉強を一生懸命頑張ったら、看護の勉強ができるように、神様がお金をくれるっていうこと？」

ローズはム Сонダの方に寝返りをうち、彼女の顔を見ます。「うーん、ちょっと違うかな。私もよく分からないんだけどね。私たちはいろんな事に挑戦して、どの道が開くか見てみないといけないよね。確かなのは、神様は私たちひとりひとりに、才能を与えてくれること。自分の才能を見つけ出して、それをどのように生かしていくかを学んでいかなければならないんだよ」とローズは答えました。

---

---

---

---

---

グッドウィンには、チシンバというとても仲の良い友達のクラスメイトがいます。チシンバはよくム レンガ家を訪れます。今夜は夕食に呼ばれました。食事中、会話は次々と変わっていきます。ム Сонダは、確証を話題に出したくてうずうずしていました。ようやく、しばらくの間、会話が途切れました。「ローズと確証について話してたんだ」と、ム Сонダが話し始めました。

「ほら、また始まった」と、グッドウィンは咳払い<sup>せきばら</sup>をして言いました。でも、彼が驚いたことに、チシンバは興味深そうに耳を傾けています。

「その言葉はどういう意味？」と、チシンバはムソンダにたずねました。

ムソンダも驚き、ローズの方を見ました。ローズが助け舟<sup>たす ふね</sup>を出してくれることを願っているのです。

「確証……。それはね、神様が私たちの努力を認めて、助けてくれることを意味するんだよ」と、ローズは言いました。

チシンバはしばらくの間黙っていました。悲しそうな目をしています。「数ヶ月前にね……」と、チシンバはゆっくりと話し始めました。「お父さんが失業したんだ。お父さんは正直で信頼できる人だし、みんなもそう思ってる。18 年間会社の警備員として働いてきたんだけど、突然、お父さんは首にされたんだ。その理由は誰もが知っている。もし、お父さんが仕事を続けていれば、2 年後には退職して、会社はお父さんに年金を払わないといけなくなるからなんだ。家には貯金がありませんし、一番上の兄さんは働いているけど、僕は下宿費が払えなくなるから、来年は学校に通えそうにないんだ。僕は本当に学校が大好きなんだ。どうして神様は僕のことを助けてくれないんだろう」

誰もがムレンガさんの方を見えています。チシンバの質問に対する彼の返事を待っているのです。

ムレンガさんは、微笑みながらこう言いました。「私たちが努力する時、神様が確証をくれるからといって、人生が楽になるとは限らないんだよ。人生の中でたくさんの困難に向き合う。そして、残念なことにその困難のほとんどは不正が原因なんだ。でも、頑張っ

て困難に打ち勝っていかなければならない。たとえ望みどおりに事が進まなくても、神様の確証を信じていなければならない。神様は、不正を取り除こうとする君の努力を認め、君を助けてくれるはずだ」。ムレンガ氏はチシンバの方に向かってこう言います。「チシンバ君の家族はみんなとても仲が良く、働き者だね。私は、状況が変わって、君が学業を終えられるようになると思うんだ。きっと、そうなるよ」

次の週の月曜日、ム Сонダ とローズは、フィリさんと一緒に診療所に向かいました。母親向けの授業が始まる時間になると、ム Сонダ とローズは子どもたちを外に連れ出し、木陰<sup>こかげ</sup>に座りました。子どもたちと一緒に歌を歌ったり、ゲームをして遊びました。そして、ローズは子どもたちに話を読み聞かせました。ちょうど話が終る頃、母親たちが子どもを迎えに来ました。誰もが満足しています。フィリさんと他のスタッフも喜んで、次の週も来てくれなかと頼みました。

家への帰り道、ム Сонダ は何か深く考えていました。ついにム Сонダ は沈黙を破り、ローズにたずねました。「今日の出来事は『確証』に関係していることなのかな？ローズは先生になりたいし、私は看護師になりたいと思っているでしょう。今日、私たちは診療所で子どもたちの世話をしたり、教えたりしたよね」

ローズがやって来て何週間か経<sup>た</sup>ちましたが、二人はいろんな事を話し合ってきたので、ム Сонダ の頭の中はいろんな考えでいっぱいでした。そこである朝、ム Сонダ はお気に入りの場所に行こうと決めました。岩の上に横になり、診療所に行った日のことを思い出しました。「何か役に立つことができよかった」と思いました。ム Сонダ はお父さんがよく言う「木は実を結<sup>むす</sup>ばなくてはいけない」という言葉を思い出しました。そして、「どうしたら、私の人生を実<sup>みの</sup>りあるものにすることができるのかな」と考えました。ム Сонダ はすぐに『確証』という言葉の思い浮かべました。

ちょうどその時、強い突風が吹きました。木の葉がいくつか空中にあおられました。木の葉の間にム Сонダ は一羽の小さな黄色い鳥を見つけました。風がおさまった後、木の葉はすべて水の上に落ちました。しかし、鳥は飛び続けました。鳥を見ていると、ム

ソンドの頭にある考えが浮かびました。風は小さな鳥を一押しした、だから今、鳥はどんどん空高く飛んでいっている。もしかしたら、これが確証の意味なのかな。鳥は飛ぶために努力して、それを風が助けたんだ。

「グッドウィン、自分の将来のこと考える？」と、ムソンドはたずねました。「何になりたいの？」

「うーん、どうかな」。グッドウィンは自転車の修理を続けています。「お金は稼ぎたいな。両親を助けて、いつか自分の家庭を持ちたいなあ」と、グッドウィンは答えました。

「でも、自分の才能が何かとか、それをどうやって使えるか考えたことはある？」と、ムソンドは聞きました。「ローズとこういう事をよく話すんだ」

「はいはい、知ってるよ」と、スパナを取りながらグッドウィンは言いました。「いっつも『確証』について話してるんだろ。『努力すれば神様が助けてくれる』って」

「でもグッドウィン、本当のことなんだよ」。それから、ムソンドは黄色い鳥と風の話をしました。そして、ローズと一緒に診療所で子どもたちの世話をしたことも話しました。

ちょうどその時、チシンバがやって来ました。「やあ！ 自転車はどう？ どこが悪かったかわかった？」と、たずねました。

「ギアが壊れてたよ。まだ修理中だけどね」と、ボルトをしめながらグッドウィンは答えました。

「君なら直せるってわかってたよ！」とチシンバは言って、ムソンドの方を見ました。「君の兄さんは修理がうまいの知ってた？」

ローズが家の中から出てきて、会話の一部を耳にして言いました、「グッドウィン、それって才能の一つだよ！修理が上手なこと。いい整備工になれるよ！」

「そんな、自転車の修理がちょっとできるからって、整備工だとは言えないよ。訓練もしなきゃいけないし」と、グッドウィンが言いました。

他の三人はにっこりして言いました。「じゃあ、努力しなきゃね！」笑い声がはじけました。グッドウィンも笑っています。

「グッドウィン、あの市場のそばにある修理屋のチェスさんに話してみたら？いろいろ教えてくれるかもしれないよ」と、チシンバはわくわくしながら言いました。

「うん、まずそこから始めてみたら」と、ローズが言います。

「えっ？」グッドウィンは言いました。「そんなこと、突然頼めないよ。そもそも僕、チェスさんに会ったこともないのに」

「僕、チェスさんを知ってるから、紹介してあげるよ。明日一緒に行こう」と、チシンバが言いました。

後でローズとムソンダが二人きりになった時、ローズが言いました、「明日、グッドウィンは確証の意味をきっと理解するんだろうね」。二人は笑いだしました。でも、グッドウィンとチシンバには黙っておくことにしました。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

チエスさんは背が低い年配の人で、店の外に座っていました。鼻歌を歌いながら、小さなエンジンの部品をきれいにしています。チエスさんはチシンバを見つけると、顔を輝かせ、握手を交わしました。

チシンバはグッドウィンチエスさんに紹介し、グッドウィンは修理が上手だと説明しました。グッドウィンは緊張していましたが、勇気をふりしぼって話してみることにしました。咳払いをして、「チエスさん、僕は整備に興味があり、整備工になりたいと思っています。だからチエスさんのお店でお手伝いしながら、いろんな事を学ばせてもらえないかなと考えてたんです」と言いました。

「なるほど。手伝ってもらってもいいぞ」と、チエスさんは答えました。「だが、給料を払うお金がないんだが」

「そのような事は心配しないで下さい。僕はただいろんな事を学びたいだけですから」と、グッドウィンは言いました。「いつから、お手伝いを始められますか？」

「では、今さっそく始めてはどうだい？」と、チエスさんが答えました。「今日の午前中、店にすることはできるかね？これらの部品に油を注して、エンジンを元に組み立て直さなきゃならないんだ」

「今ですか？今から始めてもいいんですか？」と、グッドウィンは驚いてきました。

「もちろんだとも」と、チエスさんは笑い、「さあ、腕まくりをして仕事に取り掛かろう！」と言いました。

グッドウィンは熱心に新しい仕事に取り掛かりました。数分後、チシンバはそろそろ家へ帰ろうと立ち上がり、チエスさんに挨拶をしました。そしてグッドウィンの耳元で、「確証」とささやきました。

家への帰り道、チシンバは診療所の前を通りかかり、ローズとムソンドが子どもたちの世話をしているのを見つけました。二人はグッドウィンのことが知りたくて、「どうだった？」とたずねました。

「うまくいったよ。グッドウィンは頑張ったからね。今は、チエスさんの店にいるよ。チエスさんはグッドウィンを試してみたいんだと思うよ」と、チシンバは答えました。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

ある朝、チシンバはお母さんに頼まれて市場へ魚を買いに出かけました。チシンバはここ数日、どうしたら学校のためのお金を稼げるか考えていました。畑で作物を育てようかと思いましたが、植える時期は終わってしまっています。道ばたで炭<sup>すみ</sup>を売ろうとも思いましたが、既にたくさんの人がこれをやっています。「まだ誰もやっていないことをしてみたらいいよ」と、ローズが言っていたことを彼は思いおこしました。

魚を買いに、ムソレおばさんのお店へ行ってみると、おばさんはお店にいませんでした。「おばさんは魚を仕入<sup>しい</sup>れるために町へ行ったよ」と、隣のお店の女の人が言いました。「週2回、町へ行くんだよ」。チシンバは、チェスさんも時々、町へ車の部品を買いに行くことを思い出しました。

「僕が代わりに町へ行ったらどうだろう」。チシンバはひらめきました。「そして必要なものを買って帰るんだ。そうすればみんなはお店にいて働けるし、お金を損しなくて済むんじゃないかなあ」

その夜、チシンバは両親と話し合ったところ、両親もそれはいい考えだと賛成しました。そこで、次の日、チシンバは市場へ戻り、ムソレおばさんとチェスさんに話しました。「僕が二人の代わりに町へ行って必要なものを買ってくるので、いつもバス代に使うお金を僕にくれませんか？ そのお金の半分で町へ行って、残りの半分以上を学校のために貯金しようと思います」。二人はやってみる価値があると合意し、二日後にまた来る

ようチシンバに言いました。「このアイデアがうまく行けば、お前の仕事が見つかったことになるぞ！」と、チエスさんが言いました。

このうれしい知らせを両親に伝えるために家に帰る途中、チシンバは、グッドウィンとその家族に会いに行きました。自分の計画をみんなにも伝えたかったのです。チシンバの話を聞いた後、ムレンガ夫人もチシンバに良い知らせを伝えました。夫人によると、昨日ムレンガさんはカブエへ行く用事があった、いこと話をしたそうです。いとこの家は学校から1キロの所にあつて、家族のみんながチシンバを歓迎するとのことでした。

「食事と部屋代の引き換えに畑で手伝えば良いわよ」と、ムレンガ夫人は言いました。

「本当ですか！ありがとうございます、ムレンガおばさん」と、チシンバは言いました。

「チシンバ君、もうすぐお金を稼ぐことができそうだね。時には大変だと思うこともあるだろうけど、学校のためにちゃんと節約するんだよ。無駄づかいしないように気をつけるんだよ」。ムレンガさんが言いました。

「心配しないで、ムレンガさん」。チシンバは笑顔で言いました。「そんなことはしないと約束します」。彼は、さよならと手を振りながら、ローズとムソンダの方を見て言いました。「道が見えてきたよ！」

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

夏休みもそろそろ終わりに近づいています。学校が始まるので、ローズは家に帰らなくてははいけません。帰る支度<sup>したく</sup>をしながら、ローズはム Сонダと話しています。

「ローズが帰らなくてもよかったらなあ」と、ム Сонダが言いました。

「そうだね」と、ローズも言いました。「本当に素晴らしい夏休みだったな。信じられないくらい、いろんなことが起こったよね」

「そうだね」と、ム Сонダも言いました。「グッドウィンなんか、修理の仕事がとても好きだから、学校を卒業したら専門的な訓練を受けたいって言ってるよ。それにチシンバのアイディアも本当に上手くいったよね。たくさんの人から注文を受けるまでになって、ほぼ毎日町に出ていたよね」

「それに私たちも」と、ローズが言いました。「診療所での仕事はとてもいい経験になったし、私、先生になりたいって今まで以上に確信したよ。私の村の自治会は毎週それぞれ違う年齢の子どもを対象にしたクラスを計画していて、ほとんどの子どもたちが通っているんだけど、今年は私もそこで教えたいって言うと思うんだ」

「私はこれからも診療所で働くように頑張ってみる」と、ム Сонダは言いました。「月曜日は学校があるから無理だけど、他の日の午後なら手伝えるかもしれない。ローズ、『確証』について初めて話した時、それがどれだけ大切なことか想像もつかなかった。それに確証を理解することで私たちの将来が変わっていくなんて、考えてもみなかった」

「本当にそうだね」。ローズも同じように感じています。「努力して、確証が来ると信じて待つことを学んで、私たちすごく変わったよね」

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

家に帰る途中、ム Сонダは川へ行ってもいいか聞きました。ム Сонダはあの特別な場所へ走って行きました。そこで岩の上にあお向けになり、空を見上げました。いろんな思いが頭の中をめぐっています。ム Сонダは夏休みの間に起こったことを考えながら、来年はどんなことが起きるのかなと思いました。今日は、風が強くて、ム Сонダは黄色い鳥のことを思い出しました。「何をやってみても、きっと神様が助けてくれる」と、ム Сонダはつぶやきました。ム Сонダが立ち上がると、風が背中を押して力をくれました。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 21

一般に、テキスト ——ここでは『確証のそよ風』—— の内容に精通し、それがその目的をどのように達成しようとしているかを十分に理解することで、ジュニアユース・グループのアニメ

ーターとしての責任を、自信をもって引き受けることができるようになります。更に、あなたは、グループがテキストを学習し、そこで取り上げられている主要な概念を理解するのを助ける方法についても検討する必要があります。この目的のため必要とされる技術と能力は、当然、経験を重ねるうちに徐々に育まれるでしょう。しかし、下記の、特に『確証のそよ風』に関連した練習問題は、この点に関して、多くの洞察を与えてくれます。

1. このテキストの読み物は文章構造と流れの面で、ある程度、平易なレベルにされていますが、必要に応じて、難しい言葉や言い回しも使われています。そのような難しい言葉の意味は、レッスンの中で別の文脈でその言葉を使う、または練習問題を通して把握できるようになっています。このように豊かな語彙を用いることで、物語が幼稚、あるいは表面的になるのを避けています。例えば、不正はしばしば日常的な話に使われる言葉ですが、複雑な概念です。その言葉が初めて使われるレッスン6の文脈とそれに対応する練習問題は、ジュニアユースがその概念をある程度、把握できるよう助けるものです。このアプローチは思春期初期の若者にとって効果的でしょうか？ それとも、各レッスンで「難しい」言葉の定義をすべきだと思いますか？

---

---

---

---

---

---

2. このテキストのレッスンは、喜びと思慮に富む雰囲気の中で、いきいきしたペースで学べるように書かれています。ジュニアユースは言語スキルを高め、言葉と概念の理解を強化するようデザインされた物語を、きびきびとした速度で、尚且つ必要な配慮を受けながら、読み、練習問題を終われるはずです。もしあなたが、各レッスンで意図されている目標以上のことを達成しようとして、すべてのポイントを長々と説明したらどうなるでしょう。

---

---

---

---

- 
- 
3. ジュニアユースの集中力の持続時間は、一般に思われているほど短くはありません。彼らは、日常の単純な事を楽しみつつも、挑戦的なアイデアを深く考えることもできます。もし、グループの環境が信頼と支援がある環境であれば、——競争や、前もって決められた結果に合わせることを求めるプレッシャーが生み出す緊張から解放されていれば ——、『確証のそよ風』のレッスンを学ぶことで、ジュニアユースのニーズと能力に合ったレベルでの話し合いと熟考が起こるでしょう。望ましい雰囲気をつくるために、どのようなことをしたいのでしょうか？

- 
- 
- 
- 
- 
- 
4. このテキストの学習は「宿題」を想定していません。練習問題はグループの集まりで行い、アニメーターの助けを借りて話し合うことになっています。ジュニアユースに自宅で練習問題を解いてもらうのではなく、このようなアプローチをとる利点は何でしょうか？

- 
- 
- 
- 
- 
- 
5. このテキストのほとんどのレッスンには、ジュニアユースに、勉強したばかりの物語の一部分について、あるいは特定のアイデアとそれを彼ら自身の生活に適用することについて、いくつかの文章を書かせるアクティビティが含まれています。彼らがこのようなアクティビティを行い、自分自身を明確に表現することを学ぶのを、どのように支援しますか？

---

---

---

---

---

---

6. このテキストのレッスン2、5、9、10、13、14の終わりには、ジュニアユースが暗記するよう奨励される、聖典からの引用文があります。この最後のアクティビティが、そのレッスンが伝えている概念をいかに補強しているか考察するために、レッスンを一つ、二つ参照すると役に立つでしょう。

---

---

---

---

---

---

7. 主要テーマに加えて、このテキストでは多くの道徳的概念に触れ、称賛に値する資質や態度を強化しようとしています。例えば、ローズはバスの中で子どもに食べ物を分けています。グッドウィンとチシンバは女性が薪<sup>まき</sup>を運ぶのを手伝います。ローズとムソンダは、母親たちが診療所で栄養についての授業を受けている間、子どもたちの先生をします。サッカーの試合は、「勝利」が支配的な目的ではない、友好的なイベントです。このような点にどれほどの注意を払うべきでしょうか？ 上記で取り上げた例を一つずつ取り上げて、詳細を考えるべきですか？ それとも、話し合いの中で、それらが自然に持ち上がるようにするだけで十分でしょうか？

---

---

---

- 
- 
- 
8. この物語はアフリカのある村で展開します。ジュニアユースの精神性を高めるプログラムの一部を成すテキストは、さまざまな大陸の多くの文化的・社会的状況の現実を描いています。そうすることによって、プログラムを豊かなものにしています。例えば、物語の登場人物の名前を変えたりして、「各国のユースの現実テキストに適合させる」必要があると提案する人がいるかもしれません。しかし、人々は何百年もの間、自国のものではない文化から生まれた書物を読み、楽しみ、そこから学んできました。もちろん、意識的にそれをしていきます。このプログラムのこの側面をジュニアユースに意識させるためにどうしますか？ 子どもたちやユースは自分たちの文化の文脈に沿って書かれた教材からのみ学ぶべきだという信念を持つ人たちもいますが、あなたはそれに対してどのように考えますか？
- 
- 
- 
- 
- 
- 

## セクション 22

先に述べたように、『信仰の精神』は、バハイ子どもクラスを継続するための内容を提供する何冊かのテキストの内の一冊であり、テキストの中で、「信教の中心人物」への明らかな言及がなされています。先に確認したように、人の一生において青年期は、哲学的な性質の問題、とりわけ人間存在の目的や本質といった問題を探究することに強い関心を示す時期です。『信仰の精神』は、「人間とは何なのか？」という問いから始まります。そして、この問いに答えるために、レッスンを通して一連の関連するアイデアを考察します。それらは、人間の気高さ、人間の高位な性質と低位な性質、悪は存在しないということ、自由意志・意欲・運命の性質、知性の力、科学的調査、物質的な進化、人間の精神、そして最後に、信仰の精神です。

『確証のそよ風』で行ったのと同じように、テキスト全体を通して読み、もう一度、注意深く読んでください。その時、特に「考えてみよう」のところに注意して読んでください。読み終わったら、次の質問に答えることで、このテキストがその目的をどのように達成しようとしているのかを分析しましょう。

1. レッスン1で引用されているバハオラの聖典からのいくつかの文節には、ジュニアユースが自分の真のアイデンティティについて考えるのを助けるためのイメージが含まれています。この関連で、それぞれのイメージはどのような洞察を提示していますか？ このレッスンにある「考えてみよう」の問いは、このテーマについてのジュニアユースの理解をどのように強めていますか？

---

---

---

---

2. レッスン2の最初の部分から、ジュニアユースは、神の創造と人間の気高さについての理解をどのように得ていますか？

---

---

---

3. レッスン2の最初の「考えてみよう」は、ジュニアユースが気高さという概念を自分の人生に当てはめて考えるのを、どのように助けていますか？

---

---

---

4. レッスン2の次の部分で、ジュニアユースは人が自分自身を卑しくさせるものを理解します。それは何ですか？

---

---

---

5. 人間の高次の性質と低次の性質についてのこの短い学習で、あなたはジュニアユースが

どのような理解を得ることを願っていますか？

---

---

---

6. レッスン2の二番目の「考えてみよう」を通して、ジュニアユースは自分の高次の性質を発達させることについて何を学びますか？

---

---

---

7. 人間の低次の性質が<sup>あく</sup>悪ではないと認識することは、ジュニアユースが間違いをする<sup>たび</sup>度に罪悪感<sup>いだ</sup>を抱くのを避けるうえでどう役立ちますか？ このテーマの理解を深めるためにどのような例が使われていますか？

---

---

---

8. レッスン2の後半部分、特に最後の二つの「考えてみよう」は、低次の性質による<sup>さしず</sup>指図をコントロールする方法について、どのような洞察を与えてくれるでしょうか？

---

---

---

9. 意欲という概念は、レッスン3はどう扱われていますか？ レッスンの冒頭で説明された状況が、若者の生活に関連していると思いますか？

---

---

---

10. 高次の性質の発達における自由意志の役割に関して、ジュニアユースはレッスン3でどのようなことを学びますか？

---

---

---

11. ジュニアユースは、自分の人生のどの領域で自由意志を行使できると理解するに至るでしょうか？ 彼らにとって、自由意志の限界を知ることはなぜ重要ですか？

---

---

---

12. レッスン3の二番目の「考えてみよう」から、ジュニアユースは自由意志の働きについてさらにどのような洞察を得ますか？

---

---

---

13. ジュニアユースにとって、他者を支配することと他者に建設的な影響を与えることの違いを知ることはなぜ大切ですか？ 三番目の「考えてみよう」で導かれる話し合いは、周囲の環境に建設的な影響を与えようとするジュニアユースの努力にどう役立つでしょうか？

---

---

---

14. 運命という概念について、レッスン3ではジュニアユースに何を教えていますか？

---

---

---

15. このレッスンでは、運命の本質にまつわるどのような誤解を取り除こうとしていますか？

---

---

---

16. ヨットのたとえ話は、自分の人生において、自らが努力することの価値と、神の援助の力について正しい見方ができるようジュニアユースを助けるのにどれほど効果的ですか？

---

---

---

17. レッスン4の最初の部分では、ジュニアユースが自然の制限に気付くのをどのように助けていますか？

---

---

---

18. レッスン4では、人間がそれらの制限を超える方法についてどう述べていますか？

---

---

---

19. レッスン4では、科学は全人類のものであるという主張が展開されます。その主張はどのようなものですか？

---

---

---

20. レッスン4で引用されている科学に関する文節で、「神は人間の中にこの実在への愛を創造された、または預託<sup>よたく</sup>なさいました」という文があります。ジュニアユースの中に、この実在への愛を養うことはどれほど重要ですか？

---

---

---

21. 観察力について、ジュニアユースに向けてどう説明されていますか？

---

---

---

22. レッスン4で示されている例は、科学の発展における観察と実験の役割をジュニアユースが理解するのをどう助けていますか？

---

---

---

23. レッスン4は、ジュニアユースが人生のあらゆる面で観察力を使うことができるということを示唆していますか？ 三番目の「考えてみよう」で聞かれる問いはこの力を使うよう促すものですが、この問いすべてが、人間の高次の性質に焦点を当てているのはなぜでしょうか？

---

---

---

---

24. 四番目の「考えてみよう」の例は、人生のすべての面で実験をすることはできないことを示しています。それらの例は、ジュニアユースがこの原則の意義を理解するうえでどのように役立ちますか？

---

---

---

25. レッスン5と6で示される様々な例は、種の進化に関する非常に複雑な理論について、ジュニアユースが洞察を得るのをどのように助けていますか？

---

---

---

26. この進化の過程で人間の精神はどのように出現したと述べられていますか？

---

---

---

27. レッスン6で、アニメーターのナタリア・ペトロバはアブドル・バハの聖典から二つの引用文をジュニアユースに読んで聞かせてから、彼らがそれらを学び、理解するのを助けています。しかし、ナタリアがどのようにそれを行ったかは示されていません。あなたがアニメーターだったら、どのように引用文を説明しますか？

---

---

---

28. レッスン7の最初の部分で述べられている、人間の精神の際立った特徴とはどのようなものですか？

---

---

---

29. レッスン7の最初の「考えてみよう」では、意識について、どう説明していますか？「考えてみよう」の二つの練習問題はジュニアユースの人生にどう関連しますか？

---

---

---

30. 人間の心意しん い(human mind)はどのように高次の性質の手段になり得ますか？ 二番目の「考えてみよう」で行われているような対比の提示は、人間の知性を導くことの重要性を強調する有効な方法でしょうか？

---

---

---

31. 信仰の精神とは何ですか？

---

---

---

32. レッスン7にある最後の二つの「考えてみよう」は、ジュニアユースが自分たちの人生における信仰の精神の作用を理解するのをどのように助けていますか？

---

---

---

## セクション 23

『信仰の精神』というテキストの中核にあるのは、科学と宗教の調和という原理です。この原理が人間の生活にもたらす影響は深遠で、私たち各自がその働きについての洞察を得るべく努力しなければなりません。もちろん、科学と宗教を直接に対立させるものではないにせよ、両者が調和した関係にあるための条件を満たしていないことが明らかな見解もあります。例えば、今日、宗教によって言及されている謎は、科学が進歩すればいずれ説明されるだろうという主張や、逆に、すべての科学的真理は全知の神からもたらされたものなのだから、最終的には宗教の聖典を読むことで発見できるという信念です。それぞれの見解の根底にある誤解に立ち入るまでもなく、どちらの見解においても、一方の知識源<sup>げん</sup>が他方の知識源<sup>げん</sup>に従属させられており、真の調和とは到底言えないことは容易に理解できるでしょう。しかし、そのような見方を否定するにしても、科学と宗教が互いに補完し合うことをどのように想定しているのか、自問する必要があります。このような観点から、考察のために用意された以下の声明を読み、その後  
に続く練習問題を解いてください。

一つの可能性は、科学と宗教に謳<sup>うた</sup>われている真理は、経験の二つの別個の、相互に排他的な領域をカバーしていると主張することです。科学は物質的な領域を研究し、自然の営<sup>いとな</sup>みだけでなく、人間の共同体、制度、相互作用に関連する特定の現象も研究します。科学が生み出す知識は技術的進歩の基礎となり、技術は人類のために使われることもあれば、損なうために使われることもあります。社会科学がどれほど進歩しても、科学そのものには、その成果をどのような用途に使うべきかを決定する能力は限られています。対照的に、宗教は人間存在の精神的側面に関わるものです。その目的は、個人の内面生活に光を当て、動機の根源に触れ、人間の行動を導く道德規範を生み出すことです。文明化のプロセスは、両方の知識体系に依存しています。それぞれが自らの特質の範囲内にとどまっている限り、両者が対立する理由はないのです。

このような科学と宗教の調和の観点<sup>だとう</sup>は妥当ですが、それが妥当であるのは主に応用のレベルでです。結局のところ、このアプローチでは、科学と宗教は分離され、

それぞれの道を追求することが許され、重要視されるのは技術と道德の相互作用です。しかし、このような科学と宗教の関係の分析はすぐに限界に達します。なぜなら、実のところ、両者が理解し説明しようとする現象は数多く存在するからです。自然との関係ではあまり目立ちませんが、人間や社会の研究において、これは明らかです。さらに、科学と宗教の間には、実在へのアプローチの仕方において多くの共通点があります。例えば、両者とも創造には秩序があると信じ、少なくともある程度は、人間の知性がこの秩序を理解できると信じています。科学の手法は、万物の仕組みを発見する上で非常に効果的であることが証明されています。しかし、宗教もまた、常に進歩する文明に貢献するよう人類を導こうとする以上、こうした手法を用いなければなりません。科学と宗教は同じではありませんが、互いに語り合い、調和し、影響し合い、補完し合う上で十分な共通点があるのです。したがって、科学と宗教を、それぞれが扱う問題や採用する方法において重なり合う、知識と実践の補完的な二つの体系とみなすことが合理的でしょう。

1. 上記の声明で描写されている科学と宗教の関係は、両者が探究する知識の領域を描いています。その中には、人間の心意の力、人類の種としての進化、知的・道德的發展に関する論点があります。このような問題を扱うにあたって、『信仰の精神』が科学の正当性を尊重すると同時に、宗教の光によって理解が照らされることをどのように可能にしているかについて話し合ってください。

---

---

---

---

---

---

2. 科学と宗教の調和という原則は、適切な場合には、教育的資料が精神的<sup>せんぱく</sup>概念と科学的概念を、——もちろん浅薄さを避け、当てずっぽうではない方法で——統合することができるということを意味しています。このような知識の統合は理解を深め、誤った二項対立を取り除きます。『信仰の精神』がどのようにこのレベルの統合を実現しているかを検証してください。特にレッスン5と6の「考えてみよう」が参考になるでしょう。

---

---

- 
- 
- 
- 
3. もう一度、『信仰の精神』を検討し、真理の探求者、現実の調査者となるべき人に必要だと思われるある種の態度を、どの程度、身につけさせることができるかを判断するのも助けになるでしょう。このような態度にはどのようなものがあるのでしょうか？ また、このテキストはそれらをどの程度効果的に探求しているのでしょうか？
- 
- 
- 
- 
- 
- 

## セクション 24

私たちは、セクション3で取りかかった、ジュニアユースの精神性を高めるプログラムで学習するテキストに関する話し合いをここで終わります。『確証のそよ風』と『信仰の精神』で行った詳しい分析は、あなたが、プログラムに用いられるテキストそれぞれにどの程度精通している必要があるかを示しています。ブック5から出た枝コースで、他のテキストについて同じような話し合いをもつ機会があり、この点であなたの助けとなるでしょう。しかし、そのような学習とは別に、あなた方はテキストを読み、テキストがどのように目的を達成させようとしているか検討するために必要な時間を割くべきです。アニメーターとして奉仕している他の人たちとの定期的な集まりは、テキストについての理解を深めるのに絶好の機会を提供するでしょう。このような機会に、あなたと、その仲間であるアニメーターは、共有される経験の豊かさを発見するでしょう。なぜなら、最終的には、相互支援と援助の雰囲気を作り出すことの中にのみ、学びへのコミットメントが他の人々の努力にアカンパニーする意思として表現され、テキストがもつ可能性が十分に探求され、それが最終的には実現されるからです。

## セクション 25

この章の初めに述べたように、テキストの学びに加えて、ジュニアユースは、奉仕の活動、スポーツ、特に彼らの地元の文化に特有の様々なアートや工芸に取り組みます。第二章で、みなさんは社会環境が若者に及ぼす影響について、ある程度考える機会を持ち、特にその有害な影響について注意するよう求められました。しかし、今日の社会状況の悪化を強調するあまり、どのような環境においても、適切に利用されれば、表現力、社会的なプロセスを分析する能力、人類に奉仕する意志を高めることができる多くの要素があるという事実を覆い隠してしまうべきではありません。例えば、以下の新聞記事は、メディアが社会の福祉を促進するためにどのように利用できるかをよく物語るものです。

### 声なき人たちの声

西アフリカでは今でもトランジスタラジオが地域社会の声となっています。

ギニアの森林地域のヌゼレコール地方ラジオ局の小さなスタジオの中にあるマイクの周りに寄り集まって、三人の若者が女の子の教育について話し合っています。

「女の子たちは学校に行くべきだよ。なぜなら、彼女たちはやがて母親になる。もし彼女たちが教育を受けていたら、自分の子どもを教育できて、もっとうまく世話できるようになる」と、モリコ・ケイクが言いました。「女の子を教育すると、国全体を教育することになる」と彼は断固として付け加えました。このプログラムのホスト役をしている16歳のランセイ・トウレはこの話に賛成してうなずきます。でも、両親からは、学校をやめて畑で働いてもらいたいと思われているのです。

若者たちのはっきりした歯切れの良い主張は、リベリアとコートジボワールの国境沿いの近隣のいくつかの村にも生放送されました。それは夕暮れ時で、土壁の小屋の中で石油ランプがちらちらしています。村人達は畑仕事や商<sup>あきな</sup>いからもどり、夕食や夜の仕度をしながら、皆がラジオに耳を傾けています。…

成人人口の大部分が読み書きができず、多くの子どもたちが学校に通えず、電気もほとんど通っていないギニアのような国では、発電機で動く、田舎やコミュニティのラジオ局が生命線です。

「ここでは、ラジオがすべてです」とグノマ・キャマラが言いました。彼はヌゼレコール地方ラジオ局の番組ディレクターで、ラジオ局はその地域で使われる5つの言語のうちの一つとフランス語で、半径100キロメートル圏内を対象に週6日放送しています。その地域の3分の2の家族は、トランジスタラジオを持っていて、ラジオ局が早朝と夜に放送する時、村中が聴きます。

「私たちは彼らの言語をしゃべり、その伝統や習慣を知っています。彼らのメッセージを伝え、<sup>けいちょう</sup>慶弔のニュースを知らせ、農耕に関することやコミュニティの問題について話し合います」と、キャマラは付け加えました。「私たちは地域社会の声です。声なき人たちの声なんです」…

「子どもたちが出ているし、彼らは僕が使っている言語で話すから、この番組を聴くんだ」と、プラー在住の15歳のママドー・マリックが地元の言語で言いました…。「番組が始まると、僕は兄弟や姉妹を呼んで一緒に聴くんだよ。そうやって、たくさんの事を学んでいる」

親や地域のリーダーたちも番組を聴いているとキャマラは言います。「私たちの文化では、子どもたちの言うことはあまり聞いてもらえないのですが、今では大人たちは彼らに耳を傾け始めました。例えば、子どもたちは親に基本的な衛生について助言しています。…もし父親が子どもを叩いたら、隣人たちは『ラジオを聴いてないのかい?』と言います」。

この話は、今日の社会環境の様々な要素が若い人たちの才能や能力を彼らが属する共同体への奉仕に向けることに使われた、無数の方法のほんの一例です。音楽やメディアやテクノロジー(技術)は、世界中の若者の生活にますます多くの影響を与えています。アニメーターとして、あなたはこうした強力な要素を意識し続け、ジュニアユースが適切な活動を創り出すために、それらを活用できるように学ぶ必要があります。あなた自身の社会環境について考えてみてください。ジュニアユースにとって、次のような活動にはどのような可能性があるでしょうか？考えをグループで話し合い、空欄に書き留めてください。

音楽: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

---

---

メディア: \_\_\_\_\_

---

---

---

---

テクノロジー(技術): \_\_\_\_\_

---

---

---

---

---

---

## セクション 26

ジュニアユースが自らの発展に責任を持ち、自分たちの共同体の進歩に貢献する力を得るには、グループとして有意義な活動を実施するだけでなく、その策定にも参加する必要があります。このような活動には、奉仕プロジェクトやアートや工芸のほか、例えば、テキストを学び終えたことを祝う特別な集まりが含まれ、そこでジュニアユースは劇の発表をしたり、歌を歌ったり、詩を朗読したり、話をしたりすることができます。ジュニアユースの知的・精神的な能力を鍛え、奉仕活動を通じて理想を実践的に表現するのを助け、優秀さを目指そうとする努力を強化するような活動を企画・実施する際に、どのようにすれば若い友人たちの意欲を高めることができるのか、他のアニメーターと話し合うことに、あなたは常に関心を抱いていることでしょう。仲間のアニメーターと一緒に考える必要のある質問には、次のようなものがあります。ジュニアユースが奉仕プロジェクトを考案し、実行し、それがどのように展開されたかを振り返るのをどのよ

うに手助けするか？ ジュニアユースが簡単な劇の台本を書き、上演するのをどのように助けるか？ 子どもだましのゲームが、アートや工芸の代用品として紹介されることのないよう、また、「存在の世界を高揚させ、その高みへと導く」「芸術、工芸、科学」についての真の理解をジュニアユースが得られるよう援助するのをどのように確実にするか？

ここは芸術的活動について話し合うための場ではありませんが、文化の表現としてのそのような活動は価値があるということを認識することが重要です。ですから、当然、芸術的活動は教育プロセスに多大な影響を及ぼします。ジュニアユース・グループのアニメーターとしてあなたは、若い友人たちが適切な芸術的追求を見極められるように、彼らが携わっている教育プロセスと微妙な形で矛盾する価値観を不用意に押し付けることにならないよう、注意を払いたいと思うでしょう。

## セクション 27

経験上、10人から15人で構成されるジュニアユースのグループは、多くの場合、価値ある目的のために仲間を集める能力を発揮した数人から始まります。このようなジュニアユースが他の人たちに参加を勧めている間に、彼らはアニメーターと定期的に会うようになります。また、近隣や村で活動する友人たち、特に、インスティテュートの最初のいくつかのコースの学習を進めている10代半ばから後半のユースの拡大しつつある核からの援助によって、グループのメンバーとしての意識が強化されることもあります。世界のいくつかの地域では、グループを正式に設立する前に、村や近隣の若いメンバーを一連の行事に招待することも効果的なアプローチであることが証明されています。もう一つは、学校にプログラムを紹介する方法です。学校がこのアイデアに受容性を示したとき、該当する学年の生徒と教師に一回または複数回のプレゼンテーションを行い、通常、それによって、いくつかのジュニアユース・グループが結成されます。そして、学校の敷地内で集まりを持つかどうかにかかわらず、課外活動としてプログラムを実施することができます。いずれの場合も、学校は、生徒の道徳的・知的能力の健全な発展に対するこのプログラムの貴重な貢献を認めています。

あなた自身の状況を考え、大きな目標を抱いているアニメーターとして、ジュニアユース・グループが結成されるのを援助する際に採用できるアプローチをいくつか挙げてください。

---

---

---

---

---

## セクション 28

活気に満ちたジュニアユース・グループを維持するための重要な要件は、親御さんとの信頼関係と友好関係を築くことです。アニメーターは、グループ結成前か結成後、すぐに親御さんを訪問し、プログラムの目的を説明する必要があります。アニメーターは引き続き、定期的に各家庭を訪問し、ジュニアユースの願望と可能性、そしてジュニアユースの精神性を高めるプログラムを形作る概念とアプローチについて、家族のメンバーと話し合う必要があります。このような訪問は、息子や娘の健康状態や進歩について親御さんと相談する機会にもなります。ブック2で提案されているように、アニメーターはしばしば、プログラムで学習するテキストの一冊か二冊を親御さんに見せ、その息子や娘が何を学んでいるかを知ってもらうようにします。どのアニメーターも、このような親御さんとの友情の絆を、何ヶ月もかけて築いていく必要がありますが、最初の何回かの訪問には、より経験豊かな人物が同行するでしょう。

ブック2の第三章のセクション14を読んで、精神性を高めるプログラムに参加しているジュニアユースの親御さんとの継続的な対話の基礎となる概念を思い出してください。それから、このコースの他の参加者とともに、あなたの村や近隣でジュニアユースの家庭を訪問して得た経験について話し合ってください。本書の学習から、このような訪問の際の会話を豊かにするために、どのような追加的なアイデアが考えられるでしょうか？

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## セクション 29

アニメーターがジュニアユース・グループの中で最初に始める会話は、特に重要です。最初の 3、4 回の集まりで、メンバーがグループの目的について十分に話し合い、集団で達成したい目標をいくつか明確にすることが不可欠です。また、実施したい活動の性質についても、ある程度の結論を出すべきでしょう。これらの集まりで取り上げられるテーマは、グループによってさまざまです。しかし、「優秀さ」や「奉仕」など、このような集まりでは必ず強調されるべき概念があります。以下に挙げる項目は、あなたがその結成を支援するグループのメンバーと最初に交わす数回の会話を整理する際の助けとなるでしょう。このコースの参加者と一緒に、それぞれの点についてよく検討し、あなたが近々参加することになるジュニアユースのグループとの話し合いにどのように臨むかについて、最初に考えたことを書き留めておくといよいでしょう。

- 多くのアニメーターは、グループを、精神的・知的優秀さを目指すことのできる空間として捉えるよう、ジュニアユースを励ますことが有効だと考えています。精神的優秀さを目指すには、愛、寛大さ、正直、謙虚さなど、高次の性質に属する資質を身につける必要があります、とアニメーターは説明します。知的優秀さを追求するためには、自分や他の人の生活を向上させるのに役立つ知識や実践的なスキルを身につける必要があります。「毎朝が前夜より優れ、毎日を前日よりも豊かとなるようにせよ」といった引用文を熟考し、暗記することは、優秀さの概念に対する理解を深める上で効果的であることが多いです。

---

---

- 
- 
- 
- 
- 
- ・ グループの目的をある程度明確にした後、メンバーはアニメーターによって、優秀さを追求するためにどのような活動(知的活動、身体を動かす活動、文化的活動)に取り組みたいかを具体的に決めるよう援助されます。
- 
- 
- 
- 
- 

- ・ 知的・精神的な優秀さに関連して、思考パターンと密接な関係にある言語の問題をある程度話し合う必要があるでしょう。ジュニアユースとこのテーマについて話をする場合、通常は、より高いレベルの優秀さを達成するためには、表現力を発達させなければならない、と説明すれば十分です。読むことができるようになり、読んだものの意味を理解できるようになるべきです。自分の考えを明確に表現できるよう学ばなければなりません。このような文脈で、往々にして、アニメーターはジュニアユースがこれから学習するテキスト——本章の初めに、みなさんは何冊かのテキストの全体、あるいは一部を検討しましたが——を紹介するのが効果的であることを発見します。
- 
- 
- 
- 
-

- 
- 
- 
- ・ ジュニアユースの精神性を高めるプログラムでは、聖典の一節を暗記することが重要視されなければなりません。暗記の問題は、グループの初めに行われる集まりの一つで話題にされる必要があります。アニメーターは、若い友人たちが、神の御言葉が持つ独特な力と、彼らが優秀さを目指して努力する中でその人生に及ぼす神の御言葉の効果について気づくのを援助するべきです。そのような話し合いを通じて、彼らは、聖典の多くの文節を暗記することの利点を認識するようになるでしょう。
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 

- ・ アニメーターが最初の数回の集まりで、グループが精神的な優秀さを目指して努力するためには、メンバーが強い友情の絆を育み、ますます大きな和合を達成する必要があることを強調することは有益です。アニメーターは、しばしば、聖典からの引用文に照らして、友情、和合、調和のテーマを探求し、引用文を暗記するようジュニアユースを援助することが有益であると気づきます。
- 
- 
- 
- 
- 
- 
- 
-

- 友情と和合をテーマにした話し合いは、グループのメンバーが互いにどのように接するかについて話し合うための自然なきっかけとなります。互いに注意深く耳を傾けること、たとえ誰かが考えを表現することに困難があっても、常に互いを理解しようと努めること、誰かが共有することを決して軽<sup>かろ</sup>んじないこと ——これらは、このような会話を通じてグループとして導き出せる結論の一例です。

---

---

---

---

---

---

---

---

- 奉仕は、グループの初めの集まりの一つで取り上げるべき、特に重要なテーマです。ジュニアユースに、人間として私たちは皆、互いに依存し合っているということを再認識させることができるでしょう。私たちは皆、一つの家族の一員であり、共同体の状況を改善するために最善を尽くさなければなりません。周囲の人々から援助を受けなかったらどうなるかを想像することは、ジュニアユースが奉仕の重要性を認識する助けとなることもあります。

---

---

---

---

---

---

---

---

- 奉仕についての話し合いは、他者に奉仕する個人の努力の問題にとどまらず、ジュニアユースがグループとして何ができるかを考える必要があります。もちろん、最初の試<sup>こころ</sup>みは短期間で、簡単に達成できる目標で行うことが重要です。そうすることで、ジュニアユースは自分たちの集団としての能力に自信を持ち、協力することを学び、より継続的

な奉仕プロジェクトに取り組む可能性が開けてくるからです。アニメーターは当初から、ジュニアユースが自分たちの共同体の生活について考え、その改善にどのように貢献できるかを考えるプロセスを開始するよう導く必要があります。共同体を観察することが求められる問いかけをジュニアユースにすることは、この関連で、彼らの助けになるでしょう。こうして、ジュニアユースは病気の人を見舞うという簡単な奉仕活動から始め、徐々にプロジェクト——例えば、植樹プロジェクト——に着手するようになり、こういったプロジェクトでは、地域の適切な機関に相談したり、友人や親からの援助を引き出したり、長期的な調整をしたりする必要があります。当然ながら、グループの最初の数回の集まりでは、効果的な協力に必要な技能や能力、態度や資質について話し合われるでしょう。

- ・ 健康的なレクリエーション、特にスポーツも、ジュニアユース・グループの最初の集まりで取り上げなければならないテーマです。繰り返しになりますが、関連する概念や問題点の検討に加え、アニメーターは、集まりの最中や特別な機会に実施できるレクリエーション活動の種類をジュニアユースが特定するのを手助けしたいと思うでしょう。この点については注意が必要です。激しい運動は、ジュニアユースが持つエネルギーの自然な表現です。世界各地の経験から明らかなように、グループ内でスポーツよりも芸術的な活動を優先させることは、淘汰のプロセスを開始することになり、やがて参加し続けることに抵抗を感じるジュニアユースも出てきます。

---

---

上記のすべての点に関して、アニメーターが経験を積むにつれて、ジュニアユースが、互いに補完する活動、つまり、さまざまなテキストを学んで得た洞察や、自分たちが守ろうとしている高い理想の実践的な表現となる活動を考案し、実行するのをより上手に支援できるようになることを理解することが重要です。

## セクション 30

本書の最初の二つの章での話し合いは、主に概念的なものでしたが、アニメーターとして奉仕するための準備は、この章において、ある種の実践的な次元にも移行しています。あなたがこの奉仕の分野で経験を積むにつれて、本書のページは振り返りのためのアイデアを提供し続けるでしょう。多くのアニメーターは、前のセクションで述べた要点が特に役に立ち、何度も参照し、自分の経験や仲間のアニメーターとの話し合いをノートに記録しています。差し当たって、今、あなたが着手しようとしている努力の意味するところを振り返ることで、この章を終えることとしましょう。世界中のユースに向けられた万国正義院の言葉は、この奉仕の道を歩もうとするすべての人に当てはまります。

決して驚くことではありませんが、ジュニアユース、そして子供たちの道徳的・精神的成長を助け、共に奉仕するという能力を養い、真の交友関係を <sup>はぐく</sup> 育むという分野で、最も経験を積みつつあるのは、あなた方の年齢層です。皆さんは、これらの子供やジュニアユースが通り抜けることになる世界について、そこにある落とし穴や、またそれが提供する機会に気づいており、したがって、精神的強化と準備の重要性をよく理解しています。バハオラが人類の内面生活と外的状態の両方を変革するために出現されたことを十分に意識し、皆さんは、自分よりも年若い人たちが人格を磨き、地域社会の安寧のために責任を担う準備をするよう援助しています。彼らが思春期に入ると、皆さんは、彼らの表現力強化、および彼らの中にしっかりした道德感が根付くように援助します。そのような活動を、「言葉ではなく行動をもつて <sup>なんじ</sup> 汝らの飾り <sup>かざ</sup> となせ」というバハオラの言葉に注意を向けながら実施するによって、皆さん自身の目的意識はより明確になっています。<sup>52</sup>

## 参考文献

1. From a letter dated 11 June 2006 written on behalf of the Universal House of Justice to an individual, in *Social Action: A Compilation Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2020), no. 117, p. 62.
2. From a letter dated 19 July 2006 written on behalf of the Universal House of Justice to two individuals.
3. From a letter dated 17 April 1936 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *Directives from the Guardian* (New Delhi: Bahá'í Publishing Trust, 1973), p. 84.
4. 'Abdu'l-Bahá, in the compilation *Social Action*, no. 190, pp. 112–13.
5. From a talk given on 20 September 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), par. 9, p. 471.
6. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 4 May 1912, *ibid.*, par. 9, p. 125.
7. J.E.エッセルモント博士著「バハオラと新時代」に引用されているアブドル・バハの言葉
8. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 4 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 7, p. 123.
9. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 26 May 1912, *ibid.*, par. 1, p. 204.
10. 'Abdu'l-Bahá, in *Some Answered Questions* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2014, 2016 printing), no. 84.2, p. 440.
11. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, p. 276. (authorized translation)
12. *Khitábát: Talks of 'Abdu'l-Bahá* (Hofheim-Langenhain: Bahá'í-Verlag, 1984), pp. 131–32. (authorized translation)
13. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 4 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 8, p. 124.
14. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 230.1, p. 428.
15. アブドル・バハ、パリ講話集 no.29, 1911年11月10日の講話から
16. *Abdul Baha on Divine Philosophy* (Boston: The Tudor Press, 1918), p. 30.
17. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 24.1, pp. 78–79.
18. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1909, 1930 printing), vol. 1, p. 63. (authorized translation)
19. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 155.4, p. 253.

20. アブドル・バハ、聖なる文明の秘訣
21. The Tabernacle of Unity: Bahá'u'lláh's Responses to Mánikchí Šáhib and Other Writings (Haifa: Bahá'í World Centre, 2006), no. 1.11, pp. 7–8.
22. アブドル・バハ、パリ講話集 no.12, 1911年10月27日の講話から
23. Tablets of Abdul-Baha Abbas, vol. 1, pp. 71–72.
24. Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá, no. 97.1, pp. 177–78.
25. Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2005 printing), no. 6.40, p. 72.
26. The Proclamation of Bahá'u'lláh to the Kings and Leaders of the World (Haifa: Bahá'í World Centre, 1967, 1978 printing), p. 78.
27. バハオラ、落穂集 43
28. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 3 December 1912, published in The Promulgation of Universal Peace, par. 3, pp. 648–49.
29. Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas, no. 9.20, p. 143.
30. Ibid., no. 11.28, p. 172.
31. Tablets of Abdul-Baha Abbas, vol. 1, p. 31. (authorized translation)
32. Ibid., p. 194. (authorized translation)
33. Bahá'u'lláh, Epistle to the Son of the Wolf (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2016 printing), p. 12.
34. Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas, no. 11.27, p. 172.
35. Ibid., no. 11.30, pp. 172–73.
36. Ibid., no. 13.15, p. 199.
37. 落穂集 18
38. Prayers and Meditations by Bahá'u'lláh (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1987, 2008 printing), XXXII, p. 41.
39. The Tabernacle of Unity, no. 1.2, p. 4.
40. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 5 May 1912, published in The Promulgation of Universal Peace, par. 3, p. 130.
41. Prayers and Meditations, CXIII, p. 191.
42. バハオラ、「バハイ祈りの書」(2015年版)、p.164
43. Prayers and Meditations, CLXXVIII, p. 299.
44. Ibid., LXXIX, pp. 131–32.
45. バハオラ、「バハイ祈りの書」(2015年版)、p.123
46. アブドル・バハ、「バハイ祈りの書」(2015年版)、p.131
47. 同上、p.207
48. バハオラ、同上、p.166

- 49. バブ、同上、p.170
- 50. アブドル・バハ、同上、p.256
- 51. Prayers and Meditations, XCI, pp. 154–55.
- 52. 万国正義院、世界中で開催予定の 114 のユース大会の参加者に宛てて書かれた  
2013 年 7 月 1 日付けメッセージ